

応用情報技術者試験 (レベル3) シラバス

— 情報処理技術者試験における知識・技能の細目 —

Ver 4.0



独立行政法人 情報処理推進機構
IT人材育成本部 情報処理技術者試験センター

本シラバスに記載されている会社名又は製品名は、それぞれ各社又は各組織の商標又は登録商標です。
なお、本シラバスでは、® 及び TM を明記していません。

目 次

■ はじめに	1
■ シラバスの構成	1

◆テクノロジー系◆

大分類 1：基礎理論

中分類 1：基礎理論	2
1.離散数学	2
2.応用数学	2
3.情報に関する理論	3
4.通信に関する理論	5
5.計測・制御に関する理論	6
中分類 2：アルゴリズムとプログラミング	7
1.データ構造	7
2.アルゴリズム	7
3.プログラミング	9
4.プログラム言語	9
5.その他の言語	10

大分類 2：コンピュータシステム

中分類 3：コンピュータ構成要素	12
1.プロセッサ	12
2.メモリ	14
3.バス	15
4.入出力デバイス	15
5.入出力装置	16
中分類 4：システム構成要素	18
1.システムの構成	18
2.システムの評価指標	19
中分類 5：ソフトウェア	21
1.オペレーティングシステム	21
2.ミドルウェア	24
3.ファイルシステム	24
4.開発ツール	25
5.オープンソースソフトウェア	26
中分類 6：ハードウェア	27
1.ハードウェア	27

大分類 3：技術要素

中分類 7：ヒューマンインタフェース	29
1.ヒューマンインタフェース技術	29
2.インタフェース設計	29
中分類 8：マルチメディア	31
1.マルチメディア技術	31
2.マルチメディア応用	31
中分類 9：データベース	33
1.データベース方式	33
2.データベース設計	34
3.データ操作	35
4.トランザクション処理	36
5.データベース応用	37
中分類 10：ネットワーク	38
1.ネットワーク方式	38
2.データ通信と制御	39

3.通信プロトコル	40
4.ネットワーク管理.....	41
5.ネットワーク応用.....	42
中分類 11：セキュリティ	44
1.情報セキュリティ	44
2.情報セキュリティ管理	46
3.セキュリティ技術評価	48
4.情報セキュリティ対策	48
5.セキュリティ実装技術	49
大分類 4：開発技術	
中分類 12：システム開発技術.....	51
1.システム要件定義.....	51
2.システム方式設計.....	51
3.ソフトウェア要件定義	52
4.ソフトウェア方式設計・ソフトウェア詳細設計.....	54
5.ソフトウェア構築.....	58
6.ソフトウェア結合・ソフトウェア適格性確認テスト	60
7.システム結合・システム適格性確認テスト.....	61
8.導入	62
9.受入れ支援.....	62
10.保守・廃棄	63
中分類 13：ソフトウェア開発管理技術	65
1.開発プロセス・手法	65
2.知的財産適用管理.....	67
3.開発環境管理.....	67
4.構成管理・変更管理	68
◆マネジメント系◆	
大分類 5：プロジェクトマネジメント	
中分類 14：プロジェクトマネジメント	70
1.プロジェクトマネジメント	70
2.プロジェクト統合マネジメント	71
3.プロジェクトステークホルダマネジメント	71
4.プロジェクトスコープマネジメント.....	72
5.プロジェクト資源マネジメント	72
6.プロジェクトタイムマネジメント	73
7.プロジェクトコストマネジメント	74
8.プロジェクトリスクマネジメント	74
9.プロジェクト品質マネジメント	75
10.プロジェクト調達マネジメント	75
11.プロジェクトコミュニケーションマネジメント	76
大分類 6：サービスマネジメント	
中分類 15：サービスマネジメント	77
1.サービスマネジメント	77
2.サービスの設計・移行	77
3.サービスマネジメントプロセス	78
4.サービスの運用	80
5.ファシリティマネジメント	81
中分類 16：システム監査.....	82
1.システム監査.....	82
2.内部統制	85

◆ストラテジ系◆

大分類 7：システム戦略

中分類 17：システム戦略.....	86
1.情報システム戦略.....	86
2.業務プロセス.....	89
3.ソリューションビジネス.....	89
4.システム活用促進・評価.....	90
中分類 18：システム企画.....	92
1.システム化計画.....	92
2.要件定義.....	93
3.調達計画・実施.....	94

大分類 8：経営戦略

中分類 19：経営戦略マネジメント.....	96
1.経営戦略手法.....	96
2.マーケティング.....	97
3.ビジネス戦略と目標・評価.....	98
4.経営管理システム.....	99
中分類 20：技術戦略マネジメント.....	100
1.技術開発戦略の立案.....	100
2.技術開発計画.....	100
中分類 21：ビジネスインダストリ.....	102
1.ビジネスシステム.....	102
2.エンジニアリングシステム.....	103
3.e-ビジネス.....	103
4.民生機器.....	104
5.産業機器.....	105

大分類 9：企業と法務

中分類 22：企業活動.....	106
1.経営・組織論.....	106
2.OR・IE.....	108
3.会計・財務.....	109
中分類 23：法務.....	111
1.知的財産権.....	111
2.セキュリティ関連法規.....	112
3.労働関連・取引関連法規.....	113
4.その他の法律・ガイドライン・技術者倫理.....	114
5.標準化関連.....	116

■ はじめに

「応用情報技術者試験」の出題範囲¹⁾を更に詳細化し、レベル3の知識・技能の幅と深さを体系的に整理、明確化した「シラバス」(情報処理技術者試験における知識・技能の細目)を策定しましたので、公表します。

本シラバスが、試験の合格を目指す受験者の方々にとっての学習指針として、また、企業、学校の教育プロセスにおける指導指針として、有効に活用されることを期待するものです。

なお、本シラバスは、技術動向などを踏まえて、内容の追加、変更、削除など、適宜見直しを行ってまいりますので、あらかじめご承知おきください。

■ シラバスの構成

本シラバスは、「共通キャリア・スキルフレームワーク²⁾」の知識体系(BOK: Body of Knowledge)に沿って、「応用情報技術者試験」の午前と午後の出題範囲を、次の図1のとおり、小分類ごとに学習の目標とその具体的な内容を示したものです。

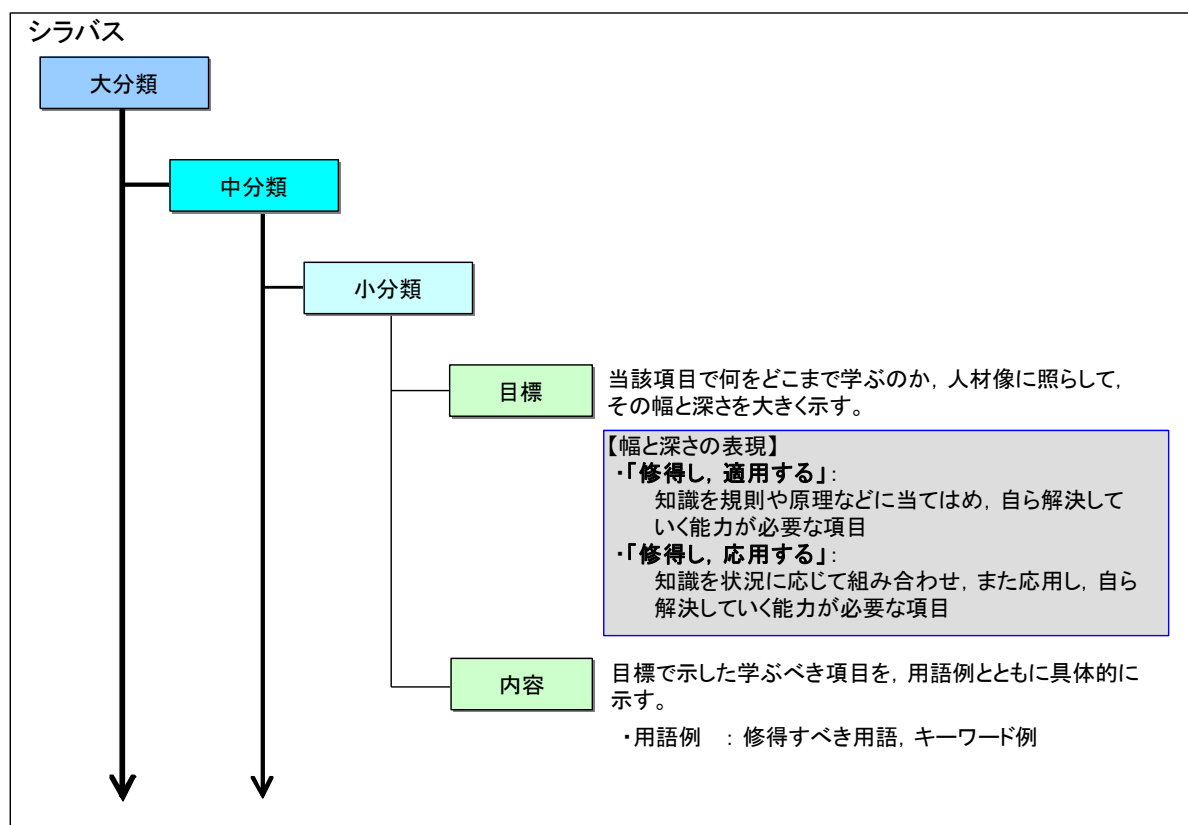


図1 シラバスの構成

注¹⁾ 「試験要綱」7. 出題範囲 http://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/_index_hanni_skill.html

注²⁾ 「共通キャリア・スキルフレームワーク」 <http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/csfv1.html>

大分類 1 : 基礎理論 中分類 1 : 基礎理論

1. 離散数学

【目標】

- 基数，基数の変換，数値の表現，算術演算と精度など，コンピュータで扱う数値表現を修得し，応用する。
- 集合，論理演算の基本法則，手法を修得し，応用する。

(1) 基数

2 進数，8 進数，10 進数，16 進数， n 進数の表現，2 進数と 10 進数などの基数の変換手法を理解する。

(2) 数値の表現

負の数の表現（補数表現），小数の表現を理解する。

用語例 固定小数点数，単精度浮動小数点数，倍精度浮動小数点数，仮数，指数，BCD (Binary Coded Decimal : 2 進化 10 進)，パック 10 進数

(3) 算術演算と精度

加減乗除，表現可能な数値の範囲，シフト演算，演算精度（誤差とその対策）など，コンピュータでの算術演算を理解する。

用語例 論理シフト，算術シフト，桁落ち，情報落ち，丸め，打ち切り，オーバフロー（あふれ），アンダフロー，単精度，倍精度

(4) 集合と命題

集合，命題，ベン図の手法と考え方を理解する。

用語例 和集合，積集合，補集合，部分集合，真，偽，命題論理

(5) 論理演算

論理式の表現，論理演算，ド・モルガンの法則などの基本法則，真理値表，カルノー図の手法を理解する。

用語例 否定，論理和，論理積，排他的論理和，否定論理和，否定論理積，論理関数，分配則

2. 応用数学

【目標】

- 確率・統計の計算，分析手法を修得し，応用する。
- 数値解析，グラフ理論，待ち行列理論など，数学的原理を修得し，応用する。

(1) 確率と統計

① 確率

順列，組合せ，場合の数，確率とその基本定理，確率分布（離散型，連続型）と期待値，マルコフ過程を理解する。

用語例 階乗，加法定理，乗法定理，正規分布，ポアソン分布，指数分布，カイ二乗分布，確率密度

② 統計

度数分布表，ヒストグラム，代表値，ばらつき，相関関係，回帰直線，分散分析，検定など統計分析の手法を理解する。

用語例 中央値（メジアン），最頻値（モード），平均値，標準偏差，分散，相関係数，推定，回帰分析，帰無仮説，有意水準，カイ二乗検定

(2) 数値計算

連立一次方程式の解法など，数値計算に関する基本的な内容を理解する。

用語例 行列，対数，掃出法，近似解法，収束，誤差

(3) 数値解析

二分法，補間法，オイラー法など，近似解を数値的に求める考え方や計算過程で生じる誤差を理解する。

用語例 数値積分，シンプソン法，ニュートン法，絶対誤差，相対誤差，丸め誤差，打ち切り誤差

(4) 数式処理

コンピュータを用いて，数式を記号的に代数処理する数式処理システムとそのアルゴリズムを理解する。

用語例 因数分解，微分，積分

(5) グラフ理論

グラフ理論の基本的な概念とその応用を理解する。

用語例 無向グラフ，有向グラフ，完全グラフ，重みつきグラフ

(6) 待ち行列理論

待ち行列モデルの構成要素，考え方，M/M/1 モデルにおける計算，乱数を使用したシミュレーションを理解する。

用語例 サービス時間，到着間隔，平均到着率，平均サービス率

(7) 最適化問題

最適化問題とは何か，線形計画法，PERT，最短経路問題などの考え方を理解する。

用語例 動的計画法

3. 情報に関する理論

【目標】

- 情報理論，符号理論の考え方，仕組みを修得し，応用する。
- コードによる文字の表現を修得し，応用する。
- 述語論理，形式言語，オートマトンなど，情報に関する理論の考え方，仕組みを修得し，応用する。
- 正当性理論の考え方，仕組みを修得し，応用する。
- AI（人工知能）の考え方，仕組みを修得し，応用する。
- コンパイラ理論，プログラム言語論や意味論の考え方，仕組みを修得し，応用する。

(1) 情報理論

情報量の概念，事象の生起確率と情報量との関係を理解する。

(2) 符号理論

アナログとデジタルの特徴，量子化，標本化，A/D 変換などの符号化，符号化の目的，情報伝送における信頼性，効率性，安全性の向上などの効果を理解する。

用語例 通信路符号化，ハフマン符号，データ圧縮

(3) 文字の表現

代表的な文字コードを理解する。

用語例 ASCII コード，EUC (Extended UNIX Code : 拡張 UNIX コード)，JIS コード，シフト JIS コード，Unicode，UCS

(4) 述語論理

述語論理の考え方，^{えんえき}演繹推論と帰納推論の違いを理解する。

用語例 関係データベース

(5) 形式言語

形式言語とは何か，言語の定義，演算，種類，文法を理解する。また，BNF，構文図式などの表記法，正規表現，文脈自由文法を理解する。

用語例 逆ポーランド表記法

(6) オートマトン

有限オートマトンの概念，形式言語との関係，チューリング機械との関係，状態遷移表，状態遷移図を理解する。

用語例 プッシュダウンオートマトン

(7) 正当性理論

プログラムの正当性理論とは何か，部分正当性，全正当性の基本的な考え方，仕組みを理解する。

用語例 停止問題

(8) 計算量

計算量の理論の考え方を理解する。

用語例 時間計算量，領域計算量，オーダー記号，P (Polynomial) 問題，NP (Non-deterministic Polynomial) 問題，NP 完全問題

(9) AI (Artificial Intelligence : 人工知能)

人工知能の基本的な考え方，仕組みを理解する。

用語例 知識工学，学習理論，機械学習，ニューラルネットワーク，ディープラーニング (深層学習)，エキスパートシステム，解析型問題，合成型問題，知識ベース，推論エンジン

(10) コンパイラ理論

コンパイラの役割，コンパイルの過程，字句解析，構文解析，最適化の基本的な考え方，仕組みを理解する。

用語例 文脈自由文法，意味解析，コード生成，中間言語，目的プログラム，形式言語，オートマトン

(11) プログラム言語論・意味論

プログラム言語は、処理対象を表現するために構文と意味があること、各言語で構文と意味がどのように定義されるか、データ構造とアルゴリズムがどのように表現されるか、構造化と抽象化がどのように定義されるかなど、基本的な考え方、仕組みを理解する。

用語例 手続型言語、関数型言語、論理型言語、オブジェクト指向言語

4. 通信に関する理論

【目標】

- 情報を伝送するための技術について、代表的な方式の考え方、仕組みを修得し、応用する。

(1) 伝送理論

① 伝送路

伝送路上でデータがどのように伝送されるか、伝送路の考え方、仕組みを理解する。

用語例 単方向、半二重、全二重、2線、4線、直列、並列

② 変復調方式

デジタルデータをアナログ伝送路を介して送るために必要な処理である変調、それを受信側で元に戻す処理である復調の代表的な方式の考え方、仕組みを理解する。

用語例 AM (Amplitude Modulation: 振幅変調), FM (Frequency Modulation: 周波数変調), PM (Phase Modulation: 位相変調), PCM (Pulse Code Modulation: パルス符号変調), QAM (Quadrature Amplitude Modulation: 直交振幅変調), PWM (Pulse Width Modulation: パルス幅変調), モデム (Modem)

③ 多重化方式

一つの伝送路を複数の通信で同時に使用する多重化について、代表的な方式の考え方、仕組みを理解する。

用語例 FDM (Frequency Division Multiplexing: 周波数分割多重), TDM (Time Division Multiplexing: 時分割多重), CDM (Code Division Multiplexing: 符号分割多重), WDM (Wavelength Division Multiplexing: 波長分割多重)

④ 誤り検出・訂正

偶数パリティ、奇数パリティなど、信頼性を高める技術の考え方、仕組みを理解する。

用語例 CRC, ハミング符号, パリティチェック, ECC, チェックサム

⑤ 信号同期方式

送信側と受信側で送受信のタイミングを合わせる信号同期制御について、代表的な方式の考え方、仕組みを理解する。

用語例 ビット同期, キャラクタ同期, フラグ同期, 調歩同期, スタートビット, ストップビット, SYN 同期, フレーム同期

⑥ 暗号化

暗号化に関連する技術の考え方、仕組みを理解する。

用語例 符号理論, 公開鍵, 秘密鍵, PKI (Public Key Infrastructure: 公開鍵基盤)

⑦ データ圧縮

データ圧縮に関連する技術の考え方、仕組みを理解する。

用語例 符号理論，ランレングス，ハフマン符号

5. 計測・制御に関する理論

【目標】

- 信号処理に関する考え方，仕組みを修得し，応用する。
- 制御の必要性，考え方，仕組みを修得し，応用する。

(1) 信号処理

アナログ波形を分析して，雑音を除去し，特徴を抽出する信号処理の考え方，仕組みを理解する。

用語例 DFT (Discrete Fourier Transform：離散フーリエ変換)，FFT (Fast Fourier Transform：高速フーリエ変換)，インパルス応答，フィルタ（ローパスフィルタ，ハイパスフィルタ，バンドパスフィルタ，ディジタルフィルタ），サンプリング定理，D/A 変換，A/D 変換

(2) 制御に関する理論

① 制御の考え方，仕組み

制御の考え方，仕組みを理解する。また，フィードバック制御，フィードフォワード制御など，各種制御の考え方，仕組みを理解する。

用語例 リアルタイム OS，MPU アーキテクチャ，オープンループ，応答特性，制御安定性，PWM (Pulse Width Modulation：パルス幅変調) 制御

② センサ・アクチュエータの種類と動作特性

コンピュータ制御では，制御対象の光，温度，圧力などの状態をセンサで検出し，コンピュータが判断して，アクチュエータを通じて電動，油圧，水圧，空気圧などの機械的な動作に変換し，制御対象を一定の状態に保つなどの制御を行うことを理解する。

用語例 光学センサ，イメージセンサ，レーザセンサ，赤外線センサ，X 線センサ，磁気センサ，加速度センサ，ジャイロセンサ，超音波センサ

③ 計測システムの種類と動作特性

測位システムなど，コンピュータを利用した高度な計測システムの考え方，仕組みを理解する。

用語例 GPS，基地局測位，無線 LAN アクセスポイント測位

1. データ構造

【目標】

- データ構造の考え方, 仕組みを修得し, 応用する。
- 代表的なデータ構造の種類, 特徴, 操作を修得し, 応用する。

(1) データ構造

データ構造の考え方, 仕組みや, BNF を使用したデータ構造の定義方法を理解する。

(2) データ構造の種類

① 配列

配列の考え方を理解し, データの格納方法, 取出し方法などの操作を理解する。

用語例 多次元配列, 静的配列, 動的配列

② リスト

リストの考え方, その操作を理解する。

用語例 線形リスト, 単方向リスト, 双方向リスト, 環状リスト, リンク付リスト

③ スタックとキュー

スタックとキューの考え方, その操作を理解する。

用語例 FIFO, LIFO, プッシュ, ポップ

④ 木構造

木構造の種類と考え方, 木の巡回法, 節の追加や削除, ヒープの再構成などを理解する。

用語例 根, 葉, 枝, 2 分木, 完全 2 分木, バランス木, 順序木, 多分木, 探索木, 2 分探索木, 深さ優先探索, 幅優先探索, 先行順, 後行順, 中間順

2. アルゴリズム

【目標】

- アルゴリズム, 流れ図の考え方, 表現方法を修得し, 応用する。
- 代表的なアルゴリズムを修得し, 応用する。
- アルゴリズムの設計方法を修得し, 応用する。

(1) 流れ図

アルゴリズムや流れ図 (フローチャート) の考え方, 記号, 順次, 判定, 繰返しなど, 処理手順の表現方法を理解し, 流れ図を描く方法を理解する。

用語例 端子, 処理, 定義済み処理, 判断, ループ端, データ, 線

(2) 代表的なアルゴリズム

① 整列・併合・探索のアルゴリズム

整列のアルゴリズム, 併合のアルゴリズム, 探索のアルゴリズムを理解する。

用語例 選択ソート, バブルソート, マージソート, 挿入ソート, シェルソート, クイックソート, ヒープソート, 線形探索法, 2 分探索法, ハッシュ表探索法, シノニ

ム対策

② 再帰のアルゴリズム

再帰的アルゴリズムの考え方、特徴、実現に適したデータ構造を理解する。

③ グラフのアルゴリズム

グラフのアルゴリズムを理解する。

用語例 深さ優先探索，幅優先探索，最短経路探索

④ 文字列処理のアルゴリズム

文字列処理のアルゴリズムを理解する。

用語例 文字列照合，KMP 法（クヌース・モリス・プラット法），BM 法（ボイヤ・ムーア法）

⑤ ファイル処理のアルゴリズム

バッチ処理などで使用される整列処理，併合処理，コントロールブレーク処理，編集処理のアルゴリズムを理解する。

⑥ 近似アルゴリズム

近似アルゴリズムを理解する。

用語例 近似計算

⑦ 確率アルゴリズム

モンテカルロ法を例として確率アルゴリズムを理解する。

⑧ 遺伝的アルゴリズム

最適化問題への進化論の適用例であることを理解する。

⑨ 自然言語処理のアルゴリズム

情報検索，機械翻訳などを例に，自然言語処理のアルゴリズムを理解する。

⑩ データ圧縮のアルゴリズム

データ圧縮のアルゴリズムを理解する。

用語例 ランレングス法，ハフマン法

⑪ 図形に関するアルゴリズム

3次元図形処理アルゴリズムを理解する。

用語例 Zバッファ法，スキャンライン法，レイトレーシング法

⑫ 記憶域管理アルゴリズム

OS のメモリ管理の方法について，空きメモリ管理のためのデータ構造，メモリの割当て，開放などのアルゴリズムを理解する。

(3) アルゴリズム設計

アルゴリズムは，擬似言語，流れ図，決定表（デシジョンテーブル）などを用いて表現することを理解する。また，アルゴリズムの設計方法を理解する。

用語例 再帰，分割統治法

3. プログラミング

【目標】

- プログラミング作法，コーディング基準を修得し，応用する。
- プログラム言語の文法の表記法を修得し，応用する。

(1) プログラミング

① プログラミング作法とコーディング基準

プログラミング作法とコーディング基準の目的，効果，種類を理解する。また，プログラミング作法とコーディング基準を守らない場合に起こる弊害を理解する。

用語例 字下げ（インデントーション），ネストの深さ，命名標準，使用禁止命令，プログラムの機能性・効率性・使用性・保守性の向上

② プログラム構造

プログラムの信頼性，保守性の観点からプログラム構造を理解する。

用語例 モジュール分割，独立性，メインルーチン，サブルーチン，DLL

③ データ型

プログラム言語で使用される代表的なデータ型を理解する。

用語例 整数型，実数型，論理型，文字型，抽象データ型，構造型

④ Web プログラミング

Web サーバと Web クライアントの仕組みを理解し，Web サーバ，Web クライアントにおけるプログラムの役割と作成方法，Web アプリケーションプログラムを開発する環境を理解する。

用語例 サーバサイドプログラミング，リッチクライアント，Ajax，Apache，JSP（Java Server Pages），HTML5 技術（canvas，WebSocket，Geolocation API ほか）

(2) 文法の表記法

プログラム言語の構文を定義するために，BNF などのメタ言語を使用することを理解する。

用語例 EBNF（Extended Backus Naur Form：拡張バックス記法）

4. プログラム言語

【目標】

- プログラム言語の種類，特徴，記述方法を修得し，応用する。
- プログラム言語の制御構造を修得し，応用する。
- プログラムの実行に必要な記憶域の考え方，利用法を修得し，応用する。
- プログラム言語がもつ構文規則，意味規則を修得し，応用する。

(1) プログラム言語の種類と特徴

① プログラム言語の変遷と分類

プログラム言語は，機械語，アセンブラ言語，高水準言語と発展してきたこと，プログラム言語の分類を理解する。

用語例 手続型言語，関数型言語，論理型言語，オブジェクト指向言語，スクリプト言語

② 手続型言語

代表的な手続型言語の特徴，記述方法を理解する。

用語例 Fortran, COBOL, PL/I, Pascal, BASIC, C

③ オブジェクト指向言語

代表的なオブジェクト指向言語の特徴、記述方法を理解する。

用語例 Java, C++

④ スクリプト言語

代表的なスクリプト言語の特徴、記述方法を理解する。

用語例 ECMAScript, Perl, PHP, Python, Ruby

⑤ 共通言語基盤 (CLI : Common Language Infrastructure)

JIS X 3016 (ISO/IEC 23271) で標準化されている共通言語基盤 (CLI) の特徴、利用法を理解する。

用語例 共通言語基盤 (CLI)

(2) プログラム言語の制御構造

プログラム言語の基本的な制御構造、手続と関数、逐次制御と並列制御を理解する。

用語例 連接、選択、繰返し、手続呼出し、パラメータ、仮引数、実引数、値呼出し、参照呼出し、制御の流れ、再帰呼出し、プロセス、擬似並列制御

(3) プログラム言語の記憶域

プログラムの実行に必要な記憶域の考え方、利用法を理解する。

用語例 目的プログラムテキスト、定数、静的変数、自動変数、ヒープ、ガベージコレクション、ブロック、スコープ

(4) プログラム言語の記述

プログラム言語がもつ構文規則、形式的意味論を中心とした意味規則を理解する。

用語例 プログラムの構成単位、文脈自由文法、構文記法、BNF

5. その他の言語

【目標】

- 代表的なマークアップ言語の種類、特徴、記述方法を修得し、応用する。
- コンピュータで使用されるその他の言語を修得し、応用する。

(1) マークアップ言語

① HTML

Web ページの作成に利用される HTML の特徴、基本的な記述方法を理解する。

用語例 開始タグ、終了タグ、DTD (Document Type Definition : 文書型定義), SGML

② XML

HTML の機能に加えて、独自にタグを定義することができる機能を備え、主にインターネットを介したデータ交換に利用されている XML の特徴、基本的な記述方法を理解する。

用語例 DOM (Document Object Model), SOAP (Simple Object Access Protocol), SVG (Scalable Vector Graphics), SAX (Simple API for XML), XML Schema

③ XHTML

HTML を XML で再定義したマークアップ言語である XHTML の特徴，基本的な記述方法を理解する。

用語例 XHTML Basic, XHTML Modulation

④ スタイルシート

HTML や XML などマークアップ言語の構造と表示形式を分離するための仕様であるスタイルシートを理解する。

用語例 CSS (Cascading Style Sheets : 段階スタイルシート), XSL (Extensible Stylesheet Language : 拡張可能なスタイルシート言語)

(2) その他の言語

オブジェクト指向設計のための表記法である UML やその他の言語を理解する。

用語例 クラス図，シーケンス図，オブジェクト図，コラボレーション図，ステートチャート図，操作，属性，ロール名，ユースケース図，SDL (Specification and Description Language), ADL (Architecture Description Language : アーキテクチャ記述言語)，データ定義言語 (DDL : Data Definition Language)

1. プロセッサ

【目標】

- コンピュータの種類，構成を修得し，応用する。
- プロセッサの種類，アーキテクチャ，構造，方式，動作原理を修得し，応用する。
- プロセッサの性能を表す指標を修得し，応用する。
- プロセッサの高速化技術，高信頼化技術を修得し，応用する。

(1) コンピュータの種類

パーソナルコンピュータ（PC），ワークステーション，スーパーコンピュータなどの特徴，用途を理解する。

用語例 デスクトップ PC，ノート PC，サーバ，携帯端末（スマートフォン，タブレット端末ほか），汎用コンピュータ，制御用コンピュータ，マイクロコンピュータ

(2) コンピュータの構成

コンピュータが五つの装置から構成されること，装置間の制御の流れ，データの流れを理解する。

用語例 演算装置，制御装置，記憶装置，入力装置，出力装置

(3) プロセッサの種類

プロセッサの種類，それぞれの特徴，用途を理解する。

用語例 CPU，GPU，DSP

(4) プロセッサのアーキテクチャ

① データ処理の単位

プロセッサのアーキテクチャによって，プロセッサが 1 命令で処理するデータサイズに違いがあることを理解する。

用語例 ビット，キャラクタ，バイト，ワード

② 命令形式

1 命令で処理するオペランドの数で命令の形式を分類できることを理解する。

用語例 1 オペランド形式，2 オペランド形式

③ 命令セット

プロセッサのアーキテクチャによって命令セットに違いがあること，プロセッサアーキテクチャとしては RISC と CISC があることを理解する。

用語例 固定長命令，可変長命令

(5) プロセッサの構造と方式

プロセッサを構成する制御装置と演算装置の役割，それらを構成する加算器，レジスタ，デコーダ（命令解読器，復号器）などの役割，プロセッサの能力とシステムの処理能力の関係を理解する。また，命令実行時のレジスタの動作を理解する。

用語例 アキュムレータ，補数器，乗算器，積和演算器，命令アドレスレジスタ（命令カウンタ，プログラムカウンタ，逐次制御カウンタ），IR（Instruction

register：命令レジスタ), GR (General Register：汎用レジスタ), インデックスレジスタ (指標レジスタ), ベースレジスタ, MAR (Memory Address Register：メモリアドレスレジスタ), DR (Data Register：データレジスタ), MR (Memory Register：メモリレジスタ), スタックポインタ

(6) プロセッサの動作原理

① 演算の仕組み

AND 回路, OR 回路, NOT 回路などの基本となる論理回路の組合せによって半加算器, 全加算器が実現され, 演算が行われていることを理解する。

用語例 順序回路, 組合せ回路, NAND 回路

② 命令とアドレッシング

代表的な機械語命令の種類, 命令語の構成, 命令の実行手順 (命令の取出し, 命令部の解読, データの取出し, 命令の実行), アドレス修飾を理解する。また, 機械語演算のバイナリ表現, アセンブラの記号表現との対応, 相互の変換を行う方法を理解する。

用語例 算術演算命令, 論理演算命令, 転送命令, 比較命令, 分岐命令, シフト命令, 入出力命令, アドレス部 (オペランド), フェッチ, アドレス計算, アドレス方式, アドレス修飾, 直接アドレス指定, 間接アドレス指定, インデックスアドレス指定 (インデックス修飾), ベースアドレス指定, 相対アドレス指定, 絶対アドレス指定, 即値アドレス指定, 有効アドレス (実効アドレス)

③ 割込み

割込みの仕組み, 内部割込み, 外部割込みに分類される割込みの種類, 多重割込み時の処理を理解する。

用語例 SVC (SuperVisor Call) 割込み, 入出力割込み, 割込み制御, マシンチェック割込み, プログラム割込み

(7) マイクロプログラム制御

プロセッサの動作を制御する仕組みとして, 1 機械語命令を実行するためのプログラム (マイクロプログラム) をファームウェア化して内蔵する方式があること, その特徴を理解する。

用語例 マイクロプログラムメモリ, マイクロプログラムカウンタ, エミュレーション, 水平型マイクロコード, 垂直型マイクロコード

(8) プロセッサの性能

クロック周波数, CPI (Cycles Per Instruction), MIPS などの意味を理解する。

用語例 サイクルタイム, FLOPS, 命令ミックス

(9) プロセッサの高速化技術

プロセッサの代表的な高速化技術の種類, 特徴を理解する。

用語例 命令パイプライン, スーパーパイプライン, スーパスカラ, VLIW, ベクトル処理方式, ハイパスカラ方式, 超並列プロセッサ, パイプラインハザード, データハザード, 構造ハザード, 制御ハザード, シングルコアプロセッサ, マルチコアプロセッサ, マルチスレッディング

(10) 並列処理

① 命令とデータの流れ

代表的な並列処理方式の種類、特徴を理解する。

用語例 SISD, SIMD, MISD, MIMD

② 並列処理の隘路^{あいろ}

並列化できないため逐次処理にならざるを得ない処理として、複数のプロセッサからの主記憶装置の使用要求の競合、データベースへの同時アクセスによるロックの発生などがあること、それらの処理が能力向上を阻害する原因となることを理解する。

(11) マルチプロセッサシステム

複数のプロセッサを搭載し、高速化や高信頼化を実現したシステムについて、種類、特徴、仕組み、マルチプロセッサシステムを適切に組み合わせた基盤設計を理解する。

用語例 疎結合マルチプロセッサシステム、密結合マルチプロセッサシステム、タンデム結合マルチプロセッサシステム、アレイコンピュータシステム、アムダールの法則、同期、SMP (Symmetric Multi Processing: 対称型マルチプロセッシング)、クラスタ、トーラス、ハイパキューブ、ハイパツリー

2. メモリ

【目標】

- メモリの種類、特徴、メモリ選択の考え方を修得し、応用する。
- 主記憶装置の構成、メモリシステムの構成、記憶階層など、記憶装置の仕組みを修得し、応用する。
- 記録媒体の種類、特徴を修得し、応用する。

(1) メモリの種類と特徴

半導体の記憶回路、磁気記憶、光記憶を用いたメモリなどの種類があること、半導体メモリ (IC メモリ) の種類、特徴 (揮発性、不揮発性、アクセス速度、容量、コスト、物理サイズなど)、代表的な用途、システム設計におけるメモリの選択の考え方を理解する。

用語例 RAM, ROM, DRAM, SRAM, リフレッシュ, マスク ROM, PROM (Programmable Read Only Memory), EPROM (Erasable Programmable Read Only Memory), EEPROM (Electrically Erasable Programmable Read Only Memory), フラッシュメモリ, SDRAM (DDR2 SDRAM, DDR3 SDRAM)

(2) 主記憶装置の構成

主記憶装置の構成、主記憶装置内のデータがアクセスされるアドレス選択動作、アクセス動作などの手順を理解する。

用語例 記憶部、アドレス選択機構、読取り書込み機構、ECC (誤り検出訂正)、パリティ

(3) メモリシステムの構成と記憶階層

記憶階層の構成、キャッシュメモリからデータを主記憶に書き出す方式の種類と特徴を理解する。また、キャッシュメモリからデータを主記憶に書き出す方式を理解する。

用語例 補助記憶、ディスクキャッシュ、ライトスルー、ライトバック、ダイレクト方式、フルアソシエイティブ方式、セットアソシエイティブ方式、連想メモリ、命令キャッシュ、データキャッシュ

(4) アクセス方式

主記憶装置を高速化するメモリアンタリーブ方式を理解する。

用語例 バンク

(5) メモリの容量と性能

アクセス時間とサイクル時間、キャッシュメモリのヒット率、ミス率、実効アクセス時間、ミスペナルティなど、メモリの容量と性能の関係を理解する。

(6) 記録媒体の種類と特徴

取り外しできる記録媒体（リムーバブルメディア）の種類、記録容量、可搬性、利用法、用途などの特徴を理解する。

用語例 読出し専用型、追記型、書換型、ハードディスク、SSD（ソリッドステートドライブ）、光ディスク、CD（CD-ROM、CD-R）、DVD（DVD-ROM、DVD-RAM、DVD-R）、ブルーレイディスク、光磁気ディスク、MO、半導体ディスク、フラッシュメモリ（USBメモリ、SDカード）、ストリーマ、DAT、RAMファイル

3. バス

【目標】

- バスの種類、特徴、制御方式、標準規格を修得し、応用する。

(1) バスの種類と特徴

コンピュータ内部でデータをやり取りするための伝送路であるバスの種類、特徴、内部バス（CPU内部バス）、外部バス、拡張バスなどの分類、転送方式を理解する。

用語例 アドレスバス、データバス、コントロールバス（制御バス）、システムバス、メモリバス、入出力バス、シリアルバス、パラレルバス

(2) バスのシステムの構成

バスのシステムの構成には、命令の読み込みとデータのアクセスを分離したハーバードアーキテクチャ、両者を分離せず同一のバスでアクセスするプリンストンアーキテクチャがあること、アーキテクチャごとの特徴を理解する。

(3) バスの制御方式

複数の装置がバスを共有している場合に、どの装置がバスを使用するかを決めるバスの制御方式や、具体的な動作を理解する。

用語例 バスアービタ、バスマスタ、集中制御方式、割込み方式、ポーリング方式

(4) バスのアクセスモード

外部データバス幅を制御するモードであるバスのアクセスモード、その動作、モードを指定することによって、バス幅を指定できることを理解する。

(5) バスの容量と性能

バス幅を意味するバスの容量、クロック周波数を意味するバスの性能、バスのスループットの計算方法を理解する。

(6) バスの標準規格

バスの標準規格の種類と特徴を理解する。

用語例 PCI（Peripheral Component Interconnect）バス、PCI Express、IEEE 1394、ANSI-X3.131（SCSI）、USB（Universal Serial Bus）

4. 入出力デバイス

【目標】

- 入出力インタフェースの種類、特徴を修得し、応用する。
- デバイスドライバの役割、機能を修得し、応用する。

(1) 入出力インタフェース

① 入出力インタフェースの種類と特徴

入出力インタフェースの種類、転送方式、伝送速度、接続可能台数、用途などの特徴を理解する。

用語例 USB, RS-232C, IEEE 1394, SCSI, HDMI, PC カード, シリアル ATA, Bluetooth, ZigBee, IrDA, NFC, FC (ファイバチャネル)

② データ転送の方式と接続形態

シリアルデータ転送方式とパラレルデータ転送方式や、周辺装置を接続する際の接続形態 (トポロジ) の種類、特徴、使用される機器を理解する。

用語例 アナログ, デジタル, スター接続, カスケード接続, ハブ, デイジーチェーン接続, ターミネータ, ツリー接続

③ 入出力制御の方式

CPU を介さない転送方式である DMA 方式やチャンネル制御方式を理解する。また、入出力割込みが果たす役割を理解する。

用語例 プログラム制御方式, DMA (Direct Memory Access : 直接記憶アクセス) 方式, チャンネルコマンド, 光チャンネル, オフラインシーク, オフラインサーチ, 超高速チャンネル, 拡張チャンネルシステム

④ チャンネルの種類と特徴

チャンネルの種類、特徴、動作モードを理解する。

用語例 マルチプレクサモード, バーストモード

(2) デバイスドライバ

デバイスドライバの役割, プラグアンドプレイ, ホットプラグの機能, デバイスとの同期を理解する。

5. 入出力装置

【目標】

- 代表的な入出力装置の種類, 特徴, 仕組み, 用途を修得し, 応用する。
- 代表的な補助記憶装置の種類, 特徴, 仕組み, 用途を修得し, 応用する。

(1) 入力装置

代表的な入力装置の種類, 特徴, 仕組み, 用途を理解する。

用語例 ポインティングデバイス (マウス, タッチパネル, タッチスクリーン, ジョイスティック, トラックボール, デジタイザ, ペンタブレットほか), キーボード, 音声入力装置, 画像入力装置 (スキャナ, OCR, OMR, デジタルカメラほか), 生体認証装置, バーコード読取装置, 磁気カード読取装置, IC カード読取装置, A/D コンバータ

(2) 出力装置

代表的な表示装置や出力装置の種類, 特徴, 仕組み, 用途を理解する。また, 画像のデータ容量などに関連する計算方法を理解する。

用語例 CRT ディスプレイ, 液晶ディスプレイ, TFT 液晶, STN 液晶, 有機 EL ディスプレイ, プラズマディスプレイ, インタレースモード, ノンインタレースモード, テ

キストモード，グラフィックスモード，パケットピクセル方式，プレナピクセル方式，VGA，SVGA，XGA，電子ペーパー，インパクトプリンタ，ノンインパクトプリンタ，シリアルプリンタ，ラインプリンタ，ページプリンタ，レーザプリンタ，インクジェットプリンタ，3D プリンタ，プロッタ，D/A コンバータ，プロジェクタ，音声出力装置

(3) 補助記憶装置

代表的な補助記憶装置や記憶媒体の種類，特徴，仕組み，用途，装置の諸元に基づく記憶容量や，平均アクセス時間の計算方法を理解する。

用語例 ハードディスク装置，SSD（ソリッドステートドライブ），SD/SDHC/SDXC カード，CD-R/RW ドライブ，ブルーレイドライブ，DVD-R/RW ドライブ，磁気テープ装置，トラック，シリンダ，ブロック化因数，IBG（Interblock Gap：ブロック間隔），セクタ，トラック密度，スピンドル，アクセスアーム，磁気ヘッド，固定ディスク，デフラグメンテーション，シークタイム，サーチタイム，データ転送時間，データ転送速度，ボリューム，ボリュームラベル，見出しラベル，後書きラベル，ディスクアレイ，RAID

(4) その他の入出力装置

代表的な通信制御装置，駆動装置，撮像装置の種類，特徴，仕組み，用途を理解する。

用語例 有線 LAN インタフェースカード，無線 LAN インタフェースカード

1. システムの構成

【目標】

- システムの処理形態、利用形態、適用領域を修得し、応用する。
- 代表的なシステム構成の種類、特徴、システム構成要素間の機能配分を修得し、応用する。
- クライアントサーバシステムの特徴、構成を修得し、応用する。
- システムの信頼性設計の考え方、技術を修得し、応用する。

(1) システムの処理形態・利用形態・適用領域

① 集中処理システム

集中処理システムの仕組み、特徴を理解する。

用語例 コスト性能比、保守要員の集中化

② 分散処理システム

分散処理システムの仕組み、特徴を理解する。

用語例 分散アーキテクチャ、管理責任、機能配分、水平機能分散システム、水平負荷分散システム、垂直機能分散システム、対話型処理、情報資源の組織への対応性、管理責任、TCO

③ 利用形態

バッチ処理、リアルタイム処理などシステムの利用形態の種類と特徴、どのような業務にどの形態が適しているかを理解する。

(2) システム構成

代表的なシステム構成の種類、特徴を理解する。また、システム構成要素間の機能配分、冗長構成によるシステムの信頼性向上、負荷分散によるレスポンス速度の向上などを理解する。

用語例 デュアルシステム、デュプレックスシステム、クラスタ、クラスタリング、タンデム結合、マルチプロセッサシステム、ロードシェアリングシステム、バックアップサイト、ホットサイト、ウォームサイト、コールドサイト、主系（現用系）、従系（待機系）、シェアードエブリング、シェアードナッシング、密結合、疎結合、シンクライアント、ピアツーピア、グリッドコンピューティング、仮想化、VM（Virtual Machine：仮想マシン）、クラウドコンピューティング、SaaS、PaaS、IaaS、マイグレーション

(3) ハイパフォーマンスコンピューティング

高精度な高速演算を必要とするような分野で利用される HPC（High Performance Computing：ハイパフォーマンスコンピューティング）の特徴や、HPC を可能にするためのスーパーコンピュータや複数のコンピュータを LAN などで結んで、CPU などの資源を共有して単一の高性能なコンピュータとして利用できるようにした構成を理解する。

用語例 大規模並列、アレイプロセッサ

(4) クライアントサーバシステム

クライアントサーバシステムの特徴、2 層クライアントサーバシステム、3 層クライアン

トサーバシステムの構成を理解する。また、データベースに対するストアドプロシージャなど、関連技術の特徴を理解する。

用語例 プレゼンテーション層，ファンクション層，データベースアクセス層，クライアント，サーバ，シンククライアントシステム，RPC，ローカル処理の応答速度，コスト性能比，柔軟性，管理責任，サーバへの利用集中

(5) Web システム

Web システムの特徴，アーキテクチャ，構成，各層間の通信の仕組みを理解する。

用語例 Web ブラウザ，Web サーバ

(6) RAID

複数の磁気ディスク装置をまとめて一つの装置として扱い，信頼性や速度を向上させる技術である RAID の種類と特徴，NAS，SAN などストレージ関連技術の特徴を理解する。

用語例 RAID0，RAID1，RAID2，RAID3，RAID4，RAID5，RAID6，ストライピング，ミラーリング，パリティ，チャンクサイズ

(7) 信頼性設計

システム障害の影響を最小限に抑えるフォールトトレラントやヒューマンエラー回避技術など，信頼性設計に関する考え方，どのようなシステム構成，技術があるかを理解する。

用語例 フォールト，信頼性ブロック図，予備切替，並列運転，競合制御，，アクティブスタンバイ構成，アクティブ-アクティブ構成，フォールトトレラントシステム，フォールトアボイダンス，フェールセーフ，フェールソフト，フルプルーフ，無停止コンピュータ，UPS

2. システムの評価指標

【目標】

- システムの性能，信頼性，経済性を測るための考え方，評価指標，それらを高める設計の考え方を修得し，応用する。

(1) システムの性能特性と評価

① システムの性能指標

システムの性能を評価する際の評価項目の種類や特徴，その指標を理解する。

用語例 レスポンスタイム（応答時間），スループット，ベンチマーク，システムモニタ，TPC，SPEC（Standard Performance Evaluation Corporation），SPECint，SPECfp，モニタリング，ギブソンミックス

② キャパシティプランニング

キャパシティプランニングの目的，考え方，システムに求められる処理の種類，量，処理時間などを検討し，性能要件からサーバやストレージなどの性能諸元を見積り，システムの性能を継続的に把握，評価するという手順を理解する。

用語例 負荷，サイジング，スケールアウト，スケールアップ，容量・能力管理，システムパラメータ，プロビジョニング

(2) システムの信頼性特性と評価

① RASIS

システムを評価する際の評価項目となる Reliability（信頼性），Availability（可用

性), Serviceability (保守性), Integrity (完全性), Security (安全性) とその指標を理解する。

② 信頼性指標と信頼性計算

MTBF, MTTR, 稼働率などシステムの信頼性を評価する際の評価項目とその指標, 並列システム, 直列システムの稼働率の計算方法を理解する。

用語例 バスタブ曲線

(3) システムの経済性の評価

システムの経済性に関する評価の考え方, 評価項目, 指標, 評価の対象と具体的な方法や, 初期コスト (イニシャルコスト) や TCO による評価を理解する。また, 初期コスト, 運用コスト (ランニングコスト) に含まれる費用, 直接コストと間接コストの区別などを理解する。

1. オペレーティングシステム

【目標】

- OS の種類, 特徴, 機能, 構成を修得し, 応用する。
- ジョブ管理, タスク管理, 記憶管理など OS の代表的な機能, 役割を修得し, 応用する。
- プログラムの形態, 性質, OS の動向を修得し, 応用する。

(1) OS の種類と特徴

ソフトウェアの体系における OS の位置付けと必要性, 汎用機用, パソコン用, リアルタイム用などの OS の種類, 特徴を理解する。

用語例 システムソフトウェア, UNIX, PC 用 OS, オープン OS, リアルタイム OS, VM (Virtual Machine : 仮想マシン), 互換性

(2) OS の機能と構成

OS の機能, 構成, カーネル, 言語プロセッサなどを理解する。

用語例 マイクロカーネル, モノリシックカーネル, ミドルウェア, カーネルモード (スーパーバイザモード), 特権モード, ユーザモード, 非特権モード, コンパイラ, インタプリタ, リンカージェディタ, サービスプログラム, 仮想記憶管理, プロセス管理, タスク管理, 記憶管理, データ管理, 運用管理, 障害管理, 入出力管理, ユーザ管理, 割込み, 多重 (マルチ) プログラミング, ブートストラップ, ネットワークブート, マルチブート, フラッシュブートローダ

(3) ジョブ管理

一つのまとまった仕事の単位であるジョブと, それを構成するジョブステップの概念, ジョブ管理の手順, ジョブ管理に関連する制御プログラムの役割を理解する。

用語例 ジョブスケジューラ, マスタスケジューラ, セッション, 省力化, 自動運転, システム管理, バックグラウンドジョブ, バッチ処理, cron

(4) タスク管理

① タスクと状態遷移

タスクとジョブステップ, スレッドとの関係, タスクの生成から実行, 消滅までの状態遷移, ディスパッチャの役割を理解する。

用語例 軽量プロセス, 実行可能状態, 実行状態, 待ち状態, プロセス, スレッド

② 多重 (マルチ) プログラミング (マルチタスク) とスケジューリング

多重 (マルチ) プログラミングの考え方, タスクのスケジューリングの代表的な方式について, スケジューリングの方法, 特徴, スケジューリングにおけるトリガと優先順位の役割, 同期制御・排他制御の必要性, 実現方法を理解する。また, タスクとタスクの同期, タスク間でのデータの受け渡し, マルチスレッドの考え方, 並列処理などを理解する。

用語例 プリエンプティブ方式, ノンプリエンプティブ方式, タイムスライス方式, イベントドリブン方式, フィードバック待ち行列方式, 処理時間順方式, 優先順, 静的優先順位方式, 動的優先順位方式, ラウンドロビン, SJF (Short Job First), 最短時間順, 割込み禁止, マルチ CPU, 排他制御, FCFS (First Come First

Served), タイムクウォンタム, リソーススタベーション, SVC (SuperVisor Call) 割込み, 入出力終了割込み, ディスパッチ

(5) データ管理

補助記憶装置へのアクセスを装置に依存しないインタフェースで応用プログラムに提供する機能を理解する。

用語例 レコード, スペース管理, カタログ管理, ファイル保護

(6) 入出力管理

入出力装置を効率良く動作させる入出力制御方式の種類, 特徴, チャンネルの種類, データ転送方式など, 入出力制御の仕組みを理解する。また, スプール, バッファリングなど CPU のアイドル時間を減らして効率を上げるための仕組みを理解する。

用語例 IOCS (Input/Output Control System: 入出力制御システム), スプーリング, バッファプール, 入出力ポート (I/O ポート), 入出力マッピング (I/O マッピング), メモリマッピング, チャンネル, チャンネル制御方式, DMA (Direct Memory Access: 直接記憶アクセス), チャンネルサブシステム, セクタチャンネル, マルチプレクサチャンネル, 入出力割込み, メモリマップド I/O, I/O マップド I/O

(7) 記憶管理

① 実記憶管理

記憶領域の管理方式である固定区画方式, 可変区画方式など, 実アドレス空間の割当て方式の特徴, フラグメンテーションとその対策を理解する。また, 主記憶装置を効率良く使うためのスワッピングとオーバレイを理解する。

用語例 実アドレス方式, 単一連続割当て方式, 記憶域管理アルゴリズム (ファーストフィット, ベストフィット, ワーストフィット), メモリコンパクション, ロールイン, ロールアウト, スワップイン, スワップアウト, セグメント方式, コンパクション

② 仮想記憶管理

実記憶と仮想記憶の関係, 仮想記憶の有効性, 仮想記憶方式の種類と特徴, 動的アドレス変換の仕組みを理解する。また, ページング方式の代表的なページ置換えアルゴリズムについて, ページ置換え手順を理解する。

用語例 ベースアドレス方式, セグメント方式, セグメントページング方式, 単一仮想空間方式, 多重仮想空間方式, スラッシング, DAT (Dynamic Address Translator: 動的アドレス変換), TLB (Translation Lookaside Buffer), ページフォールト, ページイン, ページアウト, デマンドページング, ページリプレースメント, LRU, FIFO, ワーキングセット

(8) ネットワーク制御

ネットワーク制御プログラムの役割, 機能, OS における位置付けを理解し, OS が提供する通信インタフェースを理解する。

用語例 ネットワーク OS, LAN, WAN, プロトコル制御, リアルタイム OS, 通信プロトコル, TCP/IP, OSI 基本参照モデル

(9) 運用の管理

システム始動処理 (OS の初期化), システム終了処理, オペレータとの交信, ユーザ管理機能, スケジューリング, システムモニタリングなど, 運用に関する容易性や柔軟性を実現する機能を理解する。

用語例 プロファイル、ユーザアカウント、システム利用権、ファイルアクセス権、端末利用権、ディスククォータ

(10) ユーザ管理

ユーザアカウントの種類、特徴を理解し、アカウントの作成方法、パスワードの設定や変更方法、権限の付与や変更方法などを理解する。また、アカウントを一元管理するためのディレクトリサービスなどを理解する。

用語例 スーパユーザ、root、Administrator、ゲスト、管理者権限、LDAP、Active Directory

(11) セキュリティ制御

OS には、アクセス制御、フロー制御、推論制御、暗号化制御などのセキュリティ制御機能があることを理解し、OS での制御方法の種類と特徴を理解する。また、ファイル保護、外部からの侵入検出と防御などのセキュリティが施されたセキュリティカーネルの特徴を理解する。

用語例 外部セキュリティ、内部セキュリティ、多重レベルセキュリティ、BLP (Bell-LaPadula) モデル、ログイン機能、オーディット機能、アカウントビリティ、信頼プロセス、完全性、隔離、認証、検証可能性、ITSEC (Information Technology Security Evaluation Criteria)

(12) 障害管理

障害の検出、試験と診断、自動訂正、障害の記録、再構成、リスタート、原因の解決など、障害発生から対策完了までの一連の工程を理解する。

用語例 タイマ監視、CPU 監視装置、ハードウェア障害、ソフトウェア障害、再構成 (動的装置再構成、自動 CPU 再構成)、多重化 (入出力パスの多重化、補助記憶装置の二重化、ライブラリの二重化、ディスクの二重書き)、システムの多重化 (デュアルシステム、デュプレックスシステム)、ホットスタンバイシステム、障害回復ルーチン

(13) プログラムの形態と性質

プログラムには、ソースプログラム、オブジェクトプログラムなどの形態があること、ソースプログラムの管理対象には、データ構造定義、レコード構造定義などのマクロソースがあることを理解する。また、再入可能プログラム、逐次再使用可能プログラムなどの性質と、それらの使用のされ方を理解する。

用語例 原始プログラム、目的プログラム、コンパイラ、ロードモジュール、ローダ、ライブラリ、動的リンキング、リエントラント、API、ABI (Application Binary Interface)、POSIX (Portable Operating System Interface)、SCM (Software Configuration Management : ソフトウェア構成管理)

(14) サービスプログラム

サービスプログラムの種類と特徴を理解する。

用語例 ユーティリティプログラム、整列プログラム、併合プログラム、フォーマッティング、アーカイバ、データ編集、ファイルコピー、バックアップ

(15) OS の動向

OS に関連する最新のトピックス、標準化、技術動向などを理解する。

用語例 移動型小型 OS、JavaOS、携帯電話系 OS、OSE (Open Systems Environment)、ODP (Open Distributed Processing : 開放型分散処理)、セキュア OS、クラウドコン

2. ミドルウェア

【目標】

- 代表的なミドルウェアの役割、機能を修得し、応用する。

(1) ミドルウェアの役割と機能

OS とアプリケーションソフトウェアの間に位置する各種ミドルウェアの役割と機能、ミドルウェアの選択と利用の考え方を理解する。

用語例

アプリケーション間連携ソフトウェア、DBMS、通信管理システム、ソフトウェア開発支援ツール、運用管理ツール、TP (Transaction Processing: トランザクション処理) モニタ

(2) シェルの役割と機能

シェルは、利用者からのコマンド、指示を受けてそれを解釈し、プログラムの起動、制御などカーネルの機能と呼び出す役割をもつこと、及び代表的なコマンドを理解する。

用語例

コマンドインタプリタ、BShell, CShell, COMMAND.COM, cmd.exe

(3) API

アプリケーションから見た API の役割、機能を理解する。

用語例

関数、ライブラリ、Web API, API 仕様

(4) ライブラリ

プログラムやマクロなどを格納するライブラリを理解する。

用語例

ソースライブラリ、オブジェクトライブラリ、ロードライブラリ、DLL (Dynamic Link Library), クラスライブラリ

(5) コンポーネントウェア

オブジェクト指向技術を基盤としたソフトウェアの部品化によるソフトウェア開発手法であるコンポーネントウェアの考え方、代表的なコンポーネントウェア技術を理解する。

用語例

コンポーネント、Java Beans, ActiveX, CORBA

(6) 開発フレームワーク

アプリケーションソフトウェアの標準構造の実装に使われるクラスやライブラリの集まりである開発フレームワークの考え方、代表的なフレームワークを理解する。

用語例

Apache Struts, CakePHP, Spring, Ruby on Rails

3. ファイルシステム

【目標】

- ファイルを階層化して管理するディレクトリの種類、特徴、ファイル管理の仕組みを修得し、応用する。
- ファイルシステムの種類、特徴を修得し、応用する。
- ファイル編成、アクセス手法、検索手法、バックアップ方式を修得し、応用する。

(1) ディレクトリ管理とファイル管理

ファイルを階層化して扱うディレクトリの種類と特徴、ディレクトリが管理するファイル情報、ファイル制御ブロック、ファイルポインタ、ファイルハンドルなどのファイル管理の仕組み、絶対パス、相対パスを使用したファイルの特定方法を理解する。また、ディレクト

リ管理，ファイル共有の仕組み，考え方，アクセス権を理解する。

用語例 物理的位置，保護情報，参照情報，シンボリックリンク，ショートカット，エイリアス，ルートディレクトリ，カレントディレクトリ，ホームディレクトリ，単一ディレクトリ，2 階層ディレクトリ，階層型ディレクトリ，木構造ディレクトリ，パス名，ファイルハンドル，ファイル記述子，キャラクタデバイス，ブロックデバイス，ブロッキング，共有ファイル

(2) ファイルシステムの種類と特徴

ハードディスク装置などの補助記憶装置の領域を，OS や利用者がファイルやディレクトリ（フォルダ）として使用できるようにするための機能を理解する。また，OS ごとに異なるファイルシステムが提供されていること，代表的なファイルシステムの特徴を理解する。

用語例 FAT ファイルシステム，NTFS，HFS (Hierarchical File System)，NFS (Network File System)，ボリューム

(3) ファイル編成とアクセス手法

ファイル編成やアクセス手法の種類，特徴を理解する。また，各編成方式におけるレコードの追加，削除，変更などの処理方法を理解する。

用語例 論理レコード，物理レコード，ブロック，非ブロックレコード，ブロックレコード，ブロックサイズ，順次アクセス，直接アクセス，動的アクセス，順編成，区分編成，索引順編成，直接編成，VSAM 編成，あふれ域，ブロッキング，デブロッキング

(4) 検索手法

ディレクトリの構造の特徴による検索手法の違いを理解する。

用語例 ハッシング，インデックス

(5) バックアップ

ファイルのリカバリを目的としたバックアップの取得方法と手順，世代管理，ファイルの修復方法と手順など，バックアップの方式を理解する。

用語例 多重バックアップ，フルバックアップ，差分バックアップ，増分バックアップ

4. 開発ツール

【目標】

- ソフトウェア開発に用いる開発ツールの種類，特徴，機能を修得し，応用する。

(1) 開発ツールの種類と特徴

設計を支援するツール，プログラミングやテストを支援するツール，ソフトウェア開発の各工程を通して自動化，効率化を目的とするツール，開発作業全体を一貫して工程を支援する IDE (Integrated Development Environment：統合開発環境) など，代表的な開発ツールの種類，特徴，機能を理解する。

用語例 設計支援ツール (SADT：Structured Analysis and Design Techniques，SREM：Software Requirement Engineering Methodology，PSL/PSA：Problem Statement Language /Problem Statement Analyzer)，設計ツール，ドキュメント生成ツール，構築ツール，テストツール (静的デバッグツール (プリティプリンタ，クロスリファレンス)，動的デバッグツール，静的解析ツール (ソースコード解析ツール，プログラム構造解析ツール)，動的解析ツール (テストデータ生成ツール，テストカバレッジツール，テストベッドツール，プログラム検証ツール))，ツールチェーン，エミュレータ，シミュレータ，ICE (In-Circuit

Emulator：インサーキットエミュレータ), トレーサ, インспекタ, スナップ
ショット, アサーションチェッカ, バージョン管理ツール

(2) 言語処理ツールの種類と特徴

代表的な言語処理ツールの種類, 特徴, 機能を理解する。

用語例 ジェネレータ, 原始プログラム, プリプロセッサ, アセンブラ, コンパイラ, 実行時コンパイラ, クロスコンパイラ, インタプリタ, 目的プログラム, リンカ, ロード, ロードモジュール

5. オープンソースソフトウェア

【目標】

- オープンソースソフトウェアの種類, 特徴, 機能, 構成, 利用上の考慮点, 動向を修得し, 応用する。

(1) OSS の種類と特徴, 機能, 構成

LAMP/LAPP (LAMP : Linux, Apache, MySQL, PHP, LAPP : Linux, Apache, PostgreSQL, PHP) を中心に広く利用されている OSS (Open Source Software : オープンソースソフトウェア) の代表的な種類, 特徴, 機能, 再配布の自由, 派生ソフトウェア改変の許諾などオープンソースライセンスの内容を理解する。

用語例 Linux カーネル, Perl, Python, Ruby, オープンソースライブラリ, CPAN, PEAR, jQuery, コピーレフト (Copyleft), デュアルライセンス, GPL (General Public License), BSD (Berkeley Software Distribution License), MPL (Mozilla Public License), Apache ライセンス

(2) UNIX 系 OS

代表的な OSS である UNIX, UNIX 互換 OS を含む UNIX 系 OS を理解する。

用語例 NetBSD, IRIX, Linux, FreeBSD (Free Berkley Software Distribution), OpenBSD, The Open Group

(3) オープンソースコミュニティ

オープンソースコミュニティによるソフトウェア開発の仕組みを理解する。

用語例 SCM (Source Code Management : ソースコード管理)

(4) OSS の利用・活用と考慮点

ライセンスの適用範囲, 利用時のサポートにかかるコスト, 問題発生時の対処など, OSS を利用する上で考慮すべき点を理解する。

用語例 安全性, 信頼性

(5) OSS の動向

OSS の開発や普及の動向を理解する。

1. ハードウェア

【目標】

- コンピュータの構成部品である電気・電子回路、機械・制御を修得し、応用する。
- 構成部品や要素とその実装、組込みシステムを構成する部品の役割、部品間の関係を修得し、応用する。
- 最適な構成で設計するための論理設計の留意事項を修得し、応用する。
- 組込み機器の開発における消費電力の重要性、関連する技術、動向を修得し、応用する。

(1) 電気・電子回路

コンピュータの基本的な論理回路である AND 回路、OR 回路、NOT 回路などの動作原理、論理回路は、組合せ論理回路と順序論理回路に分類できること、回路ごとの特徴を理解する。

用語例 NAND 回路、XOR 回路、フリップフロップ

(2) 機械・制御

代表的な機械電子制御の実現方法について、その構造や動作原理、各部の働きを理解する。

用語例 オープンループ制御、クローズドループ制御、シーケンス制御、フィードバック制御、PWM (Pulse Width Modulation : パルス幅変調) 制御

(3) 構成部品及び要素と実装

① 半導体素子

代表的な半導体素子の動作原理、構造、特性、実装を理解する。

用語例 ダイオード、LED、トランジスタ、IC、LSI、VLSI (Very Large Scale Integration)、CMOS、バイポーラ、BiCMOS (Bipolar Complementary MOS)、バイポーラメモリ

② カスタム IC

利用者が要求する回路を IC として実現できることを理解する。

用語例 ASIC (Application Specific IC)、FPGA (Field Programmable Gate Array)、HDL (Hardware Description Language : ハードウェア記述言語)

③ システム LSI

組込み分野などで利用され、複数の半導体を組み合わせることによって占有面積を縮小し、システムを小型化し、高速化、低コスト化などのメリットがあることを理解する。

用語例 コデザイン、SoC (System on a Chip)

④ 組込みシステムの構成部品

組込みシステムを構成する部品の役割、部品間の関係を理解する。

用語例 プロセッサ、DSP (Digital Signal Processor)、センサ、アクチュエータ、メモリ、ASIC、D/A コンバータ、A/D コンバータ、MEMS、診断プログラム

(4) 論理設計

性能、設計効率、コストなどを考慮して、どの構成が最適であるのかを検討し、設計する

ことを理解する。

用語例 回路設計，タイミング設計，同期式设计，非同期式设计，加法標準形，論理圧縮

(5) 消費電力

ハードウェアの消費電力について，組込み機器の開発における消費電力の重要性，関連する技術，動向を理解する。

用語例 低消費電力化，リーク電流，パワーゲーティング，クロックゲーティング

1. ヒューマンインタフェース技術

【目標】

- インフォメーションアーキテクチャの考え方, 目的を修得し, 応用する。
- 代表的なヒューマンインタフェース技術の種類, 特徴を修得し, 応用する。
- GUI の特徴, 構成部品, GUI 画面設計の手順, 留意事項を修得し, 応用する。

(1) インフォメーションアーキテクチャ

インフォメーションアーキテクチャ (情報アーキテクチャ) の考え方, 目的, 情報の組織化 (五十音, カテゴリなど), 構造化 (階層型, タグ付けなど) などを理解する。

【用語例】

ラベル, チャンク, ナビゲーション, LATCH (Location, Alphabet, Time, Category, Hierarchy) 法, 階層型, 直線型, Web リンク型, フォークソノミー型, セマンティック Web, メタデータ

(2) ヒューマンインタフェース

ヒューマンインタフェースを決定する要件, インタフェースを実現する技術の種類, 特徴を理解する。

【用語例】

ユーザビリティ, アクセシビリティ, インタラクティブシステム, 音声認識, 画像認識, 動画認識, 特徴抽出, 学習機能, 選択的知覚, ユーザ操作の分析, 身体的適合性, ノンバーバルインタフェース, マルチモーダルインタフェース, 空間型インタフェース, 自然言語インタフェース

(3) GUI

グラフィックスを用いた視覚的な表示, ポインティングデバイスなどによる直感的な操作など GUI の特徴, GUI で使われる構成部品の特徴と役割, GUI 画面設計やシナリオなどを使用した設計の手順と留意事項を理解する。

【用語例】

ウィンドウ, アイコン, ラジオボタン (ラジオボックス), チェックボックス, リストボックス, プルダウンメニュー, ポップアップメニュー, テキストボックス

2. インタフェース設計

【目標】

- 画面設計, 帳票設計, コード設計の考え方, 手順, 手法を修得し, 応用する。
- ユニバーサルデザインの考え方を応用した望ましいインタフェースを修得し, 応用する。

(1) 画面設計・帳票設計

① 画面設計

画面設計の考え方, 手順, 手法, 代表的な入力チェックの方法を理解する。また, 入出力項目とデータベースの対応, 入出力項目の処理の対応を理解する。

【用語例】

画面構成, 情報の検索, 情報の関係性, 利用者の用語, 情報提示ストーリー, ストーリーボード, 部分送信, ニューメリックチェック, フォーマットチェック, リミットチェック, 組合せチェック, 照合チェック, バランスチェック, チェックキャラクター, 穴埋め方式, メニューインプット方式, フォーマットエラー, 論理エラー, シーケンスエラー

② 帳票設計

帳票設計の考え方、手順、手法を理解する。また、プリンタの種類やコピー方法などの装置制約事項と帳票設計の関係、フォームオーバーレイや専用の事前印刷用紙への出力、入出力項目とデータベースの対応、入出力項目と処理の対応を理解する。

用語例 出力特性、入力特性

(2) コード設計

コードの種類と特徴、利用目的や適用分野に合わせたコード設計の考え方、手順、手法を理解する。

用語例 順番コード、区分コード（分類コード）、桁別コード、表意コード、合成コード

(3) Web デザイン

Web デザインにおけるユーザビリティの考え方、ユーザビリティを向上させるための手法、スタイルシートの利用によるデザイン全体の統一や、複数種類の Web ブラウザ対応などを考慮して Web デザインすることを理解する。また、ユーザビリティに関する国際規格が存在すること、ユーザビリティ評価手法、Web サイトのナビゲーションの手法を理解する。

用語例 フレーム、空間近接原理、アフォーダンス、サイト内検索機能、ISO 9241、サイトマップ、クロスブラウザ、プログレッシブエンハンスメント

(4) 人間中心設計

ユーザビリティの向上を目的とした、人間中心設計の考え方、プロセスを理解する。

用語例 ISO 13407、使用状況の理解と明示、利用者と組織の要求事項の明示、設計による解決策の作成、要求事項に基づく設計の評価

(5) ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインの 7 原則の考え方を理解する。また、情報技術分野においても、イラストによる説明、音声読み上げ、Undo（取消）機能など、ユニバーサルデザインの考え方を応用したインタフェースのあり方、設計手法を理解する。

用語例 WAI (Web Accessibility Initiative), WCAG 1.0 (Web Content Accessibility Guidelines 1.0)

(6) ユーザビリティ評価

ユーザビリティ評価の考え方と手法を理解する。

用語例 ヒューリスティック評価

1. マルチメディア技術

【目標】

- コンピュータにおける文字、音声、画像などの仕組み、特徴、それらを統合して取り扱うマルチメディアの考え方、必要な資源、機能を修得し、応用する。
- 情報の圧縮、伸張の目的、特徴、仕組みを修得し、応用する。

(1) マルチメディア

情報のデジタル化、文字、音声、画像などの複数のメディアの統合、インタラクティブ性などマルチメディアの特徴を理解する。また、複数のメディアを編集、統合するオーサリングなど、マルチメディア処理の考え方、必要な資源、機能を理解する。

用語例 Web コンテンツ、ハイパメディア、ストリーミング、オーサリング環境、メディア統合、PDF、DTP

(2) 音声処理

音声データのデジタル化の原理、音声ファイルの仕組み、代表的な音声ファイル形式の特徴を理解する。

用語例 PCM (Pulse Code Modulation : パルス符号変調), MIDI, WAV (Waveform Audio Format), AU (Audio or mu-law), AIFF (Audio Interchange File Format), MP3, 標本化周波数, 量子化ビット数, MIDI 音源, サンプリング

(3) 静止画処理

光の 3 原色 (Red, Green, Blue) と色の 3 原色 (Cyan, Magenta, Yellow), 画素 (ピクセル), 解像度, 階調など, コンピュータにおける画像表現の仕組み, 代表的な静止画ファイル形式の特徴を理解する。

用語例 JPEG, GIF, PNG, BMP, TIFF, Exif (Exchangeable Image File Format), デザリング, ルックアップテーブル, レイヤ, トリミング

(4) 動画処理

フレーム, フレームレートなど, コンピュータにおける動画表現の仕組み, 代表的な動画ファイル形式の特徴, 動画編集の基本的な手法を理解する。

用語例 MPEG, QuickTime, AVI, Motion JPEG, インタレース方式, プログレッシブ方式, リニア編集, ノンリニア編集

(5) 情報の圧縮・伸張

メディアの種類に応じた圧縮・伸張方法が利用されること, 圧縮・伸張の目的, 代表的な方式の特徴, 仕組み, 用途に応じて適切な圧縮方式を選択し, 活用することを理解する。

用語例 JPEG, MPEG, ZIP, LZH, 圧縮率, 可逆圧縮, 非可逆圧縮, ランレングス, MH (Modified Huffman), MR (Modified READ), MMR (Modified Modified READ), MP3, 効率の良いデータ保存, ネットワーク負荷軽減

2. マルチメディア応用

【目標】

- マルチメディアシステムの特徴, マルチメディア応用の例を修得し, 応用する。

(1) マルチメディア応用

マルチメディアシステムの特徴，VR (Virtual Reality：バーチャルリアリティ)，インターネット放送，ノンリニア画像編集システムなどのマルチメディア応用の例を理解する。

用語例 CG，CAD，シミュレータ，テレビゲーム，AR (Augmented Reality：拡張現実感)，マルチメディアデータ合成処理，ビデオオンデマンド，DSP (Digital Signal Processor)，デジタル放送，3 次元映像，モーションキャプチャ，バーチャルサラウンド

1. データベース方式

【目標】

- データベースの種類、特徴、データベースのモデル、3 層スキーマの考え方を修得し、応用する。
- データベース管理システムの目的、機能を修得し、応用する。

(1) データベース

① データベースの種類と特徴

代表的なデータベースの種類、データの表現構造、レコード間の関連付けの方法など種類ごとの特徴、与えられた要件に応じて最適なデータベースを選択し、設計に活用することを理解する。

【用語例】

関係データベース、構造型データベース、HDB (Hierarchical Database : 階層型データベース), NDB (Network Database : 網型データベース), CODASYL (Conference on Data Systems Languages) 型データベース, OODB (Object Oriented Database : オブジェクト指向データベース), オブジェクト関係データベース, ハイパテキストデータベース, マルチメディアデータベース, XML データベース

② データベースのモデル

データベースでは、システムの利用者やプログラムから見たデータの定義、論理的なデータ構造、物理的なデータ構造の 3 層を区別することでデータの独立性を高めていること、データモデルの種類、特徴、利点、各スキーマの表現方法、表現できる内容、特徴を理解する。

【用語例】

概念データモデル、論理データモデル (外部モデル)、関係モデル、階層モデル、ネットワークモデル、物理データモデル (内部モデル)、概念スキーマ、外部スキーマ (副スキーマ)、内部スキーマ (記憶スキーマ)

③ 関係データモデル

関係データモデルにおいて、データがどのように表されるのか、表の構成、考え方、複数の表の関係付けを理解する。また、与えられた要件に応じて、規定の表記法を使用してデータモデルを表現することを理解する。

【用語例】

関係 (リレーション)、タプル (行, 組), 属性 (列, フィールド), 実現値, 定義域 (ドメイン), E-R 図

(2) データベース管理システム

① データベース管理システムの目的

DBMS の目的、代表的な機能とともに、DBMS にも階層型、網型、関係型があること、DBMS のマネジメント機能をデータベース開発や保守に利用することを理解する。

【用語例】

データベース定義機能、データベース操作機能、データベース制御機能、保全機能、データ機密保護機能

② 排他制御

複数の応用プログラムが一つのデータベースに同時にアクセスするときに必要な制御方

法を理解する。

③ 障害回復

データベースに障害が発生した場合の障害回復機能と回復手順を理解する。

④ データセキュリティ

データを共有する際に重要となるセキュリティ確保のための方法を理解する。

用語例 トランザクション、ロック、デッドロック、ACID 特性、データ辞書

2. データベース設計

【目標】

- データの分析の考え方を修得し、応用する。
- データベースの設計の考え方、手順、手法を修得し、応用する。
- データの正規化の目的、手順を修得し、応用する。
- データベース作成の手順、評価方法を修得し、応用する。
- オブジェクト指向データベースの考え方を修得し、応用する。

(1) データ分析

対象業務にとって必要なデータは何か、各データがどのような意味と関連をもっているかなどの分析と整理、異音同義語、同音異義語の発生を抑えるデータ項目の標準化など、データ分析を行う際の考え方を理解する。また、データモデルの作成手法であるトップダウンアプローチとボトムアップアプローチを理解する。

用語例 データ重複の排除、メタデータ、データディクショナリ

(2) データベースの設計

① データベース開発工程

開発計画立案、外部設計、内部設計、プログラム作成、テスト、移行に至るまでのデータベース開発の工程と手順、手法を理解する。

用語例 システム分析、要求定義、企業データモデル、データモデル、概念データモデル、論理データモデル、物理データモデル、副次索引、分割法、DOA (Data Oriented Approach : データ中心アプローチ)

② データベースの概念設計

概念設計では、要求定義で定義されたデータ項目と、システム機能設計の際に発生したデータ項目をまとめ、データ項目全体を設計することを理解する。また、DBMS に依存しないデータの関連を表現する手法として、E-R 図を使用した構成要素、属性、関連の表し方、特徴、カーディナリティ (1 対 1, 1 対多, 多対多) などを理解する。

用語例 バックマン線図、エンティティ、アトリビュート、リレーションシップ

③ データベースの論理設計

データの重複や矛盾が発生しないテーブル (表) 設計の考え方、主キー、外部キーなどの概念、参照制約、一貫性制約などの制約を理解する。また、ユーザビューの機能と定義を理解する。

用語例 配置モード、親子集合順序、親子集合、索引、フィールド (項目)、レコード、ファイル、NULL、一意性制約

(3) データの正規化

正規化の目的と手順、第 1 正規化、第 2 正規化、第 3 正規化などを理解する。また、正規

化の考え方に従った、具体的な設計案に対して更新容易性や性能面などから評価し、最適な設計を行うことを理解する。

用語例 完全関数従属，部分関数従属，推移関数従属

(4) データベースのパフォーマンス設計

処理の高速化のためにあえて正規化を行わず，表の結合にかかる時間を短縮するなど，パフォーマンスを考慮したデータベース設計の考え方を理解する。

用語例 非正規化

(5) データベースの物理設計

データベースの物理設計では，アクセス効率，記憶効率の側面からデータベースの最適化を図ることを理解する。また，磁気ディスク上に記憶される形式や論理データ構造の物理データ構造へのマッピングなど，データベースの物理的構造を設計する際の留意事項を理解する。

用語例 ディスク容量見積り，論理データ構造のマッピング，ファイル編成，最適ブロック設計，物理入出力，性能評価，コンプレッション，デコンプレッション，性能改善ポイント

(6) データベースの作成手順

データベース環境の準備，入力データの準備，データベースの定義，データの登録，データベースの検証などの一連のデータベースの作成手順を理解する。

用語例 データベース定義情報，レコード形式，親子関係，キー順，存在制約，インバートドファイル

(7) データベースの評価・運用

データベースの性能評価方法を理解し，評価結果によってはチューニングや再編成などの対応策が必要であることを理解する。

用語例 データベースの運用・保守

(8) オブジェクト指向データベース

オブジェクト指向データベースが開発された背景を理解し，複雑なデータ構造をもつデータの保存などに利用されていることを理解する。

用語例 オブジェクト指向データモデル，複合オブジェクト，XML データベース，オブジェクト識別性，O/R マッピング

3. データ操作

【目標】

- 関係データベースのデータの操作を修得し，応用する。
- データベース言語の種類，SQL 文を修得し，応用する。

(1) データベースの操作

関係データベースのデータの操作として，集合演算（和，差，積，直積），関係演算（選択，射影，結合，商）などを理解する。

用語例 関係代数

(2) データベース言語

- ① データベース言語の種類

データベース言語は、DDL (Data Definition Language : データ定義言語) と DML (Data Manipulation Language : データ操作言語) などに大別されること、また、これらには SQL を単独で使用する独立言語方式と、他のプログラム言語から使用する親言語方式があることを理解する。

用語例 会話型 SQL, 埋込型 SQL, モジュール言語, コマンド方式, フォーム, クエリ

② データベース言語 (SQL)

(a) データ定義言語

スキーマ, テーブル, ビュー, 処理権限を定義する SQL 文を理解する。また, データ型, 列制約, 表制約の定義方法, ビューの更新 (更新可能なビューと更新不可能なビュー) を理解する。

用語例 実表, ビュー表, 文字型, 数値型, 日付型, 一意性制約, 参照制約, 検査制約, 非 NULL 制約, アクセス権

(b) データ操作言語 (SELECT 文)

要求されるデータを選択するために, SELECT 文による問合せの方法, 条件を指定した特定行や列の選択, 表の結合, BETWEEN や IN などの述語指定, 集合関数, グループ化, 並べ替えなどを理解する。

用語例 集約関数, パターン文字, 関連名, 副問合せ, 関連副問合せ

(c) その他のデータ操作言語

INSERT 文, UPDATE 文, DELETE 文などの SQL 文を理解する。

(d) 埋込型 SQL

カーソル操作, 非カーソル操作, 親言語との接続など, 埋込型 SQL によるデータ操作の仕組み, 利点, 利用法を理解する。また, カーソル操作において, カーソルの宣言, 操作の開始, 終了, 読み込みを行うなどの SQL 文を理解する。

用語例 カーソル

4. トランザクション処理

【目標】

- データベースの排他制御, 障害回復の考え方, 仕組みを修得し, 応用する。
- トランザクション管理, アクセス効率向上のための考え方を修得し, 応用する。
- データに対するアクセス制御の必要性, 代表的なアクセス権限を修得し, 応用する。

(1) 排他制御

データの整合性を保つために, 複数のトランザクションが同時にデータベースのデータを更新することが起こらないようにする排他制御の考え方を理解する。また, ロック方式, セマフォ方式, コミット制御の仕組みを理解する。

用語例 専有ロック, 共有ロック, ロック粒度, デッドロック, 1 相コミットメント, 2 相コミットメント

(2) 障害回復

障害に備えたバックアップの方式, 世代管理の考え方, 障害発生直前の状態まで回復を図るリカバリ処理の仕組み, データベースの利用環境の準備, アクセス効率の向上のための再編成などの考え方, 仕組みを理解する。

用語例 フルバックアップ, 差分バックアップ, 増分バックアップ, ダンプファイル, リ

ストア、データディレクトリ、ジャーナルファイル（ログファイル）、チェックポイント、ロールフォワード、ロールバック、ウォームスタート、コールドスタート

(3) トランザクション管理

データベースは複数の利用者が同時にアクセスするので、トランザクション処理には ACID 特性が求められること、四つの特性の意味を理解する。

(4) データベースの性能向上

データベースへのアクセス効率向上のために、インデックスを有効に活用する考え方を理解する。

用語例 インデックス数、負荷、ユニークインデックス、クラスタ化インデックス

(5) データ制御

利用者ごとに、データに対するアクセス制御を行う必要があること、アクセス権限としてはデータベースに接続する権限、データを検索する権限、データを新規登録する権限、データを更新する権限などがあることを理解する。

用語例 参照権限、挿入権限、削除権限

5. データベース応用

【目標】

- データベースの応用対象、応用方法を修得し、応用する。
- 分散データベースの特徴、機能を修得し、応用する。
- データ資源管理の仕組みとして、リポジトリ、データディクショナリを修得し、応用する。

(1) データベースの応用

データウェアハウス、データマート、OLAP (Online Analytical Processing)、データマイニングなど、データを分析して有効活用する技術の特徴、これらの技術が企業会計システム、在庫管理システムなどで使われていること、その応用方法を理解する。

用語例 OLTP (Online Transaction Processing)、ETL (Extract/Transform/Load)、データクレンジング、ビッグデータ、文書管理システム、営業支援システム

(2) 分散データベース

複数のサイトに配置された分散データベースの特徴、利点、取り扱う上での留意事項、サイト間でのデータ同期の仕組み、関連する機能、集中型データベースとの違いを理解する。

用語例 透過性、クライアントキャッシュ、コミットメント制御、2 相コミットメント、コミットシーケンス、同時実行制御、レプリケーション、水平分散、垂直分散、表の分散（水平、垂直）、分散問合せ、結合演算、分散トランザクション、OSI-RDA (Open Systems Interconnection-Remote Database Access：開放型システム間相互接続-遠隔データベースアクセス) プロトコル

(3) データ資源管理

データの属性、意味内容、格納場所など、データを管理するための情報（メタデータ）を収集、管理したデータディクショナリや、ソフトウェア開発と保守における様々な情報を一元的に管理するリポジトリを理解する。

用語例 IRDS (Information Resource Dictionary System：情報資源辞書システム)、ファクトデータベース、リファレンスデータベース、データベースサービス

1. ネットワーク方式

【目標】

- LAN と WAN の仕組み, 特徴, 電気通信事業者が提供するサービスの種類, 特徴を修得し, 応用する。
- 有線 LAN と無線 LAN, 交換方式の仕組み, 特徴を修得し, 応用する。
- 回線速度, データ量, 転送時間の関係を修得し, 応用する。
- インターネット技術の必要性, 特徴を修得し, 応用する。

(1) 通信ネットワークの役割

通信ネットワークが果たす役割と効果, ネットワーク障害が発生した場合の社会的影響の大きさを理解する。

用語例 ネットワーク社会, ICT (Information and Communication Technology : 情報通信技術), u-Japan 構想

(2) ネットワークの種類と特徴

LAN と WAN の仕組み, 特徴, 構成要素, 運用費用を理解する。また, WAN を構成する場合に利用する電気通信事業者から提供されているサービスの種類と特徴を理解する。

用語例 インターネットサービスプロバイダ, 従量制, 月額固定料金, IDF (Intermediate Distribution Frame), MDF (Main Distribution Frame), パケット交換網, 回線交換網, フレームリレーサービス, ATM サービス, センサネットワーク

(3) 有線 LAN

有線 LAN の仕組み, 構成要素, 特徴を理解する。

用語例 同軸ケーブル, より対線, 光ファイバケーブル

(4) 無線 LAN

無線 LAN の仕組み, 構成要素, 特徴を理解する。

用語例 電波, 赤外線, 無線 LAN アクセスポイント, インフラストラクチャモード, アドホックモード

(5) 交換方式

回線交換とパケット交換の仕組み, 特徴を理解する。

用語例 パケット, VoIP (Voice over Internet Protocol)

(6) 回線に関する計算

回線速度, データ量, 転送時間の関係を理解し, 与えられた回線速度, データ量, 回線利用率からの転送時間の算出方法を理解する。また, 発生するトラフィック量から必要な回線速度を算出する方法を理解する。

用語例 転送速度 (伝送速度), bps (bit per second : ビット/秒), 回線容量, ビット誤り率, トラフィック理論, 呼量, 呼損率, アーラン B 式 (アーランの損失式), アーラン, 待ち行列理論, M/M/1, ケンドール記号, トラフィック設計, 性能評価

(7) インターネット技術

ノードには、世界で一意となる IP アドレスが割り当てられることによって、相互通信が可能となっていること、アドレスを構成するネットワークアドレスとホストアドレスの役割、IP パケットのルーティングの動作、IPv6 の必要性和特徴を理解する。

用語例 IPv4, IPv6, アドレスクラス, グローバル IP アドレス, プライベート IP アドレス, IP マスカレード, NAT, オーバレイネットワーク, DNS, ドメイン, TLD, Proxy サーバ, QoS (Quality of Service : サービス品質), ユビキタス, パーベイスブ, セキュリティプロトコル, ファイアウォール, RADIUS

2. データ通信と制御

【目標】

- ネットワークアーキテクチャの考え方, 重要性, 効果を修得し, 応用する。
- 伝送方式と回線の種類, 特徴を修得し, 応用する。
- ネットワーク接続装置の種類, 特徴を修得し, 応用する。
- ネットワークにおける代表的な制御機能の仕組み, 特徴を修得し, 応用する。

(1) ネットワークアーキテクチャ

① ネットワークトポロジ

代表的なネットワーク構成の種類, 特徴, 端末, 制御機器がどのような形態で接続されるかや, ネットワーク構成図の作成方法を理解する。また, 各構成における信頼性と障害時の動作の違いを理解する。

用語例 ポイントツーポイント (2 地点間接続), ツリー型, バス型, スター型, リング型

② OSI 基本参照モデル

ISO が策定した 7 層からなるネットワークアーキテクチャである OSI 基本参照モデルの各層の機能, 各層の間の関係を理解する。

用語例 物理層, データリンク層, ネットワーク層, トランスポート層, セッション層, プレゼンテーション層, アプリケーション層

③ 標準化の実例

WAN における通信プロトコルの標準化が ITU-T において策定されていることを理解する。

用語例 X シリーズ, V シリーズ, I シリーズ

(2) 伝送方式と回線

ネットワークで使用される回線の種類, 通信方式, 交換方式の種類と特徴を理解する。

用語例 単方向, 半二重, 全二重, WDM (Wavelength Division Multiplexing : 波長分割多重), 回線交換, パケット交換, ATM 交換, フレームリレー, セルリレー, 公衆回線, 専用線, 電力線通信 (PLC)

(3) ネットワーク接続

LAN 内接続, LAN 間接続, LAN-WAN 接続の装置の種類, 特徴, 各装置の機能が, OSI 基本参照モデルのどの層に対応するかを理解する。

用語例 リピータ, ハブ, カスケード接続, スイッチングハブ, ルータ, 回線接続装置, レイヤ 2 (L2) スイッチ, レイヤ 3 (L3) スイッチ, ブリッジ, ゲートウェイ, プロキシサーバ, スパニングツリー

(4) 伝送制御

送受信者の間でデータを確実に伝送するための制御機能である伝送制御の仕組み、特徴を理解する。

用語例 データリンク制御、ルーティング制御、フロー制御、ベーシック手順、コンテンション方式、ポーリング／セレクトイング方式、HDLC、マルチリンク手順、相手固定、交換方式、コネクション方式、コネクションレス方式、パリティチェック、CRC、ハミング符号、ビット誤り率、SYN 同期、フラグ同期、フレーム同期

(5) メディアアクセス制御

データの送受信方法や誤り検出方法などを規定する MAC (Media Access Control : メディアアクセス制御) の仕組みと特徴を理解する。また、アクセス制御の目的、アクセス制御手法の代表的な種類と仕組みを理解する。

用語例 TDMA, CSMA/CD, CSMA/CA, トークンパッシング, 衝突

3. 通信プロトコル

【目標】

- 代表的なプロトコルである TCP/IP が OSI 基本参照モデルのどの階層の機能を実現しているか、その役割は何かを修得し、応用する。

(1) プロトコルとインタフェース

① TCP/IP

TCP/IP を OSI 基本参照モデルの 7 階層と対比させながら、各層が果たす役割、提供しているインタフェースを理解する。また、代表的なサービスのポート番号（ウェルノウンポート）などを理解する。

用語例 パケット, ヘッダ

② データリンク層のプロトコル

ARP など、TCP/IP ネットワークにおいて使用されるデータリンク層レベルのプロトコルの役割、機能を理解する。

用語例 RARP (Reverse Address Resolution Protocol : 逆アドレス解決プロトコル), PPP, PPPoE (Point to Point Protocol over Ethernet), VLAN

③ ネットワーク層のプロトコル

IP の役割、機能を理解する。

用語例 IP アドレス, サブネットアドレス, サブネットマスク, 物理アドレス, ルーティング, ユニキャスト, ブロードキャスト, マルチキャスト, ICMP (Internet Control Message Protocol), CIDR (Classless Inter Domain Routing), IPv6

④ トランスポート層のプロトコル

TCP と UDP の役割、機能を理解する。

用語例 ポート番号

⑤ アプリケーション層のプロトコル

HTTP, SMTP, POP, FTP, DNS などの役割、機能を理解する。

用語例 TELNET, DHCP, IMAP, NTP, SOAP (Simple Object Access Protocol)

⑥ LAN と WAN のインタフェース

イーサネット、無線 LAN、ISDN、PRI (Primary Rate Interface : 1 次群インタフェース)、ATM など、LAN と WAN で使用される代表的なインタフェースの役割、機能を理解する。

用語例 10BASE-T, 100BASE-TX, 1000BASE-T, IEEE802.11a/b/g/n/ac

⑦ CORBA

CORBA はプログラム言語やネットワークプロトコルに依存せず、異機種分散環境におけるシステム統合の基盤の考え方として利用できることを理解する。

用語例 分散オブジェクト技術、クライアント、オブジェクトサービス、リクエストアプリケーションオブジェクト

4. ネットワーク管理

【目標】

- ネットワーク運用管理の管理項目、管理方法を修得し、応用する。
- ネットワーク管理のためのツール、プロトコルの機能、仕組み、利用法を修得し、応用する。

(1) ネットワーク運用管理

① 構成管理

構成情報を維持し、変更を記録する構成管理の管理方法を理解する。

用語例 ネットワーク構成、バージョン、SDN (Software-Defined Networking), OpenFlow

② 障害管理

障害の検出、分析、対応を行う障害管理の管理方法を理解する。

用語例 情報収集、障害の切分け、障害原因の特定、復旧措置、記録

③ 性能管理

トラフィック量と転送時間の関係の分析などによる、ネットワークの性能の管理方法を理解する。

用語例 トラフィック監視

(2) ネットワーク管理ツール

ネットワーク管理に利用されているツールの機能、仕組みを理解する。

用語例 ping, ipconfig, arp, netstat

(3) SNMP

ネットワークを構成する機器を集中管理するためのプロトコルである SNMP と MIB (Management Information Base : 管理情報ベース) を使用したトラフィック解析方法を理解する。

用語例 SNMP エージェント, SNMP 管理ステーション, MIB (Management Information Base : 管理情報ベース), get 要求, put 要求, trap 要求

5. ネットワーク応用

【目標】

- インターネットで利用されている電子メールや Web などの仕組み、特徴、機能を修得し、応用する。
- イン트라ネットとエクストラネットの仕組み、特徴を修得し、応用する。
- ネットワーク OS の仕組み、特徴、機能を修得し、応用する。
- 代表的な通信サービスの種類、特徴、機能、留意事項を修得し、応用する。
- モバイルシステムの仕組み、特徴を修得し、応用する。

(1) インターネット

① 電子メール

電子メールシステムはメールサーバとメールクライアントで構成されており、送信したメールはメールサーバからメールサーバへリレー方式で配送される仕組みであること、電子メールシステムの特徴、機能を理解する。

用語例 SMTP, POP3, IMAP4, MIME, base64

② Web

WWW はインターネット上で提供されるハイパertextのシステムであり、Web サーバとクライアント (Web ブラウザ) を利用してアクセスすること、Web ページは HTML, XML などのマークアップ言語で記述され、ハイパーリンクで簡単に別のページを参照できることや、Web アプリケーションシステムの仕組み、特徴、機能を理解する。

用語例 HTTP, CGI, cookie, URL, セッション ID

③ ファイル転送

FTP サーバとクライアントの仕組みや Web への組み込み方式の仕組み、特徴、機能を理解する。

用語例 アップロード, ダウンロード, TFTP (Trivial File Transfer Protocol)

④ 検索エンジン

Web の環境で利用される代表的な検索エンジンの仕組み、特徴を理解する。

用語例 全文検索型, ディレクトリ型, ロボット型

(2) イン트라ネット

インターネットの技術を企業内ネットワークの構築に応用したイントラネットの仕組み、特徴、機能を理解する。

用語例 VPN, 相手固定接続, プライベート IP アドレス, NAT

(3) エクストラネット

企業のイントラネットを相互接続したエクストラネットの仕組み、特徴、機能を理解する。

用語例 EC (Electronic Commerce : 電子商取引), EDI

(4) ネットワーク OS

ネットワーク管理や通信サービスの提供を専門に行うソフトウェアであるネットワーク OS の仕組み、特徴、機能を理解する。

用語例 ピアツーピア形式, クライアントサーバ形式, NetWare

(5) 通信サービス

代表的な通信サービスの種類，特徴，機能，利用条件，サービス選択上の留意事項を理解する。

用語例 専用線サービス，回線交換サービス，パケット交換サービス，フレームリレー，セルリレー，ATM，IP 電話，ADSL，xDSL，FTTH，衛星通信サービス，国際通信サービス，広域 Ethernet，IP-VPN，ベストエフォート

(6) モバイルシステム

① モバイル通信サービス

モバイル通信サービスの種類，特徴，サービス選択上の留意事項を理解する。

用語例 移動体通信事業者，仮想移動体通信事業者（MVNO：Mobile Virtual Network Operator），LTE，VoLTE，キャリアアグリゲーション，SIM カード

② モバイルシステム構成要素

モバイルシステムの構成要素，特徴，機能を理解する。

用語例 基地局，フェムトセル，携帯端末（携帯電話，スマートフォン，タブレット端末ほか），テザリング

③ モバイル通信技術

無線 LAN も含め，無線通信で用いられる基盤技術の特徴を理解する。

用語例 ハンドオーバー，ローミング，MIMO，省電力化技術（間欠受信，ドーマント（プリザベーション）ほか）

1. 情報セキュリティ

【目標】

- 情報セキュリティの目的, 考え方, 重要性を修得し, 応用する。
- 情報資産に対する脅威, 脆弱性^{ぜい}と主な攻撃手法の種類を修得し, 応用する。
- 情報セキュリティに関する技術の種類, 仕組み, 特徴, その技術を使用することで, どのような脅威を防止できるかを修得し, 応用する。

(1) 情報セキュリティの目的と考え方

情報の機密性 (Confidentiality), 完全性 (Integrity), 可用性 (Availability) を確保, 維持することによって, 様々な脅威から情報システム及び情報を保護し, 情報システムの信頼性を高めることを理解する。

用語例 機密性 (Confidentiality), 完全性 (Integrity), 可用性 (Availability), 真正性 (Authenticity), 責任追跡性 (Accountability), 否認防止 (Non-Repudiation), 信頼性 (Reliability), OECD セキュリティガイドライン (情報システム及びネットワークのセキュリティのためのガイドライン)

(2) 情報セキュリティの重要性

社会のネットワーク化に伴い, 企業にとって情報セキュリティの水準の高さが企業評価の向上につながることで, 情報システム関連の事故が事業の存続を脅かすことから, 情報セキュリティの重要性を理解する。

用語例 情報資産, 脅威, 脆弱性^{ぜい}, サイバー空間, サイバー攻撃

(3) 脅威

① 脅威の種類

情報資産に対する物理的脅威, 技術的脅威, 人的脅威を理解する。

用語例 物理的脅威 (事故, 災害, 故障, 破壊, 盗難, 不正侵入ほか), 技術的脅威 (不正アクセス, 盗聴, なりすまし, 改ざん, エラー, クラッキングほか), 人的脅威 (誤操作, 紛失, 破損, 盗み見^{ひゅう}, 不正利用, ソーシャルエンジニアリングほか), 情報漏えい, 故意, 過失, 誤謬, 不正行為, 妨害行為, サービス妨害

② マルウェア・不正プログラム

マルウェア・不正プログラムの種類とその振る舞いを理解する。

用語例 コンピュータウイルス, マクロウイルス, ワーム, ボット (ボットネット, 遠隔操作型ウイルス, C&C サーバ), トロイの木馬, スパイウェア, ランサムウェア, キーロガー, ルートキット, バックドア, 偽セキュリティ対策ソフト

(4) 脆弱性

情報システムの情報セキュリティに関する欠陥, 企業, 組織, 個人に対する行動規範の不徹底, 未整備という脅威に対する不備などの脆弱性を理解する。

用語例 バグ, セキュリティホール, 人為的脆弱性, シャドーIT

(5) 不正のメカニズム

不正行為が発生する要因, 内部不正による情報セキュリティ事故・事件の発生を防止する

ための環境整備の考え方を理解する。

用語例 不正のトライアングル（機会、動機、正当化）、状況的犯罪予防

(6) 攻撃者の種類、攻撃の動機

悪意をもった攻撃者の種類、及び攻撃者が不正・犯行・攻撃を行う主な動機を理解する。

用語例 スクリプトキディ、ボットハーダ、内部関係者、愉快犯、詐欺犯、故意犯、金銭奪取、ハクティビズム、サイバーテロリズム

(7) 攻撃手法

情報システムへの外部からの不正な行為と手法を理解する。

用語例

- ・辞書攻撃、総当たり（ブルートフォース）攻撃、リバースブルートフォース攻撃、レインボー攻撃、パスワードリスト攻撃
- ・クロスサイトスクリプティング、クロスサイトリクエストフォージェリ、クリックジャッキング、ドライブバイダウンロード、SQL インジェクション、ディレクトリトラバーサル
- ・中間者攻撃（Man-in-the-middle）、第三者中継、IP スプーフィング、キャッシュポイズニング、セッションハイジャック、リプレイ攻撃
- ・DoS（Denial of Service：サービスの妨害）攻撃、DDoS 攻撃、メールボム、リフレクタ攻撃
- ・標的型攻撃（APT（Advanced Persistent Threats）、水飲み場型攻撃、やり取り型攻撃ほか）
- ・フィッシング（ワンクリック詐欺、スミッシングほか）、ゼロデイ攻撃、サイドチャンネル攻撃、フットプリンティング

(8) 情報セキュリティに関する技術

① 暗号技術

脅威を防止するために用いられる暗号技術の活用を理解する。また、暗号化の種類、代表的な暗号方式の仕組み、特徴を理解する。

用語例 CRYPTREC 暗号リスト、暗号方式（暗号化（暗号鍵）、復号（復号鍵）、解読、共通鍵暗号方式（共通鍵）、公開鍵暗号方式（公開鍵、秘密鍵））、AES（Advanced Encryption Standard）、RSA（Rivest, Shamir, Adleman）、楕円暗号方式、S/MIME（Secure MIME）、PGP（Pretty Good Privacy）、ハイブリッド暗号、ハッシュ関数（SHA-256 ほか）、ブロック暗号利用モード（CBC、CTR ほか）、鍵管理、ディスク暗号化、ファイル暗号化、危殆化^{たい}

② 認証技術

認証の種類、仕組み、特徴、脅威を防止するためにどのような認証技術が用いられるか、認証技術が何を証明するかを理解する。

用語例 デジタル署名（署名鍵、検証鍵）、XML 署名、タイムスタンプ（時刻認証）、メッセージ認証、MAC（Message Authentication Code：メッセージ認証符号）、チャレンジレスポンス認証

③ 利用者認証

利用者認証のために利用される技術の種類、仕組み、特徴を理解する。

用語例 ログイン（利用者 ID とパスワード）、アクセス管理、IC カード、PIN コード、

Kerberos 方式，ワンタイムパスワード，多要素認証，アイデンティティ連携（OpenID，SAML），セキュリティトークン，シングルサインオン，CAPTCHA

④ 生体認証技術

利用者確認に利用される技術の一つである生体認証技術の種類，仕組み，特徴を理解する。

用語例 静脈パターン認証，虹彩認証，声紋認証，顔認証，網膜認証，署名認証，本人拒否率，他人受入率

⑤ 公開鍵基盤

PKI（Public Key Infrastructure：公開鍵基盤）の仕組み，特徴，活用場面を理解する。

用語例 PKI（Public Key Infrastructure：公開鍵基盤），デジタル証明書（公開鍵証明書），ルート証明書，サーバ証明書，クライアント証明書，CRL（Certificate Revocation List：証明書失効リスト），OCSP，CA（Certification Authority：認証局），GPKI（Government Public Key Infrastructure：政府認証基盤），BCA（Bridge Certification Authority：ブリッジ認証局），SET（Secure Electronic Transaction）

2. 情報セキュリティ管理

【目標】

- 情報セキュリティ管理の考え方を修得し，応用する。
- リスク分析と評価などの方法，手順を修得し，応用する。
- 情報セキュリティ継続の考え方を修得し，応用する。
- 情報セキュリティ諸規程（情報セキュリティポリシーを含む組織内規程）の目的，考え方を修得し，応用する。
- 情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）や情報セキュリティに関係するその他の基準の考え方，情報セキュリティ組織・機関の役割を修得し，応用する。

(1) 情報セキュリティ管理

組織の情報セキュリティ対策を包括的かつ継続的に実施するために，情報セキュリティ管理の考え方，保護対象である情報資産を理解する。

用語例 情報セキュリティポリシーに基づく情報の管理，情報，情報資産，物理的資産，ソフトウェア資産，人的資産（人，保有する資格・技能・経験），無形資産，サービス，リスクマネジメント（JIS Q 31000），監視，情報セキュリティ事象，情報セキュリティインシデント

(2) リスク分析と評価

① 情報資産の調査

情報セキュリティリスクアセスメント及び情報セキュリティリスク対応に当たり，情報資産（情報システム，データ，文書ほか）を調査して特定することを理解する。

② 情報資産の重要性による分類

機密性，完全性，可用性の側面から情報資産の重要性を検討し分類することで，情報資産を保護するための判断基準を作成し，要求される情報セキュリティの水準が定められることを理解した上で情報資産を分類することを理解する。

用語例 機密性，完全性，可用性，情報資産台帳

③ リスクの種類

調査した情報資産を取り巻く脅威に対するリスクの種類を理解する。

用語例 財産損失，責任損失，純収益の喪失，人的損失，リスクの種類（オペレーショナルリスク，サプライチェーンリスク，外部サービス利用のリスク，SNS による情報発信のリスクほか），ペリル，ハザード，モラルハザード，年間予想損失額，得点法，コスト要因

④ 情報セキュリティリスクアセスメント

リスクを特定し，そのリスクの生じやすさ及び実際に生じた場合に起こり得る結果を定量的又は定性的に把握してリスクレベルを決定し，組織が定めたリスク受容基準に基づく評価を行うことを理解する。

用語例 リスク基準（リスク受容基準，情報セキュリティリスクアセスメントを実施するための基準），リスクレベル，リスクマトリックス，リスク所有者，リスク源，リスクアセスメントのプロセス（リスク特定，リスク分析，リスク評価），リスク忌避，リスク選好，定性的リスク分析手法，定量的リスク分析手法

⑤ 情報セキュリティリスク対応

情報セキュリティリスクアセスメントの結果を考慮して，適切な情報セキュリティリスク対応の選択肢を選定し，その選択肢の実施に必要な管理策を決定することを理解する。

用語例 リスクコントロール，リスクヘッジ，リスクファイナンス，情報化保険，リスク回避，リスク共有（リスク移転，リスク分散），リスク保有，リスク集約，残留リスク，リスク対応計画，リスク登録簿，リスクコミュニケーション

(3) 情報セキュリティ継続

組織が困難な状況（例えば，危機又は災害）に備えて，情報セキュリティ継続（継続した情報セキュリティの運用を確実にするためのプロセス）を組織の事業継続マネジメントシステムに組み込む必要性を理解する。

用語例 緊急事態の区分，緊急時対応計画（コンティンジェンシープラン），復旧計画，災害復旧，バックアップ対策，被害状況の調査手法

(4) 情報セキュリティ諸規程（情報セキュリティポリシーを含む組織内規程）

情報セキュリティ管理における情報セキュリティポリシーの目的，考え方，情報セキュリティポリシーに従った組織運営を理解する。また，リスクを分析，評価した結果に基づいて，情報セキュリティ方針，組織の情報セキュリティ，資産の分類・管理，人的・技術的・物理的セキュリティなどを体系立てて策定する情報セキュリティ諸規程の目的，内容を理解する。

用語例 情報セキュリティ方針，情報セキュリティ目的，情報セキュリティ対策基準，情報管理規程，機密管理規程，文書管理規程，情報セキュリティインシデント対応規程（コンピュータウイルス感染時の対応ほか），情報セキュリティ教育の規程，プライバシーポリシー（個人情報保護方針），職務規程，罰則の規程，対外説明の規程，例外の規程，規則更新の規程，規程の承認手続

(5) 情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）

組織体における情報セキュリティ管理の水準を高め，維持し，改善していく ISMS（Information Security Management System：情報セキュリティマネジメントシステム）の仕組みを理解する。

用語例 ISMS 適用範囲，リーダーシップ，計画，運用，パフォーマンス評価（内部監査，マネジメントレビューほか），改善（不適合及び是正処置，継続的改善），管理目的，管理策（情報セキュリティインシデント管理，情報セキュリティの教育及び訓練，法的及び契約上の要求事項の順守ほか），有効性，ISMS 適合性評価制度，ISMS 認

証, JIS Q 27001 (ISO/IEC 27001), JIS Q 27002 (ISO/IEC 27002), 情報セキュリティガバナンス (JIS Q 27014)

(6) 情報セキュリティ組織・機関

不正アクセスによる被害受付の対応, 再発防止のための提言, 情報セキュリティに関する啓発活動などを行う情報セキュリティ組織・機関の役割を理解する。

用語例 情報セキュリティ委員会, 情報セキュリティ関連組織 (CSIRT, SOC (Security Operation Center)), サイバーセキュリティ戦略本部, 内閣サイバーセキュリティセンター (NISC), IPA セキュリティセンター, CRYPTREC, JPCERT/CC, コンピュータ不正アクセス届出制度, コンピュータウイルス届出制度, ソフトウェア等の脆弱性関連情報に関する届出制度, 情報セキュリティ早期警戒パートナーシップ, J-CSIP (サイバー情報共有イニシアティブ), JVN (Japan Vulnerability Notes), ホワイトハッカー

3. セキュリティ技術評価

【目標】

➤ セキュリティ技術評価の目的, 考え方, 適用方法を修得し, 応用する。

(1) セキュリティ評価基準

情報資産の不正コピーや改ざんなどを防ぐセキュリティ製品の, セキュリティ水準を知るためのセキュリティ技術評価の目的, 考え方, 適用方法を理解する。

用語例 評価方法, セキュリティ機能要件, セキュリティ保証要件, 保証レベル, JCMVP (暗号モジュール試験及び認証制度), PCI DSS, CVSS (Common Vulnerability Scoring System: 共通脆弱性評価システム), 脆弱性検査, IT 製品の調達におけるセキュリティ要件リスト, ペネトレーションテスト, 耐タンパ性

(2) ISO/IEC 15408

情報技術セキュリティの観点から, 情報技術に関連した製品及びシステムが適切に設計され, 正しく実装されていることを評価する ISO/IEC 15408 (コモンクライテリア) の適用方法を理解する。

用語例 CC (Common Criteria: コモンクライテリア), ST (Security Target: セキュリティターゲット), CEM (Common Methodology for Information Technology Security Evaluation), EAL (Evaluation Assurance Level: 評価保証レベル), JISEC (IT セキュリティ評価及び認証制度)

4. 情報セキュリティ対策

【目標】

➤ 人的, 技術的, 物理的セキュリティの側面から情報セキュリティ対策を修得し, 応用する。

(1) 情報セキュリティ対策の種類

① 人的セキュリティ対策

人的セキュリティ対策として, 人による誤り, 盗難, 不正行為のリスクなどを軽減するための教育と訓練, 事件や事故に対して被害を最小限にするための対策を理解する。

用語例 組織における内部不正防止ガイドライン, 情報セキュリティ啓発 (教育, 訓練, 資料配付, メディア活用), パスワード管理, 利用者アクセスの管理 (アカウント管理, 特権的アクセス権の管理, need-to-know (最小権限) ほか), ログ管理, 監視

② 技術的セキュリティ対策

技術的セキュリティ対策として、ソフトウェア、データ、ネットワークなどに技術的対策を実施することで、システム開発、運用業務などに被害が発生することを防ぐことを理解する。

用語例 [技術的セキュリティ対策の種類]

クラッキング対策、不正アクセス対策、情報漏えい対策、マルウェア・不正プログラム対策（ウイルス対策ソフトの導入、ウイルス定義ファイルの更新ほか）、コンピュータウイルス検出手法（ビヘイビア法ほか）、出口対策、入口対策、多層防御、暗号処理、秘匿化、アクセス制御、脆弱性管理（OS アップデート、脆弱性修正プログラム（セキュリティパッチ）の適用ほか）、ネットワーク監視、ネットワークアクセス権の設定、侵入検知、侵入防止、DMZ（非武装地帯）、検疫ネットワーク、電子メール・Web のセキュリティ（スパム対策、SPF、URL フィルタリング、コンテンツフィルタリング）、携帯端末（携帯電話、スマートフォン、タブレット端末ほか）のセキュリティ、無線 LAN セキュリティ、ハードウェアのセキュリティ（セキュアエレメント、TPM (Trusted Platform Module)）、クラウドコンピューティングのセキュリティ、クラウドサービスのセキュリティ、電子透かし、デジタルフォレンジックス（証拠保全ほか）

[セキュリティ製品・サービス]

ウイルス対策ソフト、DLP（Data Loss Prevention）、SIEM（Security Information and Event Management）、ファイアウォール、WAF（Web Application Firewall）、IDS（Intrusion Detection System：侵入検知システム）、IPS（Intrusion Prevention System：侵入防止システム）、UTM（Unified Threat Management：統合脅威管理）、SSL/TLS アクセラレータ、MDM（Mobile Device Management）

③ 物理的セキュリティ対策

物理的セキュリティ対策として、外部からの侵入、盗難、水害、落雷、地震、大気汚染、爆発、火災などから情報システムを保護し、情報システムの信頼性、可用性を確保するための対策を理解する。

用語例 RASIS (Reliability, Availability, Serviceability, Integrity, Security), RAS 技術, 耐震耐火設備, UPS, 二重化技術, ミラーリング, ハウジングセキュリティ, 監視カメラ, セキュリティゲート, 施錠管理, 入退室管理, クリアデスク・クリアスクリーン, 遠隔バックアップ, USB キー, セキュリティワイヤ

5. セキュリティ実装技術

【目標】

- システムの開発、運用におけるセキュリティ対策やセキュア OS の仕組み、実装技術、効果を修得し、応用する。
- ネットワーク、データベースに実装するセキュリティ対策の仕組み、実装技術効果を修得し、応用する。
- アプリケーションセキュリティの対策の仕組み、実装技術効果を修得し、応用する。

(1) セキュアプロトコル

通信データの盗聴、不正接続を防ぐセキュアプロトコルの種類と効果を理解する。

用語例 IPsec, SSL/TLS, SSH, HTTPS (HTTP over TLS), WPA2

(2) 認証プロトコル

なりすましによる不正接続，サービスの不正利用を防ぐ認証プロトコルの種類と効果を理解する。

用語例 SPF, DKIM, SMTP-AUTH, OAuth, DNSSEC, EAP, EAP-TLS, PEAP, RADIUS, Diameter

(3) セキュア OS

システムの開発，運用におけるセキュリティ対策やセキュリティを強化した OS であるセキュア OS の仕組み，実装技術，効果を理解する。

用語例 MAC (Mandatory Access Control : 強制アクセス制御), 最小特権, トラストッド OS

(4) ネットワークセキュリティ

ネットワークに対する不正アクセス，不正利用，サービスの妨害行為などの脅威に対する対策の仕組み，実装方法，効果を理解する。

用語例 関門ルータ, パケットフィルタリング, MAC アドレス (Media Access Control address) フィルタリング, アプリケーションゲートウェイ方式, 認証サーバ, NAT, IP マスカレード, VLAN, VPN, セキュリティ監視, OP25B, ハニーポット, リバースプロキシ

(5) データベースセキュリティ

データベースに対する不正アクセス，不正利用，破壊などの脅威に対する対策の仕組み，実装方法，効果を理解する。

用語例 データベース暗号化, データベースアクセス制御, データベースバックアップ, ログの取得

(6) アプリケーションセキュリティ

Web アプリケーションに対する攻撃を抑制するアプリケーションセキュリティの対策の仕組み，実装方法，効果を理解する。

用語例 Web システムのセキュリティ対策, セキュアプログラミング, 脆弱性低減技術 (ソースコード静的検査, プログラムの動的検査, フェジングほか), Same Origin Policy, パスワードクラック対策 (ソルト, ストレッチングほか), バッファオーバーフロー対策, クロスサイトスクリプティング対策, SQL インジェクション対策 (エスケープ処理ほか)

1. システム要件定義

【目標】

- システム要件定義の考え方、手順、手法、留意事項を修得し、適用する。

(1) システム要件定義のタスク

システム要件定義では、システム要件の定義、システム要件の評価、システム要件の共同レビューを実施することを理解する。

(2) システム要件の定義

① システム化の目標と対象範囲

システム化の目標、対象範囲（対象業務、対象部署）をまとめることを理解する。

② 機能及び能力の定義

システムの機能要件、性能要件をまとめることを理解する。

用語例 システム機能仕様、レスポンスタイム、スループット

③ 業務・組織及び利用者の要件

利用者の業務処理手順、入出力情報要件、操作要件（システム操作イメージ）の定義など、業務、組織、利用者からの要求事項をシステム開発の項目に対応させ、明確に定義することを理解する。また、開発対象システムの具体的な利用法を調査、分析して要件を抽出し、5W2H（Why, When, Where, Who, What, How, How much）の観点から明確に文書化することを理解する。

用語例 性能要件、データベース要件、テスト要件、セキュリティ要件、移行要件、運用要件、運用手順、運用形態、保守要件、可用性、障害対応、教育、訓練、費用、保守の形態、保守のタイミング

④ その他の要件

システム構成要件、設計制約条件、適格性確認要件（開発するシステムが利用可能な品質であることを確認する基準）の定義、開発環境の検討などを行うことを理解する。

用語例 実行環境要件、周辺インタフェース要件、品質要件、機能要件、非機能要件

(3) システム要件の評価及びレビュー

システム要件を評価する際の基準を理解する。また、システム要件定義書の作成後、システムの取得者及び供給者が共同でレビューを行うことを理解する。

用語例 追跡可能性、一貫性、テスト可能性、システム方式設計の実現可能性、運用及び保守の実現可能性、レビュー参加者、レビュー方式

2. システム方式設計

【目標】

- システム方式設計の考え方、手順、手法、留意事項を修得し、適用する。

(1) システム方式設計のタスク

システム方式設計では、システムの最上位の方式確立、利用者文書（暫定版）の作成、システム方式の評価、システム方式設計の共同レビューを実施することを理解する。

用語例 ハードウェア構成品目，ソフトウェア構成品目，手作業，機能要件，非機能要件

(2) システムの最上位の方式確立

① システム方式設計の目的

システム方式設計では，全てのシステム要件をハードウェア，ソフトウェア，手作業に振り分け，それらを実現するために必要なシステムの構成品目を決定すること，システム要求仕様が実現できるか，リスクなどを考慮した選択肢の提案は可能か，効率的な運用及び保守ができるかなど，システム方式を選択する際に考慮すべき点を理解する。

② ハードウェア・ソフトウェア・手作業の機能分割

ハードウェア，ソフトウェア，手作業の機能分割を，業務効率，作業負荷，作業コストなどの観点から検討し，決定することを理解する。

用語例 利用者作業範囲

③ ハードウェア方式設計

信頼性や性能要件に基づいて，冗長化やフォールトトレラント設計，サーバの機能配分，信頼性配分などを検討し，ハードウェア構成を決定することを理解する。

④ ソフトウェア方式設計

システムの供給者が自社で全て開発するか，ソフトウェアパッケージなどを利用するかなどの方針，使用するミドルウェアの選択などを検討し，ソフトウェア構成を決定することを理解する。

⑤ システム処理方式設計

業務に応じて集中処理，分散処理を選択すること，Web システム，クライアントサーバシステムなど，システムの処理方式を検討し，決定することを理解する。

⑥ データベース方式設計

システムで使用するデータベースの種類，信頼性を考慮し冗長化したレプリケーションなどを検討し，決定することを理解する。

用語例 関係データベース，NDB (Network Database：網型データベース)，OODB (Object Oriented Database：オブジェクト指向データベース)，XML データベース

(3) システム結合テストの設計

システム方式設計に対し，システム結合テストの範囲，テスト計画，テスト手順などの方針を検討し，システムが機能を全て満たしているかどうかを確認するシステム結合テスト仕様書を作成することを理解する。

用語例 テスト要求事項

(4) システム方式の評価及びレビュー

決定したシステム方式がシステム要件に合致しているか，実現可能かなど，システム方式を評価する際の基準を作成し，システムの取得者及び供給者が共同でレビューを行うことを理解する。

用語例 追跡可能性，一貫性，設計標準や方法の適切性，ソフトウェア品目の実現可能性，運用及び保守の実現可能性，レビュー参加者，レビュー方式

3. ソフトウェア要件定義

【目標】

(1) ソフトウェア要件定義のタスク

ソフトウェア要件定義では、ソフトウェア要件の確立、ソフトウェア要件の評価、ソフトウェア要件の共同レビューを実施することを理解する。

用語例 ソフトウェア構成品目

(2) ソフトウェア要件の確立

① ソフトウェア要件定義の目的

ソフトウェア要件定義では、業務モデル、論理データモデルを作成して、システムを構成するソフトウェアに求められる機能、能力、インタフェースなどを決定し、ソフトウェア適格性確認要件を定めることを理解する。また、要件定義のための業務分析には、DFD、E-R図、UMLなどの分析、表現方法を使用することを理解する。

② サブシステムの機能仕様とそのインタフェースの設計

サブシステムの機能仕様とそのインタフェースの設計の一連の活動と留意事項を理解する。

用語例 サブシステム分割、サブシステム機能仕様定義、サブシステムインタフェース定義、サブシステム関連図、サービスの定義

③ 業務モデルとデータモデルの設計

業務フローやサブシステム間の関係から業務モデルとデータモデルを作成する一連の活動と留意事項、データモデルの種類と各々の特徴を理解する。

用語例 業務モデリング、帳票設計、伝票設計、データモデリング、システム業務フロー

④ セキュリティの設計

企業の情報セキュリティポリシーに即したセキュリティ機能の実現方式設計の一連の活動と留意事項を理解する。

用語例 情報セキュリティ方針、セキュリティ要件、セキュリティ実現方式、安全性対策、信頼性対策

⑤ 保守性の考慮

運用開始後の新機能の追加及び既存機能の変更に必要な工数を抑えるための設計上の配慮の必要性を理解する。

用語例 無矛盾性、自己記述性、構造的性、簡潔性、拡張性

(3) ソフトウェア要件の評価及びレビュー

決定したソフトウェア要件がシステム要件及びシステム方式に合致しているか、実現可能かなど、ソフトウェア要件を評価する際の基準、ソフトウェア要件定義書の作成後、システムの取得者及び供給者が共同でレビューを行うことを理解する。

用語例 追跡可能性、外部一貫性、内部一貫性、テスト可能性、ソフトウェア設計の実現可能性、運用及び保守の実現可能性、レビュー参加者、レビュー方式

(4) 業務分析や要件定義に用いられる手法

① ヒアリング

ソフトウェアに何が要求されているかを明らかにし、理解するためには、利用者からのヒアリングが有効であること、ヒアリング実施の手順、考え方を理解する。

用語例 ヒアリング計画, ヒアリング議事録

② ユースケース

ユースケースは、一つの目標を達成するための利用者とシステムのやり取りを定義するために用いること、その特徴、目的、ユースケースを描く方法を理解する。

用語例 アクタ, 振舞い, ユースケース図

③ モックアップ及びプロトタイプ

ソフトウェア要求分析において、外部仕様の有効性、仕様の漏れ、実現可能性などの評価を行い、手戻りを防ぐためにモックアップ及びプロトタイプを作成することがあること、モックアップ及びプロトタイピングの特徴を理解する。

用語例 プロトタイプ版評価

④ DFD

業務プロセスをデータの流れに着目して表現する場合に、DFD を使用することを理解する。

用語例 コンテキストダイアグラム, ミニスペック, 段階的詳細化, 構造化分析法, アクティビティ, データストア, データフロー, プロセス

⑤ E-R 図

業務で扱う情報を抽象化し、実体（エンティティ）と実体間の関連（リレーションシップ）を表現する場合に、E-R 図を使用することを理解する。

用語例 データ中心設計, 実体, 関連

⑥ UML

オブジェクト指向設計の標準化された表記法として UML があること、UML で用いる図式の種類、特徴、UML を用いてシステムの仕組みを表現する方法を理解する。

用語例 クラス図, 操作, 属性, ロール名, パッケージ図, アクティビティ図, ユースケース図, ステートチャート図, シーケンス図, コミュニケーション図, イベントフロー分析, バックトラック, コントロールフロー, 分析と設計の役割分担, エージェント指向, モデル, フレームワーク

⑦ その他の手法

その他、業務分析や要件定義に用いられる手法を理解する。

用語例 決定表（デシジョンテーブル）

4. ソフトウェア方式設計・ソフトウェア詳細設計

【目標】

- ソフトウェア方式設計の考え方、手順、手法、留意事項を修得し、応用する。
- ソフトウェア詳細設計の考え方、手順、手法、留意事項を修得し、応用する。

(1) ソフトウェア方式設計のタスク

ソフトウェア方式設計では、ソフトウェア構造とコンポーネントの方式設計、外部及びコンポーネント間のインタフェースの方式設計、データベースの最上位レベルの設計、利用本文書（暫定版）の作成、ソフトウェア結合のためのテスト要件の定義、ソフトウェア方式設計の評価、ソフトウェア方式設計の共同レビューを実施することを理解する。

用語例 ソフトウェアコンポーネント, ソフトウェアコンポーネント分割, ソフトウェアコンポーネント間インタフェース設計, ソフトウェア結合のためのテスト要件

(2) ソフトウェア詳細設計のタスク

ソフトウェア詳細設計では、ソフトウェアコンポーネントの詳細設計、ソフトウェアインタフェースの詳細設計、データベースの詳細設計、利用者文書の更新、ソフトウェアユニットのテスト要件の定義、ソフトウェア結合のためのテスト要件の更新、ソフトウェア詳細設計及び要求事項の評価、ソフトウェア詳細設計の共同レビューを実施することを理解する。

用語例 ソフトウェアコンポーネントの単位、機能階層図、ソフトウェアユニット、ユニット分割、コンポーネント詳細設計、ソフトウェアコンポーネントインタフェース詳細設計、ソフトウェアユニット間インタフェース設計、データベース詳細設計

(3) ソフトウェア方式設計

ソフトウェア方式設計では、ソフトウェア要件定義書を基に、開発側の視点からソフトウェアの構造とコンポーネントの設計を行うこと、ソフトウェアをソフトウェアコンポーネント（プログラム）まで分割し、各ソフトウェアコンポーネントの機能、ソフトウェアコンポーネント間の処理の手順や関係を明確にすること、ソフトウェア方式設計書作成の構成、記述上の留意事項を理解する。

用語例 構造化、ソフトウェアコンポーネント機能仕様決定、コンポーネント間インタフェース設計、基本機能、部品、入出力設計、物理データ設計、部品化、再利用

(4) ソフトウェア詳細設計

ソフトウェア詳細設計では、ソフトウェア方式設計書を基に、各ソフトウェアコンポーネントを、コーディングし、コンパイルし、テストするソフトウェアユニット（単体、クラス、モジュール）のレベルに詳細化し、文書化することを理解する。

用語例 コンポーネントインタフェース、データベース、モジュール分割、モジュール仕様、セグメント化、制御構造、制御セグメント、データ処理、加工セグメント、プログラム設計

(5) インタフェース設計

インタフェース設計では、ソフトウェア要件定義書を基に、操作性、応答性、視認性、ハードウェア及びソフトウェアの機能、処理方法を考慮して、入出力装置を介して取り扱われるデータに関する物理設計を行うことを理解する。

用語例 入出力詳細設計、GUI、画面設計、帳票伝票設計、レイアウト設計、インタフェース設計基準、タイミング設計、インタフェース条件、インタフェース項目、ヒューマンインタフェース、画面構成、フォームオーバーレイ、リミットチェック

(6) ソフトウェアユニットのテストの設計

ソフトウェア詳細設計書で提示された要件を全て満たしているかどうかを確認するために、テストの範囲、テスト計画、テスト方式を定義し、ソフトウェアユニットのテスト仕様書を作成することを理解する。

用語例 テスト要件、チェックリスト、ホワイトボックステスト

(7) ソフトウェア結合テストの設計

ソフトウェア方式設計書で提示された要件を全て満たしているかどうかを確認するために、テストの範囲、テスト計画、テスト方式を定義し、ソフトウェア結合テスト仕様書を作成することを理解する。

用語例 ソフトウェア結合テスト仕様、テスト要件、チェックリスト、ブラックボックステスト

(8) ソフトウェア設計の評価及びレビュー

ソフトウェア設計内容がソフトウェア要件に合致していること、ソフトウェアコンポーネント間やソフトウェアユニット間の内部一貫性などのソフトウェア設計を評価する際の基準を理解する。また、ソフトウェア方式設計書、詳細設計書について、作成後にレビューを行うことを理解する。

用語例 追跡可能性，外部一貫性，内部一貫性，設計方法や作業標準の適切性，テストの実現可能性，運用及び保守の実現可能性，レビュー参加者，レビュー方式

(9) ソフトウェア品質

JIS X 25010 (ISO/IEC 25010) で規定されているシステム及びソフトウェア製品の品質特性を理解し、要件定義や設計の際には品質特性を考慮することを理解する。

用語例 JIS X 25010 (ISO/IEC 25010)，ISO 9000

① 利用時の品質モデル

システムとの対話による成果に関係する五つの特性である，利用時の品質モデルを理解する。

用語例 有効性，効率性，満足性，リスク回避性，利用状況網羅性

② 製品品質モデル

システム及び／又はソフトウェア製品の品質特徴（品質に関係する測定可能な特徴とそれに伴う品質測定量）を八つに分類した製品品質モデルを理解する。また，各特性は関連する副特性の集合から構成されていることを理解する。

用語例 機能適合性，性能効率性，互換性，使用性（習得性，運用操作性，アクセシビリティほか），信頼性（可用性，回復性ほか），セキュリティ，保守性（解析性，試験性ほか），移植性

(10) ソフトウェア設計手法

① プロセス中心設計

プロセス中心設計手法によるソフトウェア設計の考え方と手順を理解する。

② データ中心設計

データ中心設計手法によるソフトウェア設計の考え方と手順を理解する。

用語例 DOA (Data Oriented Approach : データ中心アプローチ)，E-R 図，実体，関連，正規化，一事実一箇所

③ 構造化設計

(a) 機能分割と構造化

機能分割と構造化の手順（機能の洗い出し，データフローの明確化，機能のグルーピング化，階層構造化，プログラム機能の決定，機能仕様の文書化），構造化設計による機能分割の利点，留意事項を理解する。

用語例 階層，段階的詳細化，複合設計

(b) 構造化設計の手法

構造化設計で用いられる手法として，流れ図，DFD，構造化チャート，状態遷移図などがあることを理解する。

用語例 順次，選択，繰返し，NS（Nassi-Shneiderman：ナッシシュナイダマン）図，HIPO（Hierarchy plus Input Process Output），ブロック図，バブルチャート，階層構造図，イベントトレース図，ジャクソン法，ワーニエ法

(c) プログラムの構造化設計

プログラムの構造化設計の目的，基本的な考え方，手順を理解する。

用語例 品質特性，モジュール分割

④ オブジェクト指向設計

オブジェクト指向設計の考え方，手順，手法を理解する。

用語例 クラス，抽象クラス，スーパークラス，インスタンス，属性，メソッド，カプセル化，サブクラス，継承（インヘリタンス），部品化，再利用，クラス図，多相性，パッケージ，関連，派生関連，派生属性，コレクション，汎化，特化，分解，集約

(11) コンポーネントの設計

① コンポーネント分割の考え方

コンポーネントを分割する際の基準には，処理パターン適用，処理タイミングの違い，処理効率の違い，同時使用可能資源，入出力装置の特徴などがあることを理解する。また，基準ごとの特徴を理解する。

用語例 ファイルの統合，ファイルの分割，レコード処理，処理の周期

② プログラム分割基準

プログラム分割の基準を理解する。

用語例 分かりやすさ，安全性，開発の生産性，運用性，処理能力，保守性，再利用性

(12) モジュールの設計

① 分割手法

分割手法には，データの流れに着目した手法とデータ構造に着目した手法があり，内部処理の形態に応じて複数の分割手法を組み合わせること，分割手法の種類，特徴を理解する。

用語例 STS（Source Transform Sink）分割，TR（Transaction：トランザクション）分割，共通機能分割，論理設計，領域設計，サブルーチン，再帰プログラム

② 分割基準

モジュールの独立性の評価基準として，モジュールの強度，結合度，それらと独立性との関係，分割量の評価基準，部品化と再利用のための評価基準を理解する。

用語例 モジュールの制御領域，モジュールの影響領域，分割量，モジュール再分割，従属モジュール，機能的強度，情報的強度，データ結合，制御結合

③ モジュール仕様の作成

各モジュール仕様の作成の考え方，手順，モジュール仕様の作成に用いられる手法を理解する。

用語例 流れ図，PSD（Program Structure Diagram），DSD（Design Structure Diagram），SPD（Structured Programming Diagrams），HCP（Hierarchical and Compact description）チャート，PAD（Problem Analysis Diagram），決定表（デシジヨ

ンテーブル), ワーニエ法, ジャクソン法, NS 図, 論理構造図, プログラミング
テーブル

(13) 部品化と再利用

ソフトウェアの部品化と再利用の必要性, 部品の種類と特徴, 部品設計の留意事項, ソフトウェアパッケージの利用法を理解する。

用語例 コンポーネントウェア, ホワイトボックス型, ブラックボックス型, クラスライブラリ, デザインパターン, レガシーラッピング

(14) アーキテクチャパターン

アーキテクチャパターンはソフトウェア構造のパターンであることなどの特徴を踏まえて, アーキテクチャパターンを利用する利点, 留意事項を理解する。

用語例 MVC モデル

(15) デザインパターン

デザインパターンは主にオブジェクト指向設計に用いられ, 生成に関するパターン, 構造に関するパターン, 振る舞いに関するパターンの 3 種類に分類されることなどの特徴を踏まえて, デザインパターンを利用する利点, 留意事項を理解する。

用語例 生成, 構造, 振る舞い

(16) レビュー

① レビューの目的と手順

プロジェクト活動の状況や成果物を適宜評価するためのレビューの目的を理解する。また, レビューは文書の作成, レビューの実施 (レビュー方式の決定, レビューの評価基準の決定, レビュー参加者の選出), レビュー結果の文書への反映作業という手順で行われることを理解する。

② レビューの対象と種類

レビューの対象, 実施タイミング, 種類を理解する。

用語例 プログラム設計レビュー, コードレビュー, テスト仕様レビュー, 利用者マニュアルレビュー, デザインレビュー, インспекション, モデレータ, 文書化手法, ウォークスルー, 共同レビュー

③ 妥当性評価の項目

レビューで確認する妥当性評価の項目を理解する。

用語例 機能, 性能, 容量・能力, 信頼性, 操作性, 安定性, 運用の容易性, 技術的整合性, 合目的性, 実現可能性, 開発の合理性, 経済性, 投資効果

④ その他の妥当性評価手法

測定器やテストプログラムの利用によるデータ実測, 利用者の意見や感想の収集など, レビュー以外の妥当性評価の手法を理解する。

用語例 ヒアリング, アンケート, チェックリスト

5. ソフトウェア構築

【目標】

➤ ソフトウェア構築の考え方, 手順, 手法, 留意事項を修得し, 応用する。

(1) ソフトウェア構築のタスク

ソフトウェア構築では、ソフトウェアユニットの作成、テスト手順、テストデータの作成、ソフトウェアユニットのテストの実施、利用者文書の更新、ソフトウェア結合テスト要件の更新、ソフトウェアコード及びテスト結果の評価を実施することを理解する。

用語例 コーディング、プログラム言語、プログラム書法

(2) ソフトウェアユニットの作成

定められたコーディング基準、プログラム言語の仕様に従い、ソフトウェア詳細設計書に基づいてプログラミングを行うことを理解する。

用語例 セグメント化、アルゴリズム、データ処理、加工セグメント、構造化プログラミング、論理型プログラミング、並列処理プログラミング

(3) ソフトウェアコード及びテスト結果の評価基準

ソフトウェアコードとテスト結果を評価する際の基準を理解する。また、ソフトウェアユニットの作成、ソフトウェアユニットのテスト実施後、レビューを行うことを理解する。

用語例 追跡可能性、外部一貫性、内部一貫性、テスト網羅性、コーディング方法及び作業標準の適切性、ソフトウェア結合及びテストの実現可能性、運用及び保守の実現可能性

(4) コーディング基準

コーディング基準の目的を理解する。また、コーディング基準には具体的にどのような内容を含めるか、コーディング基準を守らない場合にどのような弊害が起こるかを理解する。

用語例 インデネーション、ネスト、命名規則、使用禁止命令

(5) コーディング支援手法

コーディング支援手法の特徴と、利用する利点、留意事項を理解する。

用語例 コード補完、コードオーディタ、シンタックスハイライト

(6) コードレビュー

コードレビューの目的、方法を理解する。また、コーディング基準を守っているか、ソフトウェア詳細設計書に基づいているか、効率性や保守性が適切かなどを確認することを理解する。

用語例 メトリクス計測、コードインスペクション、ピアコードレビュー

(7) デバッグ

デバッグの方法、留意事項、机上デバッグと実際にソフトウェアを動作させて行うデバッグの特徴、各種開発ツールを用いたデバッグ方法を理解する。

用語例 デバッグ環境、静的解析、動的テスト、アサーション、デバugg

(8) ソフトウェアユニットのテスト

① テストの目的

ソフトウェアユニットのテストは、ソフトウェア詳細設計で定義したテスト仕様に従って行い、要求事項を満たしているかどうかを確認することを理解する。

用語例 障害、欠陥、障害分析

② テストの手順

テストの目的、方針、スケジュール、体制、使用するテストツールなどを決定してテス

ト計画を立て、次にテスト項目、テストデータの作成、テスト環境の用意などのテスト準備を行い、テストを実施し、テスト結果を評価するという一連の手順を理解する。

用語例 テスト方法論、テスト範囲、テスト準備（テスト環境、テストデータなど）、テスト実施者、ユニットテスト、チェックシートの作成

③ テストの実施と評価

テストの目的、実施方法、留意事項、テストで使用されるテストツールの役割を理解する。また、テストの実行後には、テスト結果の記録、結果分析、プログラムの修正や改良作業を行うことを理解する。

用語例 デバッグ、ドライバ、スタブ、テストデータジェネレータ、テスト設計と管理手法（バグ曲線、エラー除去、バグ管理図）、テスト自動化

④ テストの手法

テストで用いられるブラックボックス法、ホワイトボックス法のテストデータの作成方法を理解する。

用語例 メトリクス計測、テストケース、命令網羅、条件網羅、判定条件網羅、複数条件網羅、経路組合せ網羅、網羅率、カバレッジ、限界値分析法、同値分析法、原因結果グラフ法、エラー埋込法、実験計画法

6. ソフトウェア結合・ソフトウェア適格性確認テスト

【目標】

- ソフトウェア結合・ソフトウェア適格性確認テストの考え方、手順、手法、留意事項を修得し、応用する。

(1) ソフトウェア結合のタスク

ソフトウェア結合では、ソフトウェア結合計画の作成、ソフトウェア結合テストの実施、利用者文書の更新、ソフトウェア適格性確認テストの準備、ソフトウェア結合の評価、ソフトウェア結合の共同レビューを実施することを理解する。

用語例 テスト要件、テスト手順、テストデータ

(2) ソフトウェア適格性確認テストのタスク

ソフトウェア適格性確認テストでは、ソフトウェア適格性確認テストの実施、利用者文書の更新、ソフトウェア適格性確認テストの評価、ソフトウェア適格性確認テストの共同レビューの実施、監査の支援、納入ソフトウェア製品の準備を実施することを理解する。

用語例 ソフトウェア要件、監査

(3) ソフトウェア結合テスト

ソフトウェア結合テストはソフトウェア方式設計で定義したテスト仕様に従って行い、ソフトウェアの動作を確認すること、ソフトウェア結合テストの実施時期、実施手順、評価の基準を理解する。

用語例 テスト計画、テスト準備（テスト環境、テストデータなど）、ソフトウェア結合テスト報告書、トップダウンテスト、ボトムアップテスト、ドライバ、スタブ、テストベッド、結合テスト報告書、テスト結果の文書化、文書化基準

(4) ソフトウェア適格性確認テスト

ソフトウェア適格性確認テストはソフトウェア要件定義で定義したソフトウェア適格性要件に従って行い、ソフトウェアが要件どおりに実現されているかを検証することを理解する。

用語例 テストの種類（機能テスト、非機能要件テスト、性能テスト、負荷テスト、セキ

ユリティテスト、回帰テスト（リグレッションテスト）など）、ソフトウェア適格性確認テスト報告書

(5) テスト結果の評価

① テスト実施後のタスク

テストの実施後には、テスト結果の記録、結果の分析及び評価、プログラムの修正や改良作業を行い、必要に応じてソフトウェア方式設計書、利用者文書の更新を行うことを理解する。

② ソフトウェア結合の評価

ソフトウェア結合を評価する際の基準を理解する。

用語例 追跡可能性、外部一貫性、内部一貫性、テスト網羅性、テスト標準及び方法の適切性、ソフトウェア適格性確認テストの実現可能性、運用及び保守の実現可能性

③ ソフトウェア適格性確認テストの評価

ソフトウェア適格性確認テストを評価する際の基準を理解する。

用語例 期待した結果に対する適合性、システム結合及びテストの実現可能性

7. システム結合・システム適格性確認テスト

【目標】

➤ システム結合・システム適格性確認テストの考え方、手順、手法、留意事項を修得し、応用する。

(1) システム結合のタスク

システム結合では、システム結合計画の作成、システム結合テストの実施、利用者文書の更新、システム適格性確認テストの準備、システム結合の評価、システム結合の共同レビューを実施することを理解する。

用語例 ハードウェア構成品目、ソフトウェア構成品目、手作業

(2) システム適格性確認テストのタスク

システム適格性確認テストでは、システム適格性確認テストの実施、システムの評価、システム適格性確認テストの共同レビューの実施、利用者文書の更新、監査の支援、納入可能なシステムの準備、運用及び保守に引き継ぐシステムの準備を実施することを理解する。

用語例 システム要件

(3) システム結合テスト

システム結合テストはシステム方式設計で定義したテスト仕様に従って行い、ソフトウェア構成品目、ハードウェア構成品目、手作業及び必要に応じてほかのシステムを全て結合したシステムが要件を満たしているかどうかを確認すること、システム結合テストの実施時期、実施手順、評価の基準を理解する。

用語例 テスト計画、テスト準備（テスト環境、テストデータなど）、システム結合テスト報告書、テスト結果の文書化、文書化基準

(4) システム適格性確認テスト

システム適格性確認テストはシステム要件定義で定義した適格性確認要件に従って行い、システムが要件どおりに実現されているかどうかを確認することを理解する。

用語例 テストの種類（機能テスト、非機能要件テスト、性能テスト、負荷テスト、セキ

ユリティテスト、回帰テスト（リグレッションテスト）など）、システム適格性確認テスト報告書

(5) テスト結果の評価

① テスト実施後のタスク

テストの実施後には、テスト結果の記録、結果の分析及び評価、システムのチューニングを行い、必要に応じて文書の更新を行うことを理解する。

② システム結合の評価

システム結合を評価する際の基準を理解する。

用語例 テスト網羅性、テスト方法及び作業標準の適切性、期待した結果への適合性、システム適格性確認テストの実現可能性、運用及び保守の実現可能性、レビュー

③ システム適格性確認テストの評価

システム適格性確認テストを評価する際の基準を理解する。

用語例 テスト方法及び作業標準の適切性

8. 導入

【目標】

- ▶ システム導入・ソフトウェア導入の考え方、手順、手法、留意事項を修得し、応用する。

(1) システム又はソフトウェアの導入のタスク

システム又はソフトウェアの導入（インストール）では、システム又はソフトウェアの導入計画の作成、導入を実施することを理解する。

(2) システム又はソフトウェアの導入計画の作成

システム又はソフトウェアの導入に先立って、実環境への導入及び新旧のシステム又はソフトウェアの移行をどのように実施するのか、データ保全や業務への影響などの留意事項は何か、スケジュールや体制はどのようにするかなど、導入計画を作成、文書化することを理解する。

用語例 導入要件、移行要件、導入可否判断基準、インストール計画の作成、導入作業、リプレース、並行稼働対応、導入文書

(3) システム又はソフトウェアの導入の実施

システム又はソフトウェアの導入計画に従って導入を行うこと、その際の留意事項を理解する。また、システム又はソフトウェア、データベースなどを契約で指定されたとおりに初期化などを行い、実行環境を整備すること、導入時の作業結果を文書化することを理解する。

用語例 導入手順、導入体制、利用部門、システム運用部門

(4) 利用者支援

システム導入又はソフトウェア導入に当たり、利用者を支援する作業を理解する。

9. 受入れ支援

【目標】

- ▶ システム受入れ支援・ソフトウェア受入れ支援の考え方、手順、手法、留意事項を修得し、応用する。

(1) システム又はソフトウェアの受入れ支援のタスク

システム又はソフトウェアの受入れ支援では、取得者の受入れレビューや受入れテストの支援、納入、取得者への教育訓練及び支援を実施することを理解する。

用語例 納品

(2) システム又はソフトウェアの受入れレビューと受入れテスト

システム又はソフトウェアの供給者は、取得者による受入れレビューやテストを支援すること、受入れレビューやテストの目的、どのように実施するのかを理解する。また、取得者は、供給者の受入れ支援を受け、共同レビュー、システム適格性確認テスト又はソフトウェア適格性確認テストの結果を考慮して、受入れの準備、受入れレビュー、テストを行い、結果を文書化することを理解する。

用語例 受入れ手順、受入れ基準、受入れテスト、検収、検収基準

(3) システム又はソフトウェアの納入と受入れ

システム又はソフトウェアの供給者、取得者は、契約で示されたとおりにシステム又はソフトウェアが完成していることを相互に確認して納入し受け入れることを理解する。

用語例 受入れ体制

(4) 教育訓練

システム又はソフトウェアの供給者は、取得者に対して、初期及び継続的な運用のための教育訓練、支援を提供すること、取得者は供給者の支援を受けて体制の整備、教育訓練の計画、実施を行うことを理解する。また、教育訓練の目的、内容、準備、体制、結果の評価方法を理解する。

用語例 教育訓練計画、教育訓練の準備、教育訓練体制、教育訓練結果の評価方法

(5) 利用者マニュアル

システム又はソフトウェアの取得者の業務やコンピュータ操作手順、業務応用プログラム又はシステム運用手順などを利用者マニュアルとして文書化すること、利用者マニュアルはシステム方式設計時又はソフトウェア方式設計時に暫定版を作成し、開発の進行に従って適宜更新することを理解する。

用語例 運用規程、利用者マニュアル、システム利用文書、ソフトウェア利用文書、チュートリアル

10. 保守・廃棄

【目標】

- 保守の考え方、タイプ及び形態、手順、留意事項を修得し、応用する。
- 廃棄の考え方、手順、留意事項を修得し、応用する。

(1) 保守のタスク

保守の目的やサービスレベルなどの保守を受ける側の要求、保守を提供する側の実現性や費用を考慮して、保守要件を決定することを理解する。また、保守では問題の発生、改善、機能拡張要求などへの対応として、既存システム又は既存ソフトウェアの安全性を維持しつつ修正や変更を行うことを理解する。

用語例 保守手順、保守体制、保守の実現可能性、保守テスト、回帰テスト（リグレッションテスト）、リバースエンジニアリング

(2) 廃棄のタスク

廃棄では、運用及び保守の組織によって実施中の支援を終えるか、又は影響を受けるシス

テム若しくはソフトウェアを最終の状態にし、かつ、廃棄しても運用に支障のない状態にして、起動不能にしたり、解体したり、取り除いたりすることを理解する。

用語例 組織の運用の完全性 (integrity)

(3) 保守のタイプ及び形態

保守をどのように実施するか、保守のタイプ及び形態、その際の留意事項、実施内容、方法の違いなどを理解する。

用語例 保守契約、保守要件の定義、ハードウェア保守、日常点検、是正保守、予防保守、適応保守、完全化保守、オンサイト保守、遠隔保守、ライフサイクルの評価

(4) 保守の手順

① 保守プロセス開始の準備

保守業務開始のための準備を行うことを理解する。

用語例 開発プロセスからの保守に必要な成果物の引継ぎ、計画及び手続きの作成、問題管理手続きの確立、修正作業の管理、保守のための文書作成

② 問題把握及び修正の分析

保守対象のシステム又はソフトウェアの問題や改善要求を解決する過程を理解する。

用語例 問題報告又は修正依頼の分析、問題の再現又は検証、修正実施の選択肢の用意

③ 修正の実施

修正部分が決まった後、修正を実施する過程を理解する。

用語例 修正するシステム又はソフトウェアや関連文書の決定、機能追加、性能改良、問題の是正

④ 保守レビュー及び／又は受入れ

修正されたシステム又はソフトウェアの動作確認や完了の承認を行うことを理解する。

用語例 修正されたシステム又はソフトウェアの完全性 (integrity)

⑤ 再発防止策の実施

問題の再発防止のため、特性要因分析などを実施することによって、根本原因の抽出、類似事故の発生の可能性を検討し、システム又はソフトウェアの改善やマニュアルなどの改訂を行うことを理解する。

⑥ 移行

システム移行又はソフトウェア移行の手順、システム又はソフトウェアの完全性の維持、業務への影響など移行の際の留意事項を理解する。

用語例 移行計画の文書化と検証、関係者全員への移行計画などの通知、新旧環境の並行運用と旧環境の停止、関係者全員への移行の通知、移行結果の検証、移行評価、旧環境関連データの保持と安全性確保

(5) 廃棄

システム又はソフトウェアの導入や更新などに伴い、不要となったシステム又はソフトウェアの廃棄の手順を理解する。

用語例 廃棄計画の立案、廃棄計画などの利用者への通知、新旧環境の並行運用と利用者の教育訓練、関係者全員への廃棄の通知、廃棄関連データの保持とアクセス可能性の確保

1. 開発プロセス・手法

【目標】

- ソフトウェア開発プロセスに関する手法の考え方，特徴を修得し，応用する。

(1) ソフトウェア開発手法

① ソフトウェア開発モデル

ソフトウェア開発の効率化や品質向上のために用いられるソフトウェア開発モデルの考え方，必要性を理解し，ソフトウェア開発モデルの特徴を理解する。

用語例 ウォータフォールモデル，スパイラルモデル，プロトタイプリングモデル，RAD (Rapid Application Development)，アジャイル，DevOps，ソフトウェアプロダクトライン，繰返し型モデル，段階的モデル (Incremental Model)，進展的モデル (Evolutionary Model)

② アジャイル

迅速かつ適応的にソフトウェア開発を行う軽量な開発手法であるアジャイルの特徴を理解する。

用語例 アジャイルソフトウェアの原則，XP (エクストリームプログラミング)，テスト駆動開発，ペアプログラミング，リファクタリング，継続的インテグレーション

③ ソフトウェア再利用

ソフトウェアの開発生産性や品質向上のためには，部品化や再利用が必要であり，部品化を進める際には，部品は再利用されるという前提に立って設計や作成に取り組む必要があること，ソフトウェアパッケージを活用することによって，開発生産性や品質向上が可能になることなどを理解する。また，ソフトウェア部品の種類，特徴，部品設計のポイントを理解する。

(a) 部品の種類と特徴

ソフトウェア部品の種類と特徴を理解する。

用語例 関数部品，オブジェクト部品 (クラスライブラリ)，データ部品，プロセス部品，常駐部品と組込み部品，ブラックボックス部品，ホワイトボックス部品，パラメトリック部品，ノンパラメトリック部品，クローズドシステム部品，オープンシステム部品

(b) 部品設計の基準

部品の利用用途に応じた，設計基準の目的，内容を理解する。

用語例 モジュール独立性，カスタマイズ，ライブラリ，名称付与基準

④ リバースエンジニアリング

既存のソフトウェアを分析して，基本的な設計方針を解釈するリバースエンジニアリングがあること，リバースエンジニアリングの結果に基づいて，元のソフトウェアの権利者の許可なくソフトウェアを開発，販売すると，元の製品の知的財産権を侵害する可能性があること，利用許諾契約によっては，リバースエンジニアリングを禁止している場合もあることなどを理解する。

用語例 互換性，コールグラフ

⑤ マッシュアップ

マッシュアップは、複数の提供元による API を組み合わせることで、新しいサービスを構築する手法であることを理解する。また、マッシュアップの考え方、生産性、品質面での特徴、留意事項を理解する。

用語例 Web2.0

⑥ モバイルアプリケーションソフトウェア開発

モバイルアプリケーションソフトウェア開発の手順、留意事項を理解する。

用語例 モバイル用 Web アプリケーションソフトウェア、ネイティブアプリケーションソフトウェア、ハイブリッドアプリケーションソフトウェア、User-Agent、パーミッション要求、端末仕様（ディスプレイサイズほか）の多様性への対応、アプリケーションソフトウェア動作中の圏外時・着信時の対応、アプリケーションソフトウェア審査、アプリケーションソフトウェア配布

(2) 構造化手法

大規模なシステムや複雑な処理内容に対して適切な品質を確保し、また、プログラムの保守を容易にするために構造化手法が用いられること、構造化手法の考え方、特徴、手順、効果、留意事項を理解する。

用語例 階層構造化、段階的詳細化、構造化チャート、状態遷移図、HIPO (Hierarchy plus Input Process Output)、DFD、ソフトウェア構造

(3) 形式手法

形式手法 (Formal Method) は、形式仕様記述言語を使用してルールに従って厳密に記述し、ソフトウェアの品質を高めるための手法であること、モデルの状態を記述することに重点をおいていること、そのモデル記述言語である VDM-SL (Vienna Development Method - Specification Language)、VDM++の考え方、特徴を理解する。

用語例 VDMTools

(4) 開発プロセス

① ソフトウェアライフサイクルプロセス

SLCP (Software Life Cycle Process : ソフトウェアライフサイクルプロセス) の目的と全体像を理解する。

用語例 SLCP-JCF (共通フレーム)、JIS X 0160、JIS X 0170、プロセス、アクティビティ、タスク

② プロセス成熟度

開発と保守のプロセスを評価、改善するに当たって、システム開発組織とプロセス成熟度をモデル化した CMMI があること、プロセス成熟度を 5 段階のレベルで定義するなど CMMI の考え方、高次のレベルに達するために必要な方策を理解する。

用語例 初期、管理された、定義された、定量的に管理された、最適化している

2. 知的財産適用管理

【目標】

- ソフトウェア開発工程で必要となる知的財産権の取得，管理の目的，考え方を修得し，応用する。
- ソフトウェア開発工程で発生した知的財産権の保護のための手順を修得し，応用する。

(1) 著作権管理

開発するソフトウェアの著作権の帰属の考え方を理解し，プログラムを外注する場合の留意事項を理解する。

用語例 プログラムの著作者，職務著作

(2) 特許管理

ソフトウェア開発工程で発生した発明を保護するための手順を理解する。ソフトウェア開発時に他者のもつ特許を利用する必要が生じた場合は，使用許諾を受ける必要があることを理解する。

用語例 特許権，専用実施権，通常実施権

(3) ライセンス管理

ソフトウェア開発時に，自社が権利を所有しないソフトウェアを利用する必要が生じた場合はライセンスを受ける必要があること，獲得したライセンスについては使用実態や使用人数がライセンス契約で託された内容を超えないよう管理する必要があることを理解する。

用語例 ライセンサ，ライセンス

(4) 技術的保護

ソフトウェアやコンテンツなどの知的財産を技術的に保護する手法の特徴，効果，留意事項を理解する。

用語例 コピーガード，DRM，アクティベーション，CPRM，AACs

3. 開発環境管理

【目標】

- 開発環境の目的，考え方，管理対象，手法を修得し，応用する。

(1) 開発環境構築

効率的な開発のためには，開発用ハードウェア，ソフトウェア，ネットワーク，シミュレータなどの開発ツールを開発要件に合わせて準備することを理解する。

用語例 構成品目，ソフトウェアライセンス

(2) 管理対象

① 開発環境稼働状況管理

効率的な開発のためには，コンピュータ資源，開発支援ツールなど適切な開発環境の準備が必要であること，また資源の稼働状況を適切に把握，管理することを理解する。

用語例 資源管理，運用管理

② 設計データ管理

設計にかかわるさまざまなデータのバージョン管理，プロジェクトでの共有管理，安全管理など，設計データを管理することを理解する。また，企業機密や個人情報が含まれて

いるデータは、誰がいつ何の目的で利用したのか、不適切な持出しや改ざんがないかなどを厳重に管理することを理解する。

用語例 更新履歴管理，アクセス権管理，検索

③ ツール管理

多数の人が開発に携わる場合，開発に利用するツールやバージョンが異なることによって，作成したソフトウェアの互換性の問題が生じるおそれがあることを理解する。また，ツールに起因するバグやセキュリティホールが発生など，ツールの選択によって開発対象のソフトウェアの信頼性に影響を及ぼすおそれがあるので，使用するツールやバージョンの統一などツールを管理することを理解する。

用語例 構成品目，バージョン管理

④ ライセンス管理

ライセンス条項に違反した利用は不正利用に当たり，不正利用は違法行為として法的処罰の対象となることを理解する。また，ライセンスの内容を理解し，定期的にインストール数と保有ライセンス数を照合確認するなど，適正に使用しているかどうかを確認することを理解する。

用語例 不正コピー，バージョン管理，棚卸

4. 構成管理・変更管理

【目標】

- 構成管理と変更管理の目的，考え方，手順を修得し，応用する。

(1) 構成管理

構成管理では，ソフトウェア全体がどのような構成品目の組み合わせで構成されているかという構成識別体系を確立し，その構成識別体系の管理の方法を明らかにした上で管理を行うことを理解する。

用語例 SCM (Software Configuration Management：ソフトウェア構成管理)，SCI (Software Configuration Item：ソフトウェア構成品目)，SLCP (Software Life Cycle Process：ソフトウェアライフサイクルプロセス)，構成管理計画，ベースライン

(2) 変更管理

① 構成状況の記録

基準になっているソフトウェア品目について，状況や履歴を管理し文書化すること，プロジェクトにおける変更回数，最新のバージョン，移行状況などの当該文書に記録する内容を理解する。

② 品目の完全性保証

ソフトウェア品目の機能的な完全性と物理的な完全性を決定，保証することであること，及びその必要性を理解する。

用語例 一貫性，正確性

③ リリース管理及び出荷

構成品目の完全性が保証された後は，ソフトウェアや関連文書の新しい版の出荷などの手続を行うこと，ソフトウェアのコードや文書はソフトウェアの寿命のある間保守することを理解する。

用語例 バージョン管理, 保管期間

マネジメント系

大分類 5：プロジェクトマネジメント 中分類 14：プロジェクトマネジメント

1. プロジェクトマネジメント

【目標】

- プロジェクト、及びプロジェクトマネジメントの目的、考え方、プロセス、プロセスグループ、サブジェクトグループを修得し、適用する。
- プロジェクトの体制の種類、特徴、役割、責任分担、自己管理の内容を修得し、応用する。

(1) プロジェクト、及びプロジェクトマネジメントの目的と考え方

① プロジェクトとは何か、プロジェクトマネジメントとは何か

プロジェクトは、目的を達成するために実施する有期的な活動であり、プロジェクトには開始日と終了日があることを理解する。また、プロジェクトを円滑に推進して目的を達成するために、計画する（Plan）、計画に沿って作業を進める（Do）、計画と実績の差異を検証する（Check）、差異の原因へ対処する（Act）の PDCA マネジメントサイクルで管理することを理解する。

【用語例】

プロジェクト、プロジェクトマネジメント、プロジェクトの環境、プロジェクトポートフォリオマネジメント、プログラム、プログラムマネジメント、プロジェクトガバナンス、プロジェクトライフサイクル、プロジェクトの制約、ISO 21500、PMBOK（Project Management Body of Knowledge：プロジェクトマネジメント知識体系）

② プロジェクトに採用するプロセスの三つのタイプ

プロジェクトに採用するプロセスの三つのタイプの目的、役割、機能を理解する。

【プロセスのタイプ】

プロジェクトマネジメントプロセス、出荷プロセス、支援プロセス

③ プロジェクトマネジメントの五つのプロセスグループ

プロジェクトマネジメントの五つのプロセスグループの目的、役割、機能を理解する。

【プロセスグループ】

立上げプロセスグループ、計画プロセスグループ、実行プロセスグループ、コントロールプロセスグループ、終結プロセスグループ

④ プロジェクトマネジメントの十のサブジェクトグループ

プロジェクトマネジメントの十のサブジェクトグループを理解する。

【サブジェクトグループ】

統合サブジェクトグループ、ステークホルダサブジェクトグループ、スコープサブジェクトグループ、資源サブジェクトグループ、タイムサブジェクトグループ、コストサブジェクトグループ、リスクサブジェクトグループ、品質サブジェクトグループ、調達サブジェクトグループ、コミュニケーションサブジェクトグループ

(2) プロジェクトの体制と自己管理

① プロジェクトの体制

プロジェクトの体制の種類、特徴、役割、責任分担を理解する。

【用語例】

機能型組織、マトリックス型組織、プロジェクト型組織、RAM（Responsibility

Assignment Matrix：責任分担マトリックス), OBS (Organizational Breakdown Structure：組織ブレイクダウンストラクチャ)

② 自己管理

プロジェクトの体制の中で、自ら管理すべき、内容、計画、作業、報告・連絡・相談などを理解する。

用語例 作業計画立案，作業量見積り，進捗管理，品質管理，コスト管理，リスク管理，変更管理，問題発見，問題報告，対策立案，文書化，コミュニケーション

2. プロジェクト統合マネジメント

【目標】

- プロジェクト統合マネジメントの目的，考え方を修得し，適用する。
- プロジェクト統合マネジメントのプロセスの目的，役割，機能，プロセス間の関連を修得し，適用する。
- プロジェクト全体像の把握と管理に必要な文書及び手法を修得し，適用する。

(1) プロジェクト統合マネジメントの目的と考え方

プロジェクト統合マネジメントは，プロジェクトマネジメント活動のプロセスグループを統合的に管理，調整することが目的であることを理解する。

用語例 プロジェクト憲章，スコープ，制約条件

(2) プロジェクト統合マネジメントのプロセス

プロジェクト統合マネジメントに含まれるプロセスの目的，役割，機能，プロセス間の関連などを理解する。

プロセス プロジェクト憲章の作成，プロジェクト計画の作成，プロジェクト作業の指揮，プロジェクト作業のコントロール，変更のコントロール，プロジェクトフェーズ又はプロジェクトの終結，学んだ教訓の収集

(3) プロジェクト全体像の把握と管理

プロジェクト全体像を把握するために必要な文書，プロジェクト実行時に起こりうる仕様変更やスケジュールの見直し，問題点の管理手法などを理解する。

用語例 プロジェクト作業範囲記述書，プロジェクトマネジメント計画の作成，変更要求，変更登録簿，プロジェクト完了報告書，プロジェクトフェーズ又はプロジェクトの終結報告書，学んだ教訓文書，CCB (Change Control Board：変更管理委員会)，問題点管理表，プロジェクト評価，プロジェクト評価指標

3. プロジェクトステークホルダマネジメント

【目標】

- プロジェクトステークホルダマネジメントの目的，考え方を修得し，適用する。
- プロジェクトステークホルダマネジメントのプロセスの目的，役割，機能，プロセス間の関連を修得し，適用する。
- 特定したステークホルダの利害及び関与に関する情報を文書化する目的を修得し，適用する。

(1) プロジェクトステークホルダマネジメントの目的と考え方

プロジェクトステークホルダマネジメントは，プロジェクトに影響を受けるか，又は影響を及ぼす個人，グループ又は組織を明らかにすることが目的であることを理解する。

用語例 ステークホルダ

(2) プロジェクトステークホルダマネジメントのプロセス

プロジェクトステークホルダマネジメントに含まれるプロセスの目的、役割、機能、プロセス間の関連などを理解する。

プロセス ステークホルダの特定、ステークホルダの管理

(3) プロジェクトステークホルダに関する情報の文書化

ステークホルダの利害及び関与に関する情報を文書化することを理解する。

用語例 ステークホルダ登録簿

4. プロジェクトスコープマネジメント

【目標】

- プロジェクトスコープマネジメントの目的、考え方を修得し、適用する。
- プロジェクトスコープマネジメントのプロセスの目的、役割、機能、プロセス間の関連を修得し、適用する。
- WBS 作成の目的を理解して、その活用方法を修得し、適用する。

(1) プロジェクトスコープマネジメントの目的と考え方

プロジェクトスコープマネジメントは、プロジェクトの遂行に必要な作業を過不足なく含め、プロジェクトを成功させることが目的であることを理解する。また、プロジェクトの構成員個々のスコープ管理の重要性を理解する。

用語例 スコープ、WBS、アクティビティ、ベースライン

(2) プロジェクトスコープマネジメントのプロセス

プロジェクトスコープマネジメントに含まれるプロセスの目的、役割、機能、プロセス間の関連などを理解する。

プロセス スコープの定義、WBS の作成、アクティビティの定義、スコープのコントロール

(3) WBS 作成の目的とその活用

プロジェクトで作成する成果物とその成果物作成のために実行する作業を階層的に要素分解し、予算、工程、品質などの計画を立案することを理解する。

用語例 WBS 辞書、ワークパッケージ、スコープクリープ

5. プロジェクト資源マネジメント

【目標】

- プロジェクト資源マネジメントの目的、考え方を修得し、適用する。
- プロジェクト資源マネジメントのプロセスの目的、役割、機能、プロセス間の関連を修得し、適用する。
- 外部人材管理の考え方を修得し、適用する。

(1) プロジェクト資源マネジメントの目的と考え方

プロジェクト資源マネジメントは、プロジェクトの遂行に必要な全ての物質的な資源が過不足なく適切に手配されることが目的であることを理解する。

用語例 要員（プロジェクトマネージャ、プロジェクトメンバ、プロジェクトマネジメントチーム）、PMO（Project Management Office）、機器、備品、資材、ソフトウェア、

(2) プロジェクト資源マネジメントのプロセス

プロジェクト資源マネジメントに含まれるプロセスの目的、役割、機能、プロセス間の関連などを理解する。

プロセス プロジェクトチームの結成、資源の見積り、プロジェクト組織の決定、プロジェクトチームの育成、資源のコントロール、プロジェクトチームの管理

(3) 外部人材の管理

外部資源として人材を受け入れる場合の管理の考え方を理解する。

用語例 調達、労働者派遣法

6. プロジェクトタイムマネジメント

【目標】

- プロジェクトタイムマネジメントの目的、考え方を修得し、適用する。
- プロジェクトタイムマネジメントのプロセスの目的、役割、機能、プロセス間の関連を修得し、適用する。
- スケジュールの種類、作成手法、管理手法を修得し、適用する。

(1) プロジェクトタイムマネジメントの目的と考え方

プロジェクトタイムマネジメントは、プロジェクトを所定の時期に完了させることが目的であることを理解する。また、プロジェクトの構成者個々の進捗管理の重要性を理解する。

用語例 アクティビティリスト

(2) プロジェクトタイムマネジメントのプロセス

プロジェクトタイムマネジメントに含まれるプロセスの目的、役割、機能、プロセス間の関連などを理解する。

プロセス アクティビティの順序付け、アクティビティ期間の見積り、スケジュールの作成、スケジュールのコントロール

(3) 代表的なスケジュールの種類と作成手法、及び管理手法

① スケジュールの種類

スケジュールの種類、特徴を理解する。

用語例 大日程計画表（マスタスケジュール）、中日程計画表（工程別作業計画）、小日程計画表（週間作業計画）

② スケジュールの作成手法

作業ごとに、資源がいつどれだけ必要となるか、作業量はどのくらいか、どのくらいの期間が必要かを見積もり、スケジュールを作成することを理解する。また、スケジュール作成の代表的な手法の特徴と活用法を理解する。

用語例 類推見積法、パラメトリック見積法、三点見積法、予備設定分析、スケジュールネットワーク分析、PERT、CPM（Critical Path Method：クリティカルパス法）、PDM（Precedence Diagramming Method：プレシデンスダイアグラム法）、クリティカルチェーン、アローダイアグラム、ガントチャート、トレンドチャート、マイルストーン、資源平準化、クラッシング、ファストトラッキング、ラグ、リード

③ スケジュールの管理手法

代表的なスケジュールの管理手法の特徴と活用法を理解する。

用語例 進捗報告, 傾向分析, 差異分析, EVM (Earned Value Management)

7. プロジェクトコストマネジメント

【目標】

- プロジェクトコストマネジメントの目的, 考え方を修得し, 適用する。
- プロジェクトコストマネジメントのプロセスの目的, 役割, 機能, プロセス間の関連を修得し, 適用する。
- 代表的なコスト見積手法, コスト管理手法を修得し, 適用する。

(1) プロジェクトコストマネジメントの目的と考え方

プロジェクトコストマネジメントは, プロジェクトを決められた予算内で完了させることが目的であることを理解する。また, プロジェクトの構成者個々のコスト管理の重要性を理解する。

用語例 コストベースライン, 資源費用

(2) プロジェクトコストマネジメントのプロセス

プロジェクトコストマネジメントに含まれるプロセスの目的, 役割, 機能, プロセス間の関連などを理解する。

プロセス コストの見積り, 予算の編成, コストのコントロール

(3) 代表的なコスト見積手法とコスト管理手法

代表的なコスト見積手法, コスト管理手法の特徴, 活用法を理解する。

用語例 三点見積法, トップダウン見積り, ボトムアップ見積り, 類推見積法, ファンクションポイント法, パラメトリック見積法, LOC (Lines of Code) 法, COCOMO (Constructive Cost Model), COCOMO II (Constructive Cost Model II), 開発生産性, 予備設定分析, EVM (Earned Value Management)

8. プロジェクトリスクマネジメント

【目標】

- プロジェクトリスクマネジメントの目的, 考え方を修得し, 適用する。
- プロジェクトリスクマネジメントのプロセスの目的, 役割, 機能, プロセス間の関連を修得し, 適用する。
- 代表的なリスクの識別手法, 分析手法, 及びリスクへの対応方法を修得し, 適用する。

(1) プロジェクトリスクマネジメントの目的と考え方

プロジェクトリスクマネジメントは, プロジェクトにプラス又はマイナスとなる潜在的な事象を特定し, 評価し, 対策を決定した上でコントロールし, 好機を高め脅威を軽減することが目的であることを理解する。また, プロジェクトの構成者個々のリスク管理の重要性を理解する。

用語例 リスク

(2) プロジェクトリスクマネジメントのプロセス

プロジェクトリスクマネジメントに含まれるプロセスの目的, 役割, 機能, プロセス間の関連などを理解する。

プロセス リスクの特定, リスクの評価, リスクへの対応, リスクのコントロール

(3) 代表的なリスクの識別手法と分析手法、及びリスクへの対応方法

代表的なリスクの識別手法と分析手法、及びリスクへの対応方法を理解する。

用語例 ブレーンストーミング、デルファイ法、定性的リスク分析、定量的リスク分析、SWOT 分析、感度分析、コンティンジェンシー予備

9. プロジェクト品質マネジメント

【目標】

- プロジェクト品質マネジメントの目的、考え方を修得し、適用する。
- プロジェクト品質マネジメントのプロセスの目的、役割、機能、プロセス間の関連を修得し、適用する。
- 代表的な品質マネジメントの手法を修得し、適用する。

(1) プロジェクト品質マネジメントの目的と考え方

プロジェクト品質マネジメントは、プロジェクトが取り組むニーズを満足させることを目的として、品質方針、目標、責任を定め、それらを達成するために、必要なプロセスを実施していくことを理解する。また、プロジェクトの構成者個々の品質管理の重要性を理解する。

用語例 JIS Q 9000 ファミリー規格、JIS X 25010、CMMI

(2) プロジェクト品質マネジメントのプロセス

プロジェクト品質マネジメントに含まれるプロセスの目的、役割、機能、プロセス間の関連などを理解する。

プロセス 品質の計画、品質保証の実施、品質コントロールの実施

(3) 代表的な品質マネジメントの手法

代表的な品質マネジメントの手法を理解する。

用語例 ベンチマーク、品質管理、レビュー、ウォークスルー、インスペクション、テスト、統計的サンプリング、障害報告書、障害台帳、品質の指標、管理図、特性要因図、パレート図、散布図、是正処置、予防処置

10. プロジェクト調達マネジメント

【目標】

- プロジェクト調達マネジメントの目的、考え方を修得し、適用する。
- プロジェクト調達マネジメントのプロセスの目的、役割、機能、プロセス間の関連を修得し、適用する。
- 外部資源の活用と調達方法を修得し、適用する。
- 代表的な契約形態の違いを修得し、適用する。

(1) プロジェクト調達マネジメントの目的と考え方

プロジェクト調達マネジメントは、作業の実行に必要な資源やサービスを外部から購入、取得するために必要な契約やその管理を適切に行うことが目的であることを理解する。

用語例 購入者、サプライヤ、RFP (Request For Proposal : 提案依頼書)

(2) プロジェクト調達マネジメントのプロセス

プロジェクト調達マネジメントに含まれるプロセスの目的、役割、機能、プロセス間の関連などを理解する。

プロセス 調達の計画、サプライヤの選定、調達の管理

(3) 外部資源の活用

外部資源の活用と調達方法などを理解する。

用語例 アウトソーシング，コソーシング，システムインテグレータ，IDC（Internet Data Center），一般競争入札，政府調達協定，海外調達

(4) 代表的な契約形態

代表的な契約形態を理解する。

用語例 一括請負契約，定額インセンティブフィー契約，実費償還契約，タイムアンドマテリアル契約

11. プロジェクトコミュニケーションマネジメント

【目標】

- プロジェクトコミュニケーションマネジメントの目的，考え方を修得し，適用する。
- プロジェクトコミュニケーションマネジメントのプロセスの目的，役割，機能，プロセス間の関連を修得し，適用する。
- 代表的な情報配布の方法を修得し，適用する。

(1) プロジェクトコミュニケーションマネジメントの目的と考え方

プロジェクトコミュニケーションマネジメントは，プロジェクト情報の生成から配布，廃棄までを適切に行うことで，人と情報を結びつける役割を果たすことが目的であることを理解する。また，プロジェクトの構成者個々のコミュニケーション管理の重要性を理解する。

用語例 コミュニケーション

(2) プロジェクトコミュニケーションマネジメントのプロセス

プロジェクトコミュニケーションマネジメントに含まれるプロセスの目的，役割，機能，プロセス間の関連などを理解する。

プロセス コミュニケーションの計画，情報の配布，コミュニケーションの管理

(3) 代表的な情報配布の方法

代表的な情報配布の方法を理解する。

用語例 プッシュ型，プル型，フィードバック型，電子メール，ボイスメール，テレビ会議，紙面

1. サービスマネジメント

【目標】

- サービスマネジメントの目的、考え方を修得し、適用する。
- サービスマネジメントシステムの確立及び改善の考え方を修得し、適用する。

(1) サービスマネジメントの目的と考え方

サービスマネジメントは、サービスの要求事項を満たし、サービスの設計、移行、提供及び改善のために、サービス提供者の活動及び資源を、指揮し、管理する、一連の能力及びプロセスであることを理解する。また、サービスマネジメント規格として、互いに密接に関係するサービスマネジメントの多くのプロセスについて、JIS で規定していることを理解する。

用語例 サービス、サービスコンポーネント、サービス品質、サービスマネジメント、サービスマネジメントシステム、サービスの要求事項、顧客、サービス提供者、JIS Q 20000 規格群 (ISO/IEC 20000)

(2) サービスマネジメントシステムの確立及び改善

サービスマネジメントシステム、サービス及び改善プロセスに、計画 (Plan)、実行 (Do)、点検 (Check)、処置 (Act) の PDCA 方法論を適用することを理解する。サービスマネジメントシステムの構築・改善にあたっては、現状分析を行い、目標を定め、どのように達成するかの方策を計画することを理解する。また、現状分析ではギャップ分析やプロセス能力水準 (プロセス成熟度) を測定し評価する手法があること、KPI 指標などを用いて目標設定することを理解する。

用語例 プロセスアプローチ、継続的改善、プロセス能力水準、ギャップ分析、プロセスアセスメント、CSF (Critical Success Factors : 重要成功要因)、KPI (Key Performance Indicator : 重要業績評価指標)、JIS Q 9001

(3) ITIL

サービスマネジメントのフレームワークで、現在、デファクトスタンダードとして世界で活用されている ITIL (Information Technology Infrastructure Library) の目的、考え方を理解する。

用語例 ITIL、サービスライフサイクル、サービスライフサイクルの段階 (戦略、設計、移行、運用、継続的改善)

(4) SLA

サービスレベル合意書 (SLA : Service Level Agreement) は、サービス及びサービスの目標を特定した、サービス提供者と顧客との合意文書であることを理解する。また、代表的な SLA 項目を理解する。

用語例 SLA、可用性、信頼性、サービス時間、応答時間、サービス及びプロセスのパフォーマンス

2. サービスの設計・移行

【目標】

- サービスの設計・移行の考え方を修得し、適用する。

(1) サービスの設計

変更管理方針で定められた、事業ニーズを満たす又はサービスの有効性を改善するために提起される新規サービス又はサービスの変更の設計に際しては、サービスレベルなど達成しなければならないサービスの質に関する要求事項を具体化することを理解する。

用語例 設計・開発，サービス受入れ基準，サービス設計書，非機能要件，サービス・パイプライン

(2) サービスの移行

新規サービス又はサービスの変更の移行を実施する際の次の手順を理解する。

- ・受入れ試験環境などを利用して、稼働環境への展開前に試験を実施する。
- ・サービス受入れ基準に基づいて検証する。
- ・承認された新規サービス又はサービス変更を稼働環境へ展開する。
- ・移行活動が完了した後、顧客と利害関係者に、期待される成果に照らして実現された成果を報告する。

用語例 移行，運用サービス基準，業務及びシステムの移行，移行計画，移行リハーサル，移行判断，移行の通知，移行評価，運用テスト，受入れテスト，運用引継ぎ

3. サービスマネジメントプロセス

【目標】

- サービスマネジメントの各プロセスを修得し，応用する。

(1) サービスレベル管理

SLM (Service Level Management : サービスレベル管理) は、顧客とサービス提供者の間で SLA を締結し、サービスレベルを定義、合意及び管理することを理解する。また、PDCA マネジメントサイクルによってサービスの維持、向上を図る一連の活動であること、サービスレベルの監視結果に応じて SLA やプロセスを見直すことを理解する。

用語例 サービスレベル管理，サービス目標，SLA のレビュー，サービス改善計画，サービスカタログ

(2) サービスの報告

十分な情報に基づいた意思決定及び効果的なコミュニケーションを促進するために、顧客との合意に基づいて、適時に信頼できる正確な報告書を作成することを理解する。

用語例 サービスの報告，傾向情報

(3) サービス継続及び可用性管理

平常な状況とサービス中断後の状況の両方の下で、顧客と合意したサービス継続性及び可用性についての要求事項を確実に実施するための活動を理解する。

用語例 サービス継続及び可用性管理，サービス継続計画，復旧，コールドスタンバイ，ホットスタンバイ，事業継続計画 (BCP)，RTO，RPO，災害復旧，可用性，信頼性，保守性，MTBF，MTTR，フォールトトレランス

(4) サービスの予算業務及び会計業務

サービス提供費用の予算を計画・管理する予算業務を行う。会計業務として会計を行い、間接費の配賦及び直接費の割当てなどを行う。これらの活動によって、財務状況を効率的に管理することを理解する。

用語例 サービスの予算業務及び会計業務，財務管理，予算業務，会計業務，課金，配賦，費用，直接費，間接費，減価償却，総所有費用 (TCO)

(5) キャパシティ管理

キャパシティ管理は、容量・能力などの必要なキャパシティを管理し、最適な費用で、現在及び将来の合意された需要を満たすために、サービス提供者が十分な能力をもっていることを確実にする一連の活動であることを理解する。

用語例 キャパシティ管理、キャパシティ計画、監視、需要、管理指標（CPU 使用率、メモリ使用率、ディスク使用率、ネットワーク利用率ほか）、しきい（閾）値、事業のキャパシティ管理、サービスのキャパシティ管理、コンポーネントのキャパシティ管理

(6) 情報セキュリティ管理

情報資産の機密性、完全性、アクセス性を保つ、情報セキュリティ方針の要求事項を満たす、情報セキュリティに関連するリスクを管理するなどのために、情報セキュリティ管理策を導入し、運用することを理解する。

用語例 情報セキュリティ管理、情報資産、リスク分析、リスク評価、物理的入退室管理、ネットワークセキュリティソリューション、利用者アクセスの管理、利用者認証、利用者パスワードの管理、特権管理、アクセス制御、ログ情報の保護、情報セキュリティインシデント、マルウェア、情報セキュリティマネジメント規格（JIS Q 27000 ファミリー規格）、情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）

(7) 事業関係管理

サービス提供者と顧客との間に良好な関係を確立するために、サービスのパフォーマンスレビューの実施、苦情の処理、顧客満足度の測定・分析・レビューなどの活動を行うことを理解する。

用語例 事業関係管理、利用者、顧客満足、苦情

(8) 供給者管理

サービス提供者が、サービスマネジメントプロセスの導入及び運用のために供給者を用いる場合の管理活動について、理解する。また、サービス提供者組織の一部である内部グループと結ぶ運用レベル合意書を理解する。

用語例 供給者管理、供給者、契約、内部グループ、運用レベル合意書（OLA）、SaaS・PaaS・IaaS などのクラウドサービスの利用

(9) インシデント及びサービス要求管理

インシデント及びサービス要求管理は、顧客と合意したサービスを可能な限り迅速に回復するためにインシデントの対応を行う、又はサービス要求の対応を行うためのプロセスであることを理解する。また、重大なインシデントについては、定義を文書化し顧客と合意することを理解する。

用語例 インシデント及びサービス要求管理、インシデント、サービス要求、段階的取扱い、影響、回避策、重大なインシデント

(10) 問題管理

問題管理は、問題の根本原因を突き止め、インシデントの再発防止のための解決策を提示する一連の活動であることを理解する。

用語例 問題管理、問題、既知の誤り、根本原因、予防処置、傾向分析

(11) 構成管理

構成管理は、サービスを構成するハードウェア、ソフトウェア、ドキュメントなどの CI（Configuration Item：構成品目）に関する情報を定義し、特定した CI を CMDB に記録す

るなど、正確な構成情報を維持する一連の活動であることを理解する。

用語例 構成管理，構成品目，CMDB（Configuration Management Database：構成管理データベース），版，構成ベースライン，構成識別，構成監査，構成品目の格納庫，資産管理，ソフトウェア資産管理（SAM），基本ライセンス

（12）変更管理

変更管理は，全ての変更を制御された方法で，評価，変更要求の受入れ決定，変更スケジュールに従った変更の展開，実施後のレビューを確実にを行い，リスクの回避，効率的な変更管理プロセス及び手順の実施などを行う一連の活動であること，また，変更によるサービスへの影響を最小限に抑えることを理解する。

用語例 変更管理，RFC（Request For Change：変更要求），変更要求の種類（緊急変更，通常変更，標準変更），変更要求記録，変更スケジュール，評価，切り戻し，実施後のレビュー（PIR）

（13）リリース及び展開管理

リリース及び展開管理は，変更管理で承認された変更をリリースとして稼働環境に展開するプロセスであることを理解する。また，新たな版の導入の計画から実際の導入，万一リリース展開に失敗した場合に元に戻す作業などを行う一連の活動があって，構成管理及び変更管理との連携が必要であることを理解する。

用語例 リリース及び展開管理，リリース，緊急リリース，展開，復元

4. サービスの運用

【目標】

- 運用計画や資源管理といったシステム運用管理の役割，機能を修得し，適用する。
- システムの操作やスケジューリングといった運用オペレーションの役割，機能を修得し，適用する。
- サービスデスクの役割，機能を修得し，適用する。

（1）システム運用管理

システムの運用管理では，日常の運用計画，障害発生時運用を適切に行うための計画，運用負荷低減のための改善計画などに加えて，キャパシティ管理，情報セキュリティ管理，サービス継続及び可用性管理の方針を受けて実施する活動があることを理解する。また，運用の資源管理では，サービスを構成する設備，コンピュータシステム，データ，マニュアル，作成した成果物，及びシステムを運用する要員を，組織の目標と適合するように維持，運用する一連の活動であることを理解する。

用語例 システム運用管理，運用の資源管理（要員などの人的資源及びハードウェア，ソフトウェア，データ，ネットワークなどインフラストラクチャの技術的資源），仮想環境の運用管理，ジョブの管理，データ管理，利用者の管理，コールドスタート，ウォームスタート

（2）運用オペレーション

システムを安定稼働させるために，定められた手順に沿ってシステムの監視・操作・状況連絡を実施することを理解する。システムの操作に当たっては，作業指示書に従って実施することを理解する。また，ジョブスケジューリング，アウトプット管理，バックアップといった運用オペレーションの内容を理解する。

用語例 運用オペレーション，スケジュール設計，ジョブスケジューリング，バックアップ，システムの監視と操作，アウトプットの管理，ジョブの復旧と再実行，運用支援ツール（監視ツール，診断ツール），業務運用マニュアル

(3) サービスデスク

サービスデスクは、サービスの利用者からの問合せに対して単一の窓口機能を提供し、適切な部署への引継ぎ、対応結果の記録、記録の管理などを行う一連の活動であることを理解する。

用語例 サービスデスク、SPOC (Single Point Of Contact)、コールセンタ、CTI (Computer Telephony Integration)、FAQ、応対マニュアル、知識ベース、一次サポート、二次サポート及び三次サポート、サービスデスク組織の構造（ローカルサービスデスク、バーチャルサービスデスク、中央サービスデスク、フォロー・ザ・サン）

5. ファシリティマネジメント

【目標】

- ファシリティマネジメントの目的、考え方、施設や設備の管理、維持保全における留意事項を修得し、適用する。

(1) ファシリティマネジメント

① ファシリティマネジメントの目的と考え方

コンピュータシステムやネットワークの施設基盤の設計、構築の管理及び運営におけるファシリティマネジメントの目的、考え方を理解する。

用語例 ファシリティマネジメント

② 施設管理・設備管理

データセンタなどの施設やコンピュータ、ネットワークなどの設備の管理によって、費用の削減、快適性、安全性などを確保することを理解する。また、電源や回線の冗長化、バックアップ環境の整備、電源、空調設備、建物などのアクセス管理などを理解する。

用語例 施設管理、建物管理（免震装置、アレスタなどのサージ保護デバイス、防災防犯設備、安全管理関連知識ほか）、電気設備（UPS、自家発電設備ほか）、空調設備（空調機器、コールドアイル、ホットアイルほか）、通信設備（MDF、IDFほか）

③ 施設・設備の維持保全

施設・設備を適正な状態に維持保全することを理解する。また、水道光熱費、保守・メンテナンス費、修繕費などを含めたライフサイクル費用の削減を目指して、修繕計画を立案し、施設・設備の長寿命化を図るなど、施設・設備の維持保全の一連の活動を理解する。

用語例 施設・設備の維持保全

④ 環境側面

地球環境に配慮した IT 製品やインフラストラクチャ、環境保護や資源の有効活用につながる IT 利用を理解する。

用語例 環境側面、グリーン IT、データセンタ総合エネルギー効率指標（GEC、PUE、ITEE、ITEUほか）

1. システム監査

【目標】

- 監査の目的, 種類を修得し, 適用する。
- システム監査の目的, 手順, 対象業務, システムの可監査性の考え方を修得し, 適用する。
- システム監査計画, システム監査の実施, 報告, 品質評価の考え方を修得し, 適用する。
- システムに関係する監査で参照する代表的な基準, 法規を修得し, 適用する。

(1) 監査業務

情報システムに関係する監査の目的, 種類を理解する。

用語例 会計監査, 業務監査, システム監査, 情報セキュリティ監査, 法定監査, 任意監査, 内部監査, 外部監査, 保証型監査, 助言型監査

(2) システム監査の目的と手順

① システム監査の目的

システム監査の目的は, 組織体の情報システムにまつわるリスクに対するコントロールがリスクアセスメントに基づいて適切に整備, 運用されているかを, 独立かつ専門的な立場のシステム監査人が検証又は評価することによって, 保証を与えあるいは助言を行い, もって IT ガバナンスの実現に寄与することにあることを理解する。

用語例 システム監査企業台帳, 信頼性, 安全性, 効率性, 有効性, 戦略性

② システム監査の手順

システム監査は, 監査計画に基づき, 情報システムの総合的な点検, 評価, 監査の依頼者への結果説明, 改善点の勧告, 改善状況の確認, 改善指導 (フォローアップ) という手順で行われることを理解する。

用語例 システム監査人の要件, 評価・結論, システム監査基準, システム監査計画, 予備調査, 本調査, 監査証拠

(3) システム監査の対象業務

システム監査の対象業務は, システムの企画・開発・運用・保守業務というライフサイクル全般に及ぶこと, 各段階で評価する内容を理解する。また, システム監査を実施する目的及び対象業務は, 規程及び契約書によって明確に文書化し定めることを理解する。

用語例 企画業務の妥当性, 開発業務の生産性, 利用者満足度, 保守業務の生産性, コントロール, 採算性, 適時性, 情報セキュリティ, 内部監査規程

(4) システムの可監査性

システム監査を円滑に実施するため, 情報システムは可監査性を意識して構築, 整備されなければならないことを理解する。

用語例 ログ, トレース, 監査証拠

(5) システム監査計画

有効かつ効率的な監査を行うために, システム監査人は監査の目的, 監査手続の内容, 時期, 範囲などの監査計画を作成することを理解する。

用語例 システム監査計画書，中長期計画書，基本計画書，個別計画書

(6) システム監査の実施（予備調査，本調査，評価・結論）

① 予備調査，本調査，評価・結論

予備調査，本調査，評価・結論の一連の活動を理解する。

用語例 監査手続書，査閲，監査調書

② システム監査技法

システム監査の方法として，ドキュメントレビュー（査閲），チェックリストなど代表的なシステム監査技法を理解する。

用語例 資料（文書）の閲覧・収集，質問書・調査票，インタビュー，現地調査，監査ツール，統計的サンプリング，コンピュータ支援監査技法（CAAT）

③ 監査証拠

監査証拠とは，システム監査人の監査意見を裏付けるために必要な事実であることを理解する。

用語例 アクセスログ，トランザクションログ，運用証跡

④ 監査調書

システム監査人は，調査，収集，分析した情報を，監査の結論に至った過程が分かるよう整理して文書化した監査調書を作成，保管し，監査報告書を作成するときの基礎資料や監査結果の裏付けとすることを理解する。

⑤ 他の監査との連携・調整

システム監査は公認会計士監査，監査役監査，内部監査人監査と関係があり，各監査におけるシステム監査は監査目的や監査対象が異なることを理解する。

用語例 法定監査，任意監査，金融商品取引法監査，商法監査，経営監査，業務監査，会計監査，内部監査，情報セキュリティ監査，個人情報保護監査，コンプライアンス監査

(7) システム監査の報告

システム監査人は，監査結果を監査の依頼者に報告すること，所要の措置が講じられるようフォローアップを行うことを理解する。

用語例 システム監査報告書，保証意見，助言意見，改善勧告，指摘事項

(8) システム監査の品質評価

システム監査の実施結果の妥当性を評価する必要性，評価指標を理解する。

(9) その他のシステム関連の監査

① 情報セキュリティ監査

情報セキュリティ監査の目的，役割を理解する。

用語例 情報セキュリティ監査基準，情報セキュリティ管理基準，情報セキュリティ監査企業台帳

② 個人情報保護監査

個人情報保護監査の目的，役割を理解する。

用語例 情報資産の保全，情報漏えいの可能性，情報漏えいリスク

③ コンプライアンス監査

コンプライアンス監査の目的，役割を理解する。

用語例 行動指針，倫理，透明性

④ マネジメントシステム監査

品質，環境，サービス，情報セキュリティ，事業継続などの各種マネジメントシステムを対象とするマネジメントシステム監査の目的，役割を理解する。

用語例 JIS Q 19011（マネジメントシステム監査のための指針）

(10) システムに関する監査関連法規

① システム監査基準

システム監査における監査人の行動規範，手順，内容は，経済産業省が策定したシステム監査基準によって規定されていることを理解する。

用語例 監査人の独立性，一般基準，実施基準，報告基準，システム管理基準，情報セキュリティ監査基準，情報セキュリティ管理基準，コンピュータウイルス対策基準，コンピュータ不正アクセス対策基準

② 情報セキュリティ関連法規

情報セキュリティに関する法律，システム監査の対象組織，情報システムに及ぼす影響を理解する。

用語例 刑法，電磁的記録不正作出及び供用，電子計算機損壊等業務妨害，電子計算機使用詐欺，不正アクセス行為の禁止等に関する法律，電子計算機を使用して作成する国税関係帳簿書類の保存方法等の特例に関する法律，電子署名及び認証業務に関する法律

③ 個人情報保護関連法規

個人情報保護に関する法律やガイドライン，個人情報保護におけるシステム監査の役割を理解する。

用語例 JIS Q 15001，プライバシーマーク制度

④ 知的財産権関連法規

知的財産権に関する法律，システム監査では権利侵害行為を指摘する必要性があることを理解する。

用語例 著作権法，特許法，不正競争防止法，営業秘密管理指針

⑤ 労働関連法規

労働に関する法律，システム監査では法律に照らして労働環境における問題点を指摘する必要があることを理解する。

用語例 労働基準法，労働者派遣法，男女雇用機会均等法

⑥ 法定監査関連法規

システム監査は法定監査との連携を図りながら実施する必要があることを理解する。

用語例 株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律，金融商品取引法，会社法

2. 内部統制

【目標】

- 企業などにおける内部統制，IT ガバナンスの目的，考え方を修得し，適用する。

(1) 内部統制

内部統制とは，健全かつ効率的な組織運営のための体制を企業などが自ら構築し運用する仕組みであり，実現には業務プロセスの明確化，職務分掌，実施ルールの設定，チェック体制の確立が必要であることを理解する。また，IT が内部統制に果たす役割，内部統制の六つの基本要素を理解する。

用語例 業務プロセスの明確化，職務分掌，実施ルールの設定，チェック体制の確立，相互牽制（職務の分離），IT が内部統制に果たす役割，コンプライアンス，COSO（Committee of Sponsoring Organizations of the Treadway Commission）フレームワーク，内部統制報告制度，財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準（統制環境，リスクの評価と対応，統制活動，情報と伝達，モニタリング，IT への対応），システム管理基準追補版（財務報告に係る IT 統制ガイダンス），IT 全社的統制，IT 全般統制，IT 業務処理統制

(2) IT ガバナンス

IT ガバナンス（JIS Q 38500）とは，企業などが競争力を高めることを目的として情報システム戦略を策定し，戦略実行を統制する仕組みを確立するための取組であることを理解する。また，システム監査，情報セキュリティ監査，ソフトウェア資産管理など IT ガバナンスを実現するための取組を理解する。また，IT ガバナンスの評価のために使用されるフレームワークを理解する。

用語例 JIS Q 38500，CIO（Chief Information Officer：最高情報責任者），CISO（Chief Information Security Officer：最高情報セキュリティ責任者），IT 統制，コーポレートガバナンス，COBIT（Control Objectives for Information and related Technology），PRM-IT（Process Reference Model for IT），成熟度モデル

(3) 法令遵守状況の評価・改善

情報システムの構築，運用は，当該業務システムにかかわる法令を遵守して行わなければならないこと，適切なタイミングと方法で法令，基準，自社内外の行動規範の遵守状況を継続的に評価し，改善していく必要があること，内部統制を整備することが法令遵守の体制を確立する上で有効であることを理解する。

用語例 会社法，金融商品取引法，コンプライアンス監査，CSA（Control Self Assessment：統制自己評価）

ストラテジ系

大分類 7：システム戦略 中分類 17：システム戦略

1. 情報システム戦略

【目標】

- 情報システム戦略の目的、考え方、策定手順や留意事項を修得し、適用する。
- エンタープライズアーキテクチャの手法を修得し、適用する。
- プログラムマネジメント、フレームワーク、品質統制、情報システム戦略マネジメントを修得し、適用する。

(1) 情報システム戦略

① 情報システム戦略の目的と考え方

経営戦略に沿って効果的な情報システム戦略を策定すること、情報システム戦略に基づいて全体システム化計画や情報化投資計画を策定することなどを理解する。

用語例 情報システム戦略評価, CIO (Chief Information Officer: 最高情報責任者)

② 情報システム戦略の策定手順

情報システム戦略を策定する際の手順を理解する。

[手順の例]

(i) 経営戦略の確認, (ii) 業務環境の調査, 分析, (iii) 業務, 情報システム, 情報技術の調査, 分析, (iv) 基本戦略の策定, (v) 業務の新イメージ作成, (vi) 情報システムの対象の選定と投資目標の策定, (vii) 情報システム戦略案の策定, (viii) 情報システム戦略の承認

③ 情報システム戦略の策定の留意事項

情報システム戦略を策定する際の留意事項を理解する。

用語例 経営課題解決, 事業展開, 競争優位, 情報システム構築, 業務革新, 情報技術の動向, 情報基盤整備, 情報システム化範囲, 経営資源配分, 業務プロセス標準化, 業務モデル, ビジネスモデル, 新技術導入, 情報化投資環境, 投資効果, 情報資産管理, BCP (Business Continuity Plan: 事業継続計画), コンプライアンス, IT 経営力指標

④ 組織形態

情報システムの企画, 開発, 運用, 保守などを行う組織の形態として, 機能別組織, 事業部制組織, マトリックス組織, プロジェクト組織などがあることを理解する。

用語例 情報システム化委員会, 情報化推進体制

⑤ 全体システム化計画

(a) 全体最適化方針

全体最適化方針は, 組織全体として業務とシステムが進むべき方向を示す方針であることを理解する。また, 全体最適化方針で明確化する内容と留意事項を理解する。

用語例 全体最適化目標, IT ガバナンスの方針, 経営戦略との整合性, 情報システムのありべき姿 (To-be モデル), 組織や業務の変更方針, 情報セキュリティ方針

(b) 全体最適化計画

全体最適化計画は、全体最適化方針に基づき、事業者の各部署において個別に作られたルールや情報システムを統合化し、効率性や有効性を向上させるための計画であることを理解する。また、全体最適化計画で明確化する内容と留意事項を理解する。

用語例 業務固有のルール・規制・関連法規など、社内外利害関係者との調整と合意、システム構築・運用のための標準化方針及び品質方針、外部資源の活用、システム管理基準

⑥ 情報化投資計画

情報化投資計画は、経営戦略との整合性を考慮して策定すること、計画の決定に際してその影響、効果、期間、実現性などの観点から複数の選択肢を検討する必要があることなどを理解する。

用語例 情報化投資方針、IT 投資マネジメント、確保すべき経営資源、投資効果やリスク算定の方法

⑦ システム化計画

全体システム化計画に従って、個別システム化計画を立案すること、企業の戦略性を向上させるためのシステムとして、企業全体又は事業活動の統合管理を実現するシステム、企業間の一体運営に資するシステムがあることを理解する。

用語例 基幹系システム、ERP (Enterprise Resource Planning: 企業資源計画)、SCM, CRM (Customer Relationship Management: 顧客関係管理)、SFA, KMS (Knowledge Management System: 知識管理システム)、シェアドサービス

⑧ モデル

企業経営システムのモデルを理解する。

用語例 ビジネスモデル、業務モデル、情報システムモデル

(2) エンタープライズアーキテクチャ

① エンタープライズアーキテクチャの目的と考え方

EA (Enterprise Architecture: エンタープライズアーキテクチャ) は、組織全体の業務とシステムを統一的な手法でモデル化し、業務とシステムを同時に改善することを目的とした、組織の設計・管理手法であること、全体最適化を図るためのアーキテクチャモデルを作成し、目標を明確に定めることが必要であることを理解する。

アーキテクチャモデルは、業務とシステムの構成要素を記述したモデルのことで、組織全体として業務プロセス、業務に利用する情報、情報システムの構成、利用する情報技術などの領域（ビジネス、データ、アプリケーション、テクノロジー）のアーキテクチャを整理し、システム全体の現状と理想像を表現することを理解する。

用語例 ザックマンフレームワーク、業務・システム最適化、As-is モデル、To-be モデル、参照モデル、EAI (Enterprise Application Integration)

② ビジネスアーキテクチャ

BA (Business Architecture: ビジネスアーキテクチャ) は、組織の目標や業務を体系化したアーキテクチャであることを理解する。

用語例 業務説明書、DMM (Diamond Mandala Matrix: 機能構成図)、DFD, WFA (Work Flow Architecture: 業務流れ図)、UML

③ データアーキテクチャ

DA (Data Architecture : データアーキテクチャ) は、組織の目標や業務に必要なとなるデータの構成、データ間の関連を体系化したアーキテクチャであることを理解する。

用語例 データ定義表、情報体系整理図 (UML のクラス図)、E-R 図

④ アプリケーションアーキテクチャ

AA (Application Architecture : アプリケーションアーキテクチャ) は、組織としての目標を実現するための業務と、それを実現するアプリケーションの関係を体系化したアーキテクチャであることを理解する。

用語例 情報システム関連図、情報システム機能構成図、SOA (Service Oriented Architecture : サービス指向アーキテクチャ)

⑤ テクノロジアーキテクチャ

TA (Technology Architecture : テクノロジアーキテクチャ) は業務を実現するためのハードウェア、ソフトウェア、ネットワークなどの技術を体系化したアーキテクチャであることを理解する。

用語例 ハードウェア構成図、ソフトウェア構成図、ネットワーク構成図

(3) プログラムマネジメント

プログラムマネジメントは、目的や目標が明確な複数のプロジェクトを有機的に組み合わせたプログラムが、プロジェクト相互の関係を最適化して、全体として使命をより良く達成するように統合する活動であることを理解する。

用語例 PMO (Program Management Office : プログラムマネジメントオフィス)、プログラム統合

(4) オーナ

情報システムでは、システムオーナは情報システムの責任者を指し、データオーナは情報システムが保有するデータに関する責任者を指すこと、及び関連する各部門の役割を理解する。

用語例 CIO, システム利用部門、業務部門

(5) フレームワーク

全社的な組織構造の中に情報システム関連の組織を組み込み、位置付けと使命を明確にするとともに、情報システムの統制についての要件を定義し、明確化することを理解する。また、フレームワークには、プロセスフレームワーク、コントロールフレームワークなどがあることを理解する。

用語例 コントロール目標、COBIT (Control Objectives for Information and related Technology), ITIL (Information Technology Infrastructure Library), システム管理基準, SLCP-JCF (共通フレーム), COSO (Committee of Sponsoring Organizations of the Treadway Commission), 財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準, KGI (Key Goal Indicator : 重要目標達成指標), KPI (Key Performance Indicator : 重要業績評価指標)

(6) 品質統制

情報システムにかかる標準に対する準拠性を確保し、継続的な遵守状況をモニタリングし、情報システムの品質を確保するための組織、体制、一連の活動であることを理解する。

用語例 品質統制フレームワーク、管理プロセス

(7) 情報システム戦略実行マネジメント

情報システム戦略の実行状況をモニタリングし、情報システム戦略の実現を確保する一連の活動であることを理解する。

用語例 モニタリング指標，差異分析，リスクへの対応

2. 業務プロセス

【目標】

➤ 業務プロセスの改善と問題解決に関する考え方，代表的な手法を修得し，適用する。

(1) 業務プロセスの改善と問題解決

① 業務プロセスの改善と問題解決

既存の組織構造や業務プロセスを見直し，効率化を図るとともに，情報技術を活用して業務・システムを最適化する考え方を理解する。

② ビジネスプロセスマネジメント

BPM (Business Process Management : ビジネスプロセスマネジメント) の目的，考え方，手順を理解する。また，業務分析，業務設計，業務の実行，モニタリング，評価のサイクルを繰り返し，継続的な業務プロセスの改善を図ること，BPMS (Business Process Management System) の機能を理解する。

用語例 SFA，ワークフローシステム，PDCA

③ ビジネスプロセスリエンジニアリング

BPR (Business Process Reengineering : ビジネスプロセスリエンジニアリング) の目的，手順，考え方を理解する。

用語例 プロセス視点，顧客志向，顧客価値向上

④ ビジネスプロセスアウトソーシング

BPO (Business Process Outsourcing : ビジネスプロセスアウトソーシング) の目的，手順，考え方を理解する。

用語例 アウトソーシング，オフショア

⑤ 業務プロセスの可視化の手法

WFA (Work Flow Architecture : 業務流れ図)，BPD (Business Process Diagram : BP 図)，E-R 図などの手法を用いて業務プロセスを把握，分析して問題点を発見し，業務改善の提案を行うことを理解する。

用語例 IDEF (Integrated DEFinition methods : 統合化定義方法論)，BPMN (Business Process Modeling Notation)，E-R モデル，フローチャート，状態遷移図，UML，DFD

3. ソリューションビジネス

【目標】

➤ ソリューションビジネスの考え方，代表的なサービスを修得し，適用する。

(1) ソリューションビジネス

情報技術の進展，経営を取り巻く環境の複雑化によって，顧客の経営課題を解決するサービスを提案，提供するソリューションビジネスが発展したこと，ソリューションビジネスにおいてはサービスの提供を通じて，顧客の課題を探り解決策を提案すること，顧客との信頼

関係の構築，維持が重要であることを理解する。

用語例 ソリューション，ソリューションプロバイダ，業務システム提案，業務パッケージ，問題解決支援，システムインテグレーション

(2) ソリューションサービスの種類

① クラウドサービス

クラウドサービスの特徴，考え方，留意事項を理解する。

用語例 クラウドサービス（SaaS，PaaS，IaaS など），パブリッククラウド，プライベートクラウド，ハイブリッドクラウド，ASP，BPO（Business Process Outsourcing：ビジネスプロセスアウトソーシング），オンデマンド，SOA（Service Oriented Architecture：サービス指向アーキテクチャ）

② その他のソリューションサービス

業種別，業務別，課題別などさまざまなソリューションサービスが提供されていること，及び代表的なサービスの種類と特徴，考え方，留意事項を理解する。

用語例 アウトソーシングサービス，ホスティングサービス，ハウジングサービス，ソフトウェアパッケージの適用サービス，オンプレミス，CRM ソリューション，セキュリティソリューション，業務パッケージ，ERP パッケージ

4. システム活用促進・評価

【目標】

- 情報システム活用促進，評価の考え方を修得し，適用する。
- 情報システムの利用実態を評価，検証して，改善に結びつけることの重要性，考え方を修得し，適用する。
- 情報システム廃棄の考え方を修得し，適用する。

(1) システム活用促進・評価

① システム活用促進と評価の目的と考え方

情報システムを有効に活用し，経営に活かすために，情報システムの構築時から活用促進，普及啓発活動を継続的に行い，情報システムの利用実態を評価，検証して改善していくこと，各活動の考え方，役割，手順を理解する。

② 情報リテラシ

経営目標の実現を目指して，情報を安全，有効，効率的に活用するために，情報リテラシを確立することを理解する。

用語例 ビジネスモデルの実現

③ データ活用

情報システムに蓄積されたデータを分析し，今後の事業展開の戦略に活用することを理解する。

用語例 KM（Knowledge Management：ナレッジマネジメント），データマイニング，BI（Business Intelligence）ツール，ビッグデータ，BYOD（Bring Your Own Device）

④ 普及啓発

情報システムを活用するための教育・訓練の実施など，普及啓発活動を理解する。

用語例 システム利用マニュアル，業務マニュアル，e-ラーニング，講習会，人材育成計画，ゲーミフィケーション，デジタルディバイド

⑤ 情報システム利用実態の評価・検証

情報システムの投資対効果分析，システム利用実態を調査し評価すること，及び業務内容，業務フローの変更の有無，システムの運用状況を把握し，評価，検証して改善の方向性と目標を明確化することを理解する。また，客観的な評価，検証を行うために外部専門家を活用することを理解する。

用語例 投資対効果分析，利用者満足度，モニタリング，ログ分析，ログ監視，第三者評価・検証，学習マネジメントシステム

⑥ 情報システム廃棄

機能，性能，運用性，拡張性，コストなどの観点から評価，検証した結果，情報システムやソフトウェアが寿命に達していると判断した場合には，情報システムを廃棄し，新たな情報システムの導入などを検討する必要があること，廃棄に当たっては廃棄計画を策定するなどの適切な措置を講じた上で廃棄すること，廃棄の手順と留意事項を理解する。

用語例 システムライフサイクル，減価償却，情報セキュリティポリシ，データの消去

1. システム化計画

【目標】

- システム化構想の立案とシステム化計画の立案の目的，考え方，手順を修得し，適用する。
- システム化計画の立案における検討項目を修得し，適用する。

(1) システム化構想の立案

システム化構想の立案の目的，考え方，手順を理解する。

[手順の例]

(i) 経営戦略や情報システム戦略に沿ったシステム化の目的と求められる成果（目標）の明確化，(ii) 事業環境と業務環境，現行業務システム及び情報技術動向の調査分析，(iii) 対象とする業務の明確化，(iv) 目標とする業務の全体像の作成，(v) システム投資対象の選定と目標の策定，(vi) 承認

【用語例】

経営課題，経営要求，事業環境，業務環境，情報技術動向，業務分析，業務フロー，システム最適化手法，システム化構想書，システム化推進体制，BABOK（ビジネスアナリシス知識体系ガイド），BPR（Business Process Reengineering：ビジネスプロセスリエンジニアリング）

(2) システム化計画の立案

システム化計画の立案の目的，考え方，手順を理解する。

[手順の例]

(i) 対象とする業務やシステムの課題の定義，(ii) 対象業務やシステムの調査・分析，(iii) システム化基本方針の策定，(iv) システム化計画の取りまとめ，(v) 承認

【用語例】

全体システム化計画，個別システム化計画，システム化計画の基本要件，システム化の目的，開発範囲，システム適用範囲，関連する情報技術の調査，業務モデルの作成，システム化機能の整理，システム方式の策定，サービスレベルと品質に対する基本方針，プロジェクト推進体制，プロジェクトオーナー（と実行責任者）

(3) システム化計画の立案における検討項目

① 全体開発スケジュール

全体開発スケジュールの目的，考え方を理解する。

【用語例】

サブシステム分割，優先順位付け，要員，納期，費用，品質，クリティカルパス

② 要員教育計画

要員教育計画の目的，考え方を理解する。

【用語例】

教育・訓練の基本要件，教育訓練体制，スケジュール，対象者

③ 投資の意思決定法

投資の意思決定に使用される手法の考え方，手順を理解する。

【用語例】

PBP，DCF 法，NPV（Net Present Value：正味現在価値）

④ 開発投資対効果

開発投資対効果を分析，検討する際の考え方を理解する。

用語例 工数の概算見積り，開発効果の算定，概算費用の算出，IT ポートフォリオ，投資回収期間，NPV（Net Present Value：正味現在価値），システムライフサイクル

⑤ 情報システム導入リスク分析

情報システムの導入に伴うリスクの種類や大きさの分析を理解する。

用語例 リスク分析の対象，リスクの発生頻度・影響・範囲，リスクの種類に応じた損害内容と損害額，リスク対応（リスク回避，損失予防，損失軽減，リスク移転，リスク保有など），財産損失，責任損失，純収益損失，人的損失，リスク測定

2. 要件定義

【目標】

- 要求分析と要件定義の目的，考え方，手順，代表的な手法を修得し，適用する。
- 情報システム戦略との整合性の検証を修得し，適用する。

(1) 要求分析

① 要求分析の手順

要求項目の洗い出し，分析，システム化ニーズの整理，前提条件や制約条件の整理，という手順を理解する。

用語例 ユーザニーズ調査，現状分析，課題定義，要求仕様書，現状指向型アプローチ，目的指向型アプローチ，要求工学（Requirements Engineering）

② 要求分析の手法

要求分析に用いられる代表的な手法やモデルの特徴を理解する。

用語例 アンケート，インタビュー，親和図，機能分析，構造分析，データフローモデル，ペトリネットモデル，E-R モデル，並列プロセスモデル，ゴール指向要求分析（KAOS 法，アイスター），BABOK（ビジネスアナリシス知識体系ガイド）

(2) 要件定義

① 要件定義の目的

要件定義の目的は，システムや業務全体の枠組み，システム化の範囲と機能を明らかにすることであることを理解する。

② 要件の定義

要件定義で明確化する内容を理解する。

用語例 業務要件定義，業務処理手順，機能要件定義，非機能要件定義，性能要件，セキュリティ要件，周辺インタフェース要件，情報・データ要件，運用要件，移行要件，保守要件

③ 要件定義の手法

構造化分析手法，オブジェクト指向分析手法を理解する。

用語例 プロセス仕様，DFD，DD（Data Dictionary：データ辞書），決定表（デシジョンテーブル），デシジョンツリー，UML，DOA（Data Oriented Approach：データ中心アプローチ），コード・ヨードン技法，シュレア・メラール技法

④ 利害関係者要件の確認

定義された要件の実現可能性，妥当性，情報システム戦略との整合性などを検証し，利害関係者間で要件の合意と承認を得ることを理解する。

用語例 ステークホルダ，アカウントビリティ，トレーサビリティ，要件変更のルール，ファシリテーション

(3) 情報システム戦略との整合性の検証

要件定義に当たっては，情報システム戦略との整合性の検証が重要であることを理解する。

3. 調達計画・実施

【目標】

➤ 調達計画の策定と調達実施の目的，考え方を修得し，適用する。

(1) 調達と調達計画

① 調達の前提

開発するシステムの用途，規模，取組方針，前提や制約条件に応じた調達方法を理解する。

② 調達計画

要件定義を踏まえ，既成の製品又はサービスの購入，組織内部でのシステム開発，外部委託によるシステム開発などから調達方法を選択し，調達の対象，調達の要求事項，調達の条件などを定義して調達計画を策定することを理解する。

用語例 内外作基準，IFB（Invitation For Bids：入札募集）

③ 外部資源の利用

システム開発における外部資源活用の妥当性，外部資源活用の方法，特徴を理解する。

用語例 システムインテグレータ，SI 事業者，アウトソーシング，SaaS（Software as a Service），ASP，IDC（Internet Data Center），SOA（Service Oriented Architecture：サービス指向アーキテクチャ）を含む Web サービス，ソフトウェアパッケージの適用，オープンソースソフトウェアの適用，OEM，ODM，ファブレス

④ システム資産及びソフトウェア資産管理

調達を適切に行う上で，システム資産及びソフトウェア資産を管理することが有効であることを理解する。

用語例 ソフトウェアのサプライチェーンマネジメント，ライセンス管理，構成管理

(2) 調達の実施

① 調達の方法

調達の代表的な方法，留意事項を理解する。

用語例 企画競争入札，一般競争入札，総合評価落札方式（加算方式），総合評価，価格評価，WTO 政府調達協定

② 情報提供依頼書

ベンダ企業に対し，システム化の目的や業務内容を示し，RFI（Request For Information：情報提供依頼書）を作成することを理解する。

③ 提案依頼書

ベンダ企業に対し，調達対象システム，提案依頼事項，調達条件などを示した RFP（Request For Proposal：提案依頼書）及び RFQ（Request For Quotation：見積依頼書）

を提示し、提案書、見積書の提出を依頼することを理解する。

用語例 対象範囲、システムモデル、サービス要件、目標スケジュール、契約条件、ベンダの経営要件、ベンダのプロジェクト体制要件、ベンダの技術及び実績評価

④ 提案書・見積書

ベンダ企業では、提案依頼書を基にシステム構成、開発手法などを検討し、提案書や見積書を作成して依頼元に対して提案することを理解する。

⑤ 調達選定

調達先の選定に当たっては、提案評価基準や要求事項適合度の重み付けを含め、選定の手順を確立し、ベンダ企業の提案書や見積書から、開発の確実性、信頼性、費用内訳、工程別スケジュール、最終納期などを比較評価して選定することを理解する。

用語例 原価構成、工期、内部統制、法令遵守、品質リスク、納期リスク、費用超過リスク、要員スキルに関するリスク、CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）調達、グリーン調達

⑥ 調達リスク分析

調達に当たっては、内部統制、法令遵守、CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）調達、グリーン調達などの観点からのリスク管理の知識が必要であり、リスクを分析し、評価し、対策を立てる必要があることを理解する。また、調達のリスクを品質リスク、納期リスク、費用超過リスク、要員スキルに関するリスクなど、リスクの内容に合わせて分けられることを理解する。

⑦ 契約締結

選定したベンダ企業と契約について交渉を行い、納入システム、費用、納入時期、発注元とベンダ企業の役割分担などを確認し、契約を締結することを理解する。

用語例 ソフトウェア開発委託モデル契約、情報システム・モデル取引・契約書、（準）委任契約、請負契約、知的財産権利用許諾契約、定額契約、実費償還契約（CPIF）、Time&Material 契約（T&M, CPFF）、ソフトウェア使用許諾契約、ライセンス契約、サブライセンス、グラントバック

1. 経営戦略手法

【目標】

- 経営戦略の目的, 考え方, 経営戦略の階層を修得し, 適用する。
- 全社戦略, 事業戦略の目的, 考え方, 代表的な経営戦略・手法を修得し, 適用する。

(1) 経営戦略

経営戦略の目的, 考え方, 経営戦略の階層を理解する。

用語例 企業理念, 企業戦略, ビジネス戦略, 競争戦略, 機能別戦略, 多角化, シナジー効果, 規模の経済, 範囲の経済, イノベーション, チェンジマネジメント, ベンチマーキング, ベストプラクティス

(2) 全社戦略

① 全社戦略の策定

全社戦略の目的, 考え方, 代表的な戦略を理解する。

用語例 ドメイン, 資源配分, 競争優位, 経験曲線, CS (Customer Satisfaction: 顧客満足), グループ経営, コアコンピタンス, アウトソーシング, M&A (Mergers and Acquisitions), TOB (Take Over Bid: 公開買付け), アライアンス, シェアドサービス, ベンチャービジネス, クラウドファンディング, インキュベータ

② プロダクトポートフォリオマネジメント

PPM (Product Portfolio Management: プロダクトポートフォリオマネジメント) の目的, 特徴, 手順を理解する。

用語例 経営資源配分の最適化, 市場成長率, 相対的市場シェア, 問題児, 花形製品, 金となる木, 負け犬

(3) 事業戦略

① 競争戦略の策定

競争戦略の目的, 考え方, 代表的な戦略を理解する。

用語例 ファイブフォース分析 (既存競合者同士の敵対関係, 新規参入の脅威, 代替製品・代替サービスの脅威, 買い手の交渉力, 供給者の支配力), 競争の基本戦略 (コストリーダーシップ戦略, 差別化戦略, 集中戦略), ブルーオーシャン戦略

② SWOT 分析

SWOT (Strength, Weakness, Opportunity, Threat: 強み, 弱み, 機会, 脅威) 分析の目的, 特徴, 手順を理解する。

用語例 外部環境, 内部環境

③ バリューチェーン分析

バリューチェーン分析の目的, 特徴, 手順を理解する。

用語例 価値活動, 調達, 製造, 販売, サービス, 付加価値, コスト, 外部資源活用, バリューチェーン再設計

④ 成長マトリクス

成長マトリクスの目的, 特徴, 手順を理解する。

用語例 製品・市場マトリクス, 成長戦略, 市場浸透戦略, 市場開拓戦略, 製品開発戦略, 多角化戦略

2. マーケティング

【目標】

➤ マーケティングの目的, 考え方, 代表的なマーケティング手法を修得し, 適用する。

(1) マーケティング理論

① マーケティング分析

市場規模, 顧客ニーズ, 自社の経営資源, 業績, 競合関係などの分析を行うこと, その考え方, 及び市場調査で用いられる代表的な調査, 分析手法を理解する。

用語例 3C (Customer, Competitor, Company) 分析, マクロ環境分析 (PEST 分析, 文化的環境), 市場調査 (マーケティングリサーチ), セグメンテーション, ターゲティング, ポジショニング, サンプルング, 質問法, 観察法, 実験法, クロス集計, 価格感度測定法, RFM 分析 (Recency, Frequency, Monetary Analysis), 消費者行動モデル (AIDMA)

② マーケティングミックス

マーケティングミックスは, 商品計画, 販売価格, 販売経路, 販売促進を効果的に組み合わせることで実施することであることを理解する。

用語例 マーチャンダイジング, マーケティングの 4P (Product, Price, Place, Promotion), マーケティングの 4C (Customer Value, Customer Cost, Convenience, Communication)

③ CS (Customer Satisfaction: 顧客満足)

経済が成熟し, 消費が高度化するに伴い, 顧客に精神的, 主観的な満足を感じさせることが企業の重要課題になっていることを理解する。

用語例 顧客価値, LTV (Life Time Value), 顧客ロイヤリティ, ブランド戦略, UX (User Experience), コンバージョン率, リテンション率

(2) マーケティング戦略

① 製品戦略

PLC (Product Life Cycle: 製品ライフサイクル) の各段階の特徴と実施すべきマーケティング戦略, 製品ミックスの考え方, 代表的な製品戦略を理解する。

用語例 導入期, 成長期, 成熟期, 衰退期, 製品ライン, 製品ポートフォリオ, ブランド戦略, 製品多様化戦略, 製品差別化戦略, 市場細分化戦略, 計画的陳腐化, コモディティ化, PLM (Product Life cycle Management), マスカスタマイゼーション

② 価格戦略

商品の価格設定の手法, 考え方, その効果を理解する。

用語例 価格設定方法 (コストプラス法ほか), バリュープライシング, 需要の価格弾力性

③ 流通戦略

流通経路の分類方法，選定する考え方，最適化する手法を理解する。

用語例 ボランタリーチェーン，フランチャイズチェーン，チャネル統合，オムニチャネル

④ プロモーション戦略

商品を消費者に認知してもらうコミュニケーション手段，その活用方法を理解する。

用語例 広告，販売促進，パブリシティ，消費者行動モデル（AIDMA）

(3) マーケティング手法

代表的なマーケティング手法の特徴，適した活用場面を理解する。

用語例 マスマーケティング，ターゲットマーケティング，ワントゥワンマーケティング，リレーションシップマーケティング，ダイレクトマーケティング，バイラルマーケティング，市場テスト（テストマーケティング），コーズリレーテッドマーケティング，プッシュ戦略/プル戦略

3. ビジネス戦略と目標・評価

【目標】

- ビジネス戦略と目標の設定，評価の目的，考え方，手順を修得し，適用する。
- 目標の設定，評価のための代表的な情報分析手法を修得し，適用する。

(1) ビジネス戦略と目標の設定・評価

ビジネス戦略と目標，評価に関する目的，考え方，手順を理解する。

[手順の例]

(i) 企業理念，企業ビジョン，全社戦略を踏まえ，ビジネス環境分析，ビジネス戦略立案を行い，具体的な戦略目標を定める，(ii) 目標達成のために重点的に取り組むべき CSF（Critical Success Factors：重要成功要因）を明確にする，(iii) 目標達成の度合いを計るための指標を設定し評価する。

用語例 組織のビジョン，組織のミッション，KGI（Key Goal Indicator：重要目標達成指標），KPI（Key Performance Indicator：重要業績評価指標），モニタリング，フィージビリティスタディ

(2) 目標設定及び評価のための代表的な情報分析手法

① バランススコアカード

BSC（Balanced Scorecard：バランススコアカード）の目的，特徴，手順を理解する。

用語例 財務の視点，顧客の視点，業務プロセスの視点，学習と成長の視点，CSF（Critical Success Factor：重要成功要因），評価指標，モニタリング，差異分析

② ニーズ・ウォンツ分析

ニーズ・ウォンツ分析の目的，特徴，手順を理解する。

用語例 必要性（ニーズ），欲求（ウォンツ）

③ 競合分析

競合分析の目的，特徴，手順を理解する。

用語例 競争状況，競合相手の数，製品やサービスの価格，技術動向

④ その他の手法

バリューエンジニアリング，シックスシグマなどの手法の目的，特徴，手順を理解する。

用語例 製品・サービスの価値，機能，コスト，ライフサイクルコスト，機能定義，機能評価，機能別コスト分析，代替案作成，TQM（Total Quality Management：総合的品質管理），マクロ環境分析（PEST 分析，文化的環境）

4. 経営管理システム

【目標】

➤ 代表的な経営管理システムの特徴，考え方を修得し，適用する。

(1) 経営管理システム

経営管理システムには，全社を対象としたシステム，特定の部門を対象としたシステムなどがあることを理解する。また，経営戦略実現のための経営管理システムに，経営者の意思決定を支援するシステムや事業活動の統合管理などを行うシステムがあること，特徴，考え方を理解する。

用語例 全社システム，部門システム，DSS（Decision Support System：意思決定支援システム），SIS（Strategic Information System：戦略的情報システム），ERP（Enterprise Resource Planning：企業資源計画），バリューチェーンマネジメント，ECR（Efficient Consumer Response：効率的消費者対応），SFA，KMS（Knowledge Management System：知識管理システム），SECI（Socialization, Externalization, Combination, Internalization：共同化，表出化，連結化，内面化）モデル，CRM（Customer Relationship Management：顧客関係管理），SCM，TOC（Theory of Constraints：制約条件理論），企業内情報ポータル（EIP）

1. 技術開発戦略の立案

【目標】

- 技術開発戦略の目的, 考え方, 立案手順を修得し, 適用する。

(1) 技術開発戦略

① 技術開発戦略の目的と考え方

企業の持続的発展のためには, 技術開発への投資とともにイノベーションを促進し, 技術と市場ニーズとを結び付けて事業を成功へ導く技術開発戦略が重要であり, 経営戦略や事業戦略と技術開発戦略との連携が重要であることを理解する。

用語例 MOT (Management of Technology : 技術経営), プロダクトイノベーション, プロセスイノベーション, ラディカルイノベーション, 市場創生, 市場価値, R&D (Research and Development), CVC (Corporate Venture Capital)

② 価値創出の三要素

技術開発を経済的価値へ結びつけるには, 技術・製品価値創造 (Value Creation), 価値実現 (Value Delivery), 価値利益化 (Value Capture) が重要であることを理解する。

用語例 技術の S カーブ, 死の谷 (Valley of Death), QCDE (Quality, Cost, Delivery, Environment : 品質, 価格, 納期, 環境)

③ 技術開発戦略の立案手順

技術開発戦略の立案に先立って必要な分析の内容, 核となる技術を見極め, 柔軟に外部資源を活用するなど, 技術開発戦略の立案の考え方を理解する。

用語例 製品動向, 技術動向, 標準化動向, コア技術, 技術研究, 委託研究, 共同研究, 技術マーケティング, 発想法, 成功事例

④ 外部資源活用戦略

外部資源を戦略的に活用する手法, 留意事項を理解する。

用語例 技術獲得, 技術供与, 技術提携, M&A (Mergers and Acquisitions : 合併と買収), 産学官連携, TLO (Technology Licensing Organization : 技術移転機関), 標準化戦略, 知的財産権, 早期審査制度, パテントプール, クロスライセンス, 防衛特許, アイデアソン, ハッカソン

2. 技術開発計画

【目標】

- 技術開発計画の目的, 内容, 考え方を修得し, 適用する。
- ロードマップの目的, 考え方, 種類, 特徴を修得し, 適用する。

(1) 技術開発計画

経営戦略や技術開発戦略に基づいて作成される技術開発計画の目的と内容, 立案に当たった考え方を理解する。

用語例 技術開発投資計画, 技術開発拠点計画, 人材計画, 経営資源の最適配分, 投資対効果, コンカレントエンジニアリング, パイロット生産, 知的財産権管理, 市場ニーズ

(2) 技術開発のロードマップ

技術開発の具体的なシナリオとして、科学的裏付とコンセンサスのとれた未来像を時系列で描くロードマップの目的、考え方、種類、特徴を理解する。

用語例 技術ロードマップ，製品応用ロードマップ，特許取得ロードマップ，市場ニーズ

1. ビジネスシステム

【目標】

- 各種ビジネス分野に用いられる情報システムの特徴、代表例、動向を修得し、適用する。

(1) 社内業務支援システム

情報システムがどのような社内業務に活用されているか、情報システムの特徴、代表例、動向を理解する。

用語例 会計・経理・財務システム、XBRL、人事・給与システム、営業支援システム、グループウェア、ワークフローシステム、Web 会議システム

(2) 基幹業務支援システム及び業務パッケージ

業務を支援する代表的な情報システムの特徴、期待効果、情報システムの導入に伴う業務体制の見直しや費用対効果などの留意事項を理解する。また、ビジネスシステムの代表的なソフトウェアパッケージの特徴、代表例、動向を理解する。

用語例 流通情報システム、物流情報システム、フィールド業務支援システム、金融情報システム、医療情報システム、POS システム、EOS (Electronic Ordering System：電子補充発注システム)、販売管理システム、購買管理システム、在庫管理システム、顧客情報システム、CDN (Contents Delivery Network)、ERP、電子カルテ、トレーサビリティ、ユビキタスコンピューティング、IoT (Internet of Things)

(3) 行政システム

行政で活用されている代表的な情報システムの種類、特徴を理解する。また、電子政府は、情報技術を活用して行政サービスの提供、行政活動の効率化などを行う仕組みであり、2001年に策定された IT 基本戦略によって、電子政府の実現が重点政策課題の一つとされていること、特徴、動向、課題を理解する。

用語例 e-Japan 構想、e-Gov、電子自治体、電子申請、電子調達、LGWAN (Local Government Wide Area Network：総合行政ネットワーク)、EDINET (Electronic Disclosure for Investors' Network)、出入国管理システム、登記情報システム、社会保険オンラインシステム、地域気象観測システム (アメダス)、緊急速報、公共情報システム、住民基本台帳ネットワークシステム、公的個人認証サービス、マイナンバー、ユニバーサルデザイン、デジタルディバイド

(4) 公共情報システム

道路交通問題の解決を目指すシステム、通行料金を扱うシステムなど、公共分野における代表的な情報システムの特徴、代表例、動向を理解する。

用語例 スマートグリッド、EMS (Energy Management System：エネルギーマネジメントシステム)、GPS (Global Positioning System：全地球測位システム) 応用システム、VICS (Vehicle Information and Communication System：道路交通情報通信システム)、ETC (Electronic Toll Collection System：自動料金支払システム)、座席予約システム

2. エンジニアリングシステム

【目標】

- エンジニアリングシステムの開発，設計における目的，考え方を修得し，適用する。
- 生産の自動制御，生産システム，生産管理，コンピュータ支援システムの目的，仕組み，技術を修得し，適用する。

(1) エンジニアリングシステムの目的と考え方

開発，設計などに情報技術を利用する目的と考え方を理解する。

(2) 生産の自動制御

生産工程の自動制御の仕組みと機能，生産自動化によるコスト削減や危険作業の機械化などの利点，生産自動化の要素技術，動向などを理解する。

用語例 生産方式，生産ラインの編成，生産形態，個別生産，ロット生産，連続生産，受注生産，見込み生産，ニーズの多様化，多品種少量生産，JIT（Just In Time：ジャストインタイム），NC（Numerical Control：数値制御），自動監視装置，無人搬送車，自動倉庫，産業用ロボット，ファブレス

(3) 生産システム

生産システムのモデルと生産管理のフェーズ，及び生産管理システムの目的を理解する。また，FA（Factory Automation：ファクトリーオートメーション）システムは生産工程の自動化を図るシステムであり，設計段階から組立，検査，出荷，在庫管理などの工程において合理化を図るために，生産管理システム，生産計画を支援するツールなどを取り入れ，装置制御から工場管理まで効率的な自動化を実現することを理解する。

用語例 品質管理，工程管理，日程管理，在庫管理，設計管理，積算支援，調達管理，原価管理，利益管理，戦略管理，変化のマネジメント，CAP（Computer Aided Planning），CAPP（Computer Aided Process Planning），MRP，FMS（Flexible Manufacturing System），FMC（Flexible Manufacturing Cell），生産性指標

(4) コンピュータ支援システム

コンピュータを使用した解析，設計，開発などを行うコンピュータ支援システム，生産性を向上させるためにプロジェクトの計画や管理を支援するシステム，生産や物流，販売の商品供給・流通を統合的に管理するシステムを理解する。

用語例 CAD，CAM，CAE（Computer Aided Engineering），PDM（Product Data Management），PMS（Project Management System），CIM

3. e-ビジネス

【目標】

- EC，EDI などインターネットを介して行う e-ビジネスの仕組み，特徴，留意事項を修得し，適用する。
- データ交換の代表的な標準を修得し，適用する。

(1) EC（Electronic Commerce：電子商取引）

① 電子受発注システム

電子受発注システム，電子調達システムの仕組み，特徴，留意事項を理解する。

用語例 オンラインモール，オンラインショッピング，電子入札

② 電子決済システム

電子決済システムの仕組み，特徴，留意事項を理解する。また，電子マネーの種類，暗

号化、金融取引との関連を理解する。

用語例 金融取引、インターネットバンキング、EFT (Electronic Fund Transfer：電子資金移動)、SET (Secure Electronic Transaction)、スマートカード、IC カード・RFID 応用システム、フィンテック

③ e-ビジネスの進め方

e-ビジネス推進上の考え方、留意事項を理解する。

用語例 インターネットビジネス、オンライン商用サービス、バーチャルカンパニ、BtoB (Business to Business)、BtoC (Business to Consumer)、CtoC (Consumer to Consumer)、GtoB (Government to Business)、GtoC (Government to Citizen)、OtoO (Online to Offline)、e マーケットプレイス、オンラインマーケティング、オンライントランザクション処理、SCM、検索エンジン最適化 (SEO)、レコメンデーションシステム、ロングテール、成功報酬型広告、リスティング広告 (検索連動型広告)、マネタイズ、フリーミアム

(2) EDI

① EDI の仕組みと特徴

EDI のシステム構成、受発注や決済の仕組み、特徴、EDI の導入による利点と留意事項などを理解する。

用語例 資材調達、補充発注、貨物追跡、電子決済、Web-EDI、UN/CEFACT (United Nations Centre for Trade Facilitation and Electronic Business：貿易簡易化と電子ビジネスのための国連センター)

② データ交換での標準

取引情報の電子データ交換を実現する上で、多様な取引形態、複数の伝票フォーマットへの対応を効率良く行うためのデータ交換に関する代表的な標準を理解する。

用語例 JIS X 7011-1, JIS X 7012-1, EIAJ-EDI (Electronic Industries Association of Japan-Electronic Data Interchange) 標準, STEP (Standard for the Exchange of Product Model Data：製品モデルデータの表現及び交換に関する標準), 全国銀行協会手順, XBRL, XML-EDI, ebXML, CALS (Commerce At Light Speed), 情報伝達規約, 情報表現規約, 業務運用規約, 基本取引規約, JCA (Japan Chain Stores Association：日本チェーンストア協会) 手順 (J 手順, H 手順), JX 手順, EANCOM, 流通 BMS (Business Message Standards：流通ビジネスメッセージ標準)

(3) ソーシャルメディア

ソーシャルメディアの概念、類型、技術的背景を理解する。

用語例 SNS、電子掲示板、ブログ、ミニブログ、リアルタイムウェブ、消費者生成メディア (CGM)、IP セントレックス

4. 民生機器

【目標】

- 組込みシステムの特徴、動向、代表例を修得し、適用する。
- 民生機器の特徴、動向、代表例を修得し、適用する。

(1) 組込みシステム

コンピュータが民生機器や産業機器に組み込まれていること、これらの機器を制御する仕組み、組込みシステムの特徴、動向、代表例を理解する。

用語例 マイクロコンピュータ（マイコン）、省電力、高信頼設計、安全性設計、耐環境性、組込み OS、リアルタイム OS、リアルタイム制御、イベント、センサ、シーケンス制御、ロボティクス、ファームウェア、WPS（Wi-Fi Protected Setup）、ワイヤレス給電

(2) 民生機器

① 民生機器の特徴と動向

幅広い製品にコンピュータが組み込まれ、組込みシステムによる細かな制御や機能の提供が実現されていること、小型化、軽量化、ネットワーク化、情報機器の個人所有（パーソナル化）、インタラクティブ性の高まりなど近年の動向を理解する。

用語例 情報家電、ユビキタスコンピューティング、IoT（Internet of Things）

② 民生機器の例

炊飯器、洗濯機、エアコンなどの家電機器、デジタル TV、DVD などの AV 機器、携帯電話、スマートフォンなどの個人用情報機器、教育・娯楽機器、POS 端末、ハンディターミナル、金融端末などの業務用端末機器などがあることを理解する。

用語例 コンピュータ周辺/OA 機器、民生用通信端末機器、スマートフォン、タブレット端末、HDTV、セットトップボックス、DLNA、車載情報機器、アプライアンス、ホームネットワーク、ウェアラブルコンピュータ、センサネットワーク、センサ基地局、センサ端末、HEMS（Home Energy Management System）

5. 産業機器

【目標】

➤ 産業用電子機器の特徴、動向、代表例を修得し、適用する。

(1) 産業機器

① 産業機器の特徴と動向

幅広い製品にコンピュータが組み込まれ、組込みシステムによる細かな分析、計測、制御が実現されていること、省力化、無人化、ネットワーク化、インタラクティブ性の高まりなど近年の動向を理解する。

用語例 MtoM（Machine to Machine）

② 産業機器の例

ルータ、MDF（Main Distributing Frame：主配電盤）などの通信設備機器、車両、船舶、航空機などの運輸機器、薬物検知、水質調査などを行う分析機器、計測機器、空調などの設備機器、建設機器などがあることを理解する。

用語例 工業機器、FA（Factory Automation：ファクトリーオートメーション）機器、産業用ロボット、自動車制御システム、ADAS（Advanced Driving Assistant System）、PLC（Programmable Logic Controller：プログラマブルロジックコントローラ）、自動倉庫、自動販売機、ATM（Automated Teller Machine：現金自動預払機）、医療機器、AED（自動体外式除細動器）、患者モニタリング装置、スマートメータ（AMI）

1. 経営・組織論

【目標】

- 企業活動，経営管理，経営組織の種類，特徴，手法を修得し，適用する。
- 経営環境の変化，課題を修得し，適用する。
- 企業におけるコンピュータリテラシの必要性，有用性を修得し，適用する。

(1) 企業活動

① 企業活動と経営資源

企業は，経済的機能，営利活動，所有と経営の分離，市場での独立性などの多面的性質をもつ有機的な組織体であることを理解する。また，ヒト，モノ，カネ，情報に対する管理を理解する。

用語例 企業理念，CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任），企業文化（風土），グリーン IT

② 企業形態

企業形態の分類と特徴，準則主義，有限責任性，会社機関の分化などの特徴を理解する。

用語例 持分会社，株式会社，株式公開（IPO）

③ 企業の特徴

所有と経営の分離，ゴーイングコンサーン（継続的事業体），企業目的の多様化など，企業の特徴を理解する。

用語例 コーポレートガバナンス，IR（Investor Relations），BCP（Business Continuity Plan：事業継続計画），コーポレートアイデンティティ，コーポレートブランド

(2) 経営管理

① 経営管理とは

企業の目的を達成するために企業活動を円滑に行い，経営資源の最適配分，有効活用の仕組み作りと運用を行う経営管理の必要性，目的を理解する。また，経営管理には人的資源管理，品質管理，生産管理などが含まれること，マネジメントサイクルの考え方などを理解する。

用語例 経営目標，経営計画，事業計画，業績評価，PDCA，財務・資産・人事・情報管理，TQM（Total Quality Management：総合的品質管理）

② 経営管理の理論と展開

組織と意思決定に関する科学的アプローチの考え方，バーナード，サイモンらによる近代的経営管理論とシステム工学の関係，システム工学の特徴を理解する。

用語例 科学的管理法，経営過程論，協働システム，一般システム理論

③ ヒューマンリソースマネジメント

経営管理におけるヒューマンリソースマネジメント（人的資源管理）の重要性，OJT，目標管理，人材開発，裁量労働制など人的資源管理の手法と考え方を理解する。

用語例 エンプロイヤビリティ、年俸制、コンピテンシ、コーチング、メンタリング、ケーススタディ、e-ラーニング、ジョブローテーション、キャリア開発、選抜型人事、CDP (Career Development Program: キャリアデベロップメントプログラム)、タレントマネジメント、HPI (High Potential Individual)、MBO (Management by Objectives: 目標管理制度)、ワークライフバランス、EAP (Employee Assistance Program: 従業員支援プログラム)、ワークシェアリング、ダイバーシティ

④ 行動科学

リーダーシップ、コミュニケーション、ネゴシエーションなど企業組織における人間行動のあり方、テクニカルライティング、プレゼンテーションなどの伝えるためのモチベーション管理、コンフリクト管理の重要性、管理手法を理解する。

用語例 ロジカルシンキング、グループダイナミクス、親和図、ブレインストーミング、マズロの欲求段階説、動機づけ・衛生理論、XY 理論、期待理論、内発的動機づけ、PM 理論、SL (Situational Leadership) 理論、コンティンジェンシー理論

⑤ リスクマネジメント

企業価値を維持、向上させる上で障害となるリスクの分析、及び災害などが発生した場合にも必要な事業を継続するための計画策定の重要性を理解する。

[リスク分析手順の例]

(i) リスクの想定、(ii) 想定したリスクの影響の分析、(iii) 重要な業務の選定、(iv) 重要な業務を継続させるための計画の立案、(v) 実施可能な体制の整備、(vi) 継続して改善するために指針となる計画の策定

用語例 BCP (Business Continuity Plan: 事業継続計画)、BCM (Business Continuity Management: 事業継続マネジメント)、JIS Q 22301 (ISO 22301)、事業影響度分析 (BIA)

(3) 経営組織

経営者の職能、CEO (Chief Executive Officer: 最高経営責任者)、CIO (Chief Information Officer: 最高情報責任者) などの役職、代表的な組織構造の種類と特徴を理解する。

用語例 階層型組織 (ピラミッド型組織)、フラット型組織、職能別組織、ラインアンドスタッフ組織、機能別組織、事業部制組織、マトリックス組織、カンパニ制組織、プロジェクト組織、CEO (Chief Executive Officer: 最高経営責任者)、CIO (Chief Information Officer: 最高情報責任者)、CISO (Chief Information Security Officer: 最高情報セキュリティ責任者)、CPO (Chief Privacy Officer: 最高プライバシー責任者)、CFO (Chief Financial Officer: 最高財務責任者)、COO (Chief Operating Officer: 最高執行責任者)

(4) 経営環境の変化

国際化、業際化、ワークライフバランスを考慮した勤務形態など現代企業の特徴と経営環境の変化、及び企業が取り組むべき課題を理解する。

用語例 企業環境の内部化、IR (Investor Relations)、ディスクロージャ、アカウントビリティ、持株会社、グループ経営、SRI (Socially Responsible Investment: 社会的責任投資)、環境経営、サテライトオフィス、在宅勤務、SOHO (Small Office Home Office)、企業市民

(5) コンピュータリテラシ

企業活動にコンピュータの利用は不可欠であり、コンピュータを使いこなす能力を意味す

るコンピュタリテラシの普及や向上を図ることの必要性、有効性を理解する。

2. OR・IE

【目標】

- 代表的な OR や IE の手法を修得し、適用する。
- データの収集、整理、分析、ビジュアル表現などの手法を修得し、適用する。

(1) 線形計画法

LP (Linear Programming : 線形計画法) の手法、問題の定式化、グラフによる解法、線形計画法が有効と考えられる事例などを理解する。

用語例 シンプレックス法、配分問題、輸送問題、DP (Dynamic Programming : 動的計画法)

(2) 在庫問題

在庫管理の考え方、定量発注方式、定期発注方式の仕組みを理解する。

用語例 安全在庫、発注費用、在庫費用、EOQ (Economic Ordering Quantity : 経済的発注量)、発注点、ABC 分析、季節変動

(3) 日程計画

PERT や CPM (Critical Path Method : クリティカルパス法) の手法を理解する。

用語例 日程計画、プロジェクトスケジューリング、フローショップ、ジョブショップ、アローダイアグラム、クリティカルパス

(4) ゲーム理論

ゲーム理論の考え方を、企業活動における利害得失の具体例を参考に理解する。また、リスクに関する判断基準、意思決定に関する原理を理解する。

用語例 選択基準、戦略型ゲーム、純粋戦略、混合戦略、展開型ゲーム、ペイオフ行列 (利得表)、ゼロ和 2 人ゲーム、非ゼロ和 2 人ゲーム、マクシミン原理、ミニマックス定理、ナッシュ均衡、デシジョンツリー、決定理論、期待値原理、安定性原理、最尤^{さいゆう}未来の原理、要求水準原理、ラプラスの原理、ベイズアン理論

(5) IE (Industrial Engineering : 経営工学) 分析手法

作業時間分析法、PTS (Predetermined Time Standard) 法、ワークサンプリング法など、代表的な作業測定方法の特徴を理解する。

用語例 サブリック、作業分析、標準時間、余裕時間、稼働分析、オペレーションスケジューリング

(6) 検査手法

検査の設計の考え方を踏まえ、抜取り検査、OC (Operating Characteristic : 検査特性) 曲線、サンプリング、シミュレーションなど代表的な検査手法の特徴を理解する。また、シミュレーションの考え方、シミュレーションモデルが適切かどうかを評価、分析することの重要性を理解する。

用語例 検査特性曲線、不良率、消費者危険、生産者危険、非破壊検査、故障率曲線 (バスタブ曲線)、モンテカルロ法、実験計画法

(7) 品質管理手法

主に定量分析に用いられる QC 七つ道具及び主に定性分析に用いられる新 QC 七つ道具の手法の活用法を理解する。

用語例 品質特性、品質機能展開、不良率推定、時系列分析、管理水準、品質保証、QC 七つ道具（層別管理、ヒストグラム、パレート図、散布図、特性要因図、チェックシート、管理図）、新 QC 七つ道具（親和図法、連関図法、系統図法、マトリックス図法、マトリックスデータ解析法、PDPC（Process Decision Program Chart：プロセス決定計画図）法、アローダイアグラム法）、x-R 管理図、p 管理図、管理状態、群内変動と群間変動、群分け

(8) 需要予測

回帰分析、時系列分析など、需要予測の代表的な分析手法を理解する。

用語例 最小二乗法、決定係数、相関係数、移動平均法、指数平滑法

(9) 業務分析・業務計画

データの収集の手法、さまざまな図解とグラフ、データの整理、分析手法など、業務の分析、計画、効率的な意思決定のための手法（決定理論）を理解する。

用語例 パレート分析、G-P 分析（Good-Poor Analysis）、フォーカスグループ、質問紙法、観察法、データマイニング、ブレインストーミング、レーダチャート、クラスタ分析法、指数平滑法、デルファイ法、モンテカルロ法、決定木

3. 会計・財務

【目標】

- 企業活動と会計、財務会計と管理会計を修得し、適用する。
- 財務諸表の分析手法を修得し、適用する。
- キャッシュフロー会計、資金計画と資金管理、資産管理、経済性計算を修得し、適用する。

(1) 企業活動と会計

① 売上と利益の関係

売上高と利益、費用の関係、固定費、変動費、原価を理解する。また、損益分岐点、安全余裕率など関連する指標、変動費及び固定費の変化との関連を理解する。

用語例 販売量、機会損失、利益図表、限界利益図表、目標利益売上高、費用分解原価計算、原価制度、原価分析、原価構成、原価管理、変動損益計算書、損益分岐点

② 企業会計の手順

企業活動に対応させて、取引情報（伝票）、日常業務としての取引とその記録（仕訳）、会計期間ごとに決算及び実績評価を行うことを理解する。

用語例 仕訳帳、現預金出納帳、総勘定元帳

③ 決算の仕組み

決算の目的、仕組み、決算で作成される諸表の種類と特徴を理解する。また、子会社を含む企業グループを一つの組織とみなして決算する連結会計の目的、作成される諸表を理解する。

用語例 中間決算、四半期決算、試算表、精算表、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、株主資本等変動計算書、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結キャッシュフロー計算書、連結株主資本等変動計算書、支配力基準、有価証券報告書、会計監査、決算公告、決算短信、のれん、IFRS

④ 財務諸表

貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、株主資本等変動計算書の目的、各

諸表の貸方・借方の構成など、財務諸表の見方を理解する。また、売上総利益、営業利益、経常利益などの計算方式を理解する。

用語例 流動資産、固定資産、有形固定資産、無形固定資産、繰延資産、流動負債、固定負債、純資産、株主資本、費用、収益、販売費及び一般管理費、営業損益、営業外損益、特別損益、発生主義、保守主義

(2) 財務会計と管理会計

企業会計には、法的に定められた情報公開の仕組みである財務会計、企業活動の見直しや経営計画の策定に直結する情報を管理する仕組みである管理会計があることを理解する。

用語例 会計基準、国際会計基準、税効果会計、ソフトウェア会計、減損会計、時価会計、退職給付会計、リース会計、工事進行基準、企業会計原則、財務諸表等規則、連結財務諸表規則、原価計算、個別原価計算、総合原価計算、標準原価計算、直接原価計算、ABC (Activity Based Costing : 活動基準原価計算)、原価企画

(3) 財務諸表の分析

経営分析や経営診断の目的を理解する。また、実数法、比率法などの財務分析手法の考え方、種類と特徴、代表的な財務指標を理解する。

用語例 内部分析、外部分析、^{すうせい}趨勢法、構成比率、関係比率、静態分析、動態分析、収益性指標、資本利益率、売上高利益率、資本回転率、ROA (Return On Assets : 総資産利益率)、ROE (Return On Equity : 自己資本利益率)、ROI (Return on Investment : 投資利益率)、安全性指標、流動性、流動比率、自己資本比率、付加価値、生産性、資本生産性、労働生産性、分配率、EVA (Economic Value Added : 経済的付加価値)

(4) キャッシュフロー会計

キャッシュフロー会計の目的、キャッシュフロー計算書の対象と構成、キャッシュフロー会計の有効性を理解する。

用語例 キャッシュフロー経営、営業活動によるキャッシュフロー、投資活動によるキャッシュフロー、財務活動によるキャッシュフロー、フリーキャッシュフロー

(5) 資金計画と資金管理

経営活動に必要な資金を調達し、効率的な投資、キャッシュフローの維持ができるよう計画、調整する資金計画と資金管理の必要性や目的、資金の調達方法を理解する。

用語例 キャッシュマネジメント、資金繰り表、社債、増資、企業間信用、自己金融、ネットティング

(6) 資産管理

資産管理の目的、在庫の評価方法、減価償却、償却費を理解する。また、リースとレンタルの特徴、仕組みを理解する。

用語例 棚卸資産評価、先入先出法、総平均法、移動平均法、資産運用、ファイナンスリース、オペレーションリース、オフバランス

(7) 経済性計算

投資が適切かどうかを判断するための DCF (Discounted Cash Flow : 割引現金収入価値) 法、IRR (Internal Rate of Return : 内部利益率) 法などの経済性計算の手法を理解する。

用語例 NPV (Net Present Value : 正味現在価値) 法、DPP (Discounted Pay-Back Period : 割引回収期間) 法、コーポレートファイナンス、事業価値評価、採算比較

1. 知的財産権

【目標】

- 知的財産権にかかわる法律の考え方を修得し、適用する。
- 著作権にかかわる法律の考え方を修得し、適用する。
- 産業財産権法の中心となる 4 法の考え方を修得し、適用する。
- 不正競争防止法の考え方を修得し、適用する。

(1) 知的財産権

ソフトウェアなどの知的財産の重要性が増し、開発、流通が盛んになっていく中で、開発者の利益を守り、市場で適正利潤を得られるようにするための法律の整備が進められていることを理解する。また、知的財産の保護は国際的にも重要であり、国際的な条約が締結されていることを理解する。

用語例 知的財産戦略本部、知的財産基本法、産業財産権、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権、回路配置利用権、営業秘密、パリ条約（工業所有権の保護に関するパリ条約）、ベルヌ条約（文学的及び美術的著作物の保護に関するベルヌ条約）、万国著作権条約、PCT（Patent Cooperation Treaty：特許協力条約）、TRIPS（Agreement on Trade-Related Aspects of Intellectual Property Rights：知的所有権の貿易関連の側面に関する協定）、WIPO（World Intellectual Property Organization：世界知的所有権機関）

(2) 著作権法

著作権は複数の権利の集合体であることを理解する。また、日本では、無方式主義を採用しており、著作物を作成した時点で権利が発生しその後一定期間保護されること、著作権法で保護対象となる著作物とは何か、プログラムやデータベースも保護の対象となること、何が権利侵害に当たるのか、所定の条件を満たせば著作権者の許諾を得ることなく著作物を利用することができること、権利侵害時の救済措置を理解する。

用語例 著作者人格権（公表権、氏名表示権、同一性保持権）、著作財産権（複製権、公衆送信権、展示権、頒布権、譲渡権、貸与権）、職務著作、個人著作、二次的著作物、送信可能化、引用、私的使用、図書館、教育機関、試験問題、差止請求権、損害の賠償の請求

(3) 産業財産権法

産業の発展に寄与することを目的として制定されていること、特許法、実用新案法、意匠法、商標法の保護対象、何が権利侵害に当たるのか、権利侵害時の救済措置を理解する。

用語例 発明、考案、意匠、商標、出願、審査、登録、ソフトウェア特許、ビジネス方法の特許、差止請求権、損害の賠償の請求

(4) その他関連する法律など

商号や商標などの無断使用、営業秘密の不正取得、不正使用などの行為、利益の保護や侵害への措置について不正競争防止法を理解する。また、ソフトウェアの権利の保護には、適宜、著作権法、特許法などを利用することを理解する。

用語例 営業機密、ドメイン名の不正取得、コピープロテクト外し、差止請求権、損害の賠償の請求

2. セキュリティ関連法規

【目標】

- 我が国のサイバーセキュリティに関する施策の基本となる事項などを定めたサイバーセキュリティ基本法の考え方を修得し、適用する。
- 不正アクセス禁止法の考え方を修得し、適用する。
- コンピュータを利用した不法行為に関する刑法の考え方を修得し、適用する。
- 個人情報保護・プライバシー保護の考え方、手法・技法を修得し、適用する。
- 電子署名及び認証業務などに関する法律の考え方を修得し、適用する。
- プロバイダ責任制限法の考え方を修得し、適用する。

(1) サイバーセキュリティ基本法

サイバーセキュリティ基本法の目的や施策の基本となる考え方を理解する。

用語例 サイバーセキュリティ、電磁的方式、電磁的記録媒体、サイバーセキュリティ戦略、基本理念、国の責務、地方公共団体の責務、重要社会基盤事業者の責務、サイバー関連事業者その他の事業者の責務、教育研究機関の責務、国民の努力

(2) 不正アクセス禁止法

刑法はデータの改ざん、消去などの行為を処罰の対象にしているのに対し、不正アクセス禁止法はネットワークへの侵入、アクセス制御のための符号提供などを一律に犯罪の対象としていることを理解する。

用語例 アクセス制御機能、不正アクセス行為、不正アクセス行為を助長する行為

(3) 刑法

コンピュータの利用に関して刑事罰に該当する不法行為の種類を理解する。

用語例 不正指令電磁的記録に関する罪（ウイルス作成罪）、電子計算機使用詐欺罪、電子計算機損壊等業務妨害罪、電磁的記録不正作出及び供用罪、支払用カード電磁的記録不正作出等罪

(4) 個人情報保護法、マイナンバー法

① 個人情報保護・プライバシー保護に関する法規・ガイドライン

保護の対象となる個人情報、適用される事業者、法律違反があった場合に企業に及ぶ影響などを理解する。

用語例 個人情報保護に関するガイドライン、個人情報取扱事業者、マイナンバー制度、マイナンバー法（行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律）、特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン、個人情報保護委員会、特定個人情報保護評価、JIS Q 15001、プライバシーマーク、OECD プライバシーガイドライン（プライバシー保護と個人データの国際流通についてのガイドラインに関する理事会勧告）、EU データ保護指令（消去権ほか）

② 個人情報保護・プライバシー保護に関する手法・技法

個人情報の取得、加工、活用、保管、廃棄に関わる情報管理の手法・技法を理解する。

用語例 オプトイン、オプトアウト、第三者提供、匿名化手法（サンプリング、k-匿名化）、プライバシー影響アセスメント（PIA）、プライバシーフレームワーク

(5) 電子署名及び認証業務に関する法律

インターネットを活用した電子商取引など、ネットワークを通じた社会経済活動の円滑化を図ることを目的として電子署名及び認証業務について規定していることを理解する。

用語例 認定認証事業者、電子証明書

(6) プロバイダ責任制限法

Web サイトの利用や電子商取引の普及、拡大に伴い、サイト上の掲示板などでの^{ひぼう}誹謗中傷、本人の承諾を得ない個人情報の公開など、個人の権利が侵害された場合に、誰がどのような責任を問われるのかを規定した法律であることを理解する。

(7) 特定電子メール法

営業活動を目的とするメールを特定電子メールと呼び、このメールを送信する際の禁止事項などを規定した法律であることを理解する。

(8) 情報セキュリティに関する基準

情報セキュリティに関する基準、指針を理解する。

用語例 コンピュータ犯罪防止法、コンピュータウイルス対策基準、コンピュータ不正アクセス対策基準、ソフトウェア等脆弱性関連情報取扱基準、政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準、サイバーセキュリティ経営ガイドライン、スマートフォン安全安心強化戦略、ソーシャルメディアガイドライン（SNS 利用ポリシー）

3. 労働関連・取引関連法規

【目標】

- 代表的な労働関連の法規の考え方を修得し、適用する。
- 代表的な取引関連の法規の考え方を修得し、適用する。
- 代表的な企業間の取引にかかわる契約の考え方を修得し、適用する。

(1) 労働関連の法規

① 労働基準法

労働条件の最低基準を定めた労働基準法に関し、就業規則、賃金、労働時間、労働災害、解雇・退職・定年制などを理解する。

用語例 36 協定、裁量労働制、フレックスタイム制、母性保護

② 労働者派遣法

労働者を派遣する場合、労働者、派遣先、派遣元の三者がどのような契約に基づいて、どのような関係にあるかを理解する。また、派遣契約と請負契約の特徴を理解する。

用語例 労働者派遣契約、雇用契約、指揮命令、偽装請負、二重派遣の禁止

③ その他の法律

その他の労働関連法規を理解する。

用語例 労働契約法、労働安全衛生法、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法、パートタイム労働法、公益通報者保護法

(2) 取引関連の法規

① 下請法

下請法の目的、規制の対象、仕組みを理解する。

用語例 製造委託、役務提供委託、情報成果物、親事業者、下請事業者、資本金

② 民法

契約の基礎、売買契約の成立、効力、履行・不履行など、民法で規定される取引法と取引上重要な制度の仕組みを理解する。

用語例 (準) 委任契約、請負契約、実費償還契約 (CPIF)、Time&Material 契約 (T&M, CPFF)、成果物の完成責任

③ 商法

商法で規定される企業間の取引上、重要な制度の仕組みを理解する。

用語例 瑕疵担保責任

④ その他

インターネットを利用した取引などで考慮すべき法律を理解する。

用語例 電子消費者契約法、特定商取引法、景品表示法、クリエイティブコモンズ、パブリックドメイン

(3) 企業間の取引にかかわる契約

① 外部委託契約

自社以外の事業者にも業務を委託する場合に締結する契約であり、締結に当たっては関連する法律などに配慮しなければならないことを理解する。また、外部委託契約の契約形態について、請負契約と(準)委任契約の違いを理解する。

② 守秘契約

自社以外の事業者にも業務を委託する際に、自社の秘密情報を開示する場合、その秘密情報を守るために NDA (Non-Disclosure Agreement : 守秘契約) を締結することを理解する。

③ ソフトウェア使用許諾契約 (ライセンス契約)

ソフトウェアの知的財産権の所有者が、第三者に当該ソフトウェアの利用許諾を与える場合に条件を取り決める契約であることを理解する。また、許諾する条件により様々な契約形態があることを理解する。

用語例 ボリュームライセンス契約、サイトライセンス契約、シュリンクラップ契約、CAL (Client Access License)、フリーソフトウェア、シェアウェア、OSS (Open Source Software) ライセンス、GPL (General Public License)、LGPL (Lesser General Public License)、BSD (Berkeley Software Distribution)、コピーレフト (Copyleft)

④ ソフトウェア開発契約

委託に基づいて、ソフトウェアの開発を受託するソフトウェア契約であることを理解する。

用語例 ソフトウェア開発委託モデル契約、情報システム・モデル取引・契約書

4. その他の法律・ガイドライン・技術者倫理

【目標】

- IT 基本法、情報化と法制度の関連の考え方を修得し、適用する。
- コンプライアンス、技術者倫理、遵守すべき法律・基準の考え方を修得し、適用する。
- 情報公開法の考え方を修得し、適用する。

(1) IT 基本法

IT を活用し、急激かつ大幅な社会経済構造の変化に適確に対応し、ネットワーク社会の形

成に関する施策を迅速かつ重点的に推進していくことを目指して、基本法として制定されていることを理解する。

用語例 IT 戦略本部（高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部）、高度情報通信ネットワークの形成、電子商取引の促進、行政の情報化、公共分野における情報通信技術の活用

(2) コンプライアンス

企業のコンプライアンスの義務と責任、コンプライアンスに違反した場合の法的制裁やリスクを理解する。

用語例 企業理念、企業倫理、人権、社会貢献、コーポレートガバナンス、CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）、ステークホルダ、内部統制、輸出関連法規、システム管理基準

(3) 情報倫理・技術者倫理

情報の不適切な利用から利用者を保護する法令、マナーに関する情報倫理、高度な専門技術者に期待される技術者倫理の重要性、実際に倫理的な行動をとることの必要性を理解する。

用語例 技術者の倫理綱領、技術者の社会的責任、モラル（遵法の意識）、プロフェッショナルリズム

(4) その他の法律・基準など

① ネットワーク関連法規

遠隔地とのデータ交換、情報ネットワークの構築を行う通信事業者に課されている代表的な法規を理解する。

用語例 電気通信事業法、電波法、プロバイダ責任制限法、通信傍受法

② 金融商品取引法

金融商品取引法が企業内容などの開示の制度、取引の公正性を確保する制度を通じて、国民経済の健全な発展及び投資者の保護に資することを目的とする法律であることを理解する。

用語例 有価証券報告書、内部統制報告書

③ 会社法

会社法は、機関設計、合併などの組織再編行為など、会社にかかわる各種の制度のあり方を体系的に規定した法律であることを理解する。

用語例 株主総会、取締役、執行役、監査役、委員会設置会社、事業報告、内部統制

④ 税法

税法を遵守した公正な会計処理を行うことを理解する。

用語例 法人税法、消費税法

⑤ e-文書法

各種法令によって保存が義務付けられている文書について、電子化された文書ファイルでの保存が可能であることを理解する。

用語例 電磁的記録

⑥ 電子帳簿保存法

国税関係帳簿書類について、磁気媒体での保存に関して規定されていることを理解する。

⑦ PL 法

欠陥があるプログラムを組み込んだハードウェアの使用などによる損害に対して適用される PL (Product Liability : 製造物責任) 法の目的、規制の対象、仕組みを理解する。

⑧ 情報公開法

国の行政機関、独立行政法人などに対して、誰でも行政文書や法人文書の情報公開の開示請求ができることを理解する。

⑨ 環境関連法

環境に配慮する様々な法律の中で、システムや IT 機器の取得、廃棄に関連する規制を理解する。

用語例 廃棄物処理法、リサイクル法

⑩ 国際基準、輸出関連法規

IT 機器やソフトウェアの輸出に関する規制、海外での利用に関する規制を理解する。

用語例 CE マーク、RoHS 指令、外国為替及び外国貿易法 (外為法)、米国輸出関連法

5. 標準化関連

【目標】

- 代表的な標準や規格、標準化団体や関連機構の役割、国際認証の枠組みを修得し、適用する。
- システム開発・取引、ソフトウェアやデータの標準を修得し、適用する。

(1) 標準・規格と標準化団体

① 日本工業規格

JIS (Japanese Industrial Standards : 日本工業規格) は、工業標準化法に基づき JISC (Japanese Industrial Standards Committee : 日本工業標準調査会) の答申を受けて、主務大臣が制定する工業標準であることを理解する。

用語例 JIS (Japanese Industrial Standards : 日本工業規格), JIS X 部門 (情報処理), JIS Q 部門 (管理システム), JISC (Japanese Industrial Standards Committee : 日本工業標準調査会), JSA (Japanese Standards Association : 日本規格協会)

② 国際規格

IS (International Standards : 国際規格) は ISO (International Organization for Standardization : 国際標準化機構) で制定された世界の標準であること、国際標準化機構は各国の代表的標準化機関からなり、電気及び電子技術分野を除く工業製品の国際標準の策定を目的としていることを理解する。

用語例 IS (International Standards : 国際規格), ISO (International Organization for Standardization : 国際標準化機構), 国際認証

③ その他の標準

その他、関連する標準・規格、標準化団体、関連機構の役割を理解する。

用語例 ITU (International Telecommunication Union : 国際電気通信連合), IEC (International Electrotechnical Commission : 国際電気標準会議), IETF (Internet Engineering Task Force : インターネット技術タスクフォース),

ANSI (America National Standards Institute : 米国規格協会), IEEE
(Institute of Electrical and Electronics Engineers : 電気電子学会)

(2) デファクトスタンダード

デファクトスタンダードは事実上の標準として広く用いられている規格, 基準, 製品などであることを理解する。

用語例 OMG, W3C, デファクトスタンダード, デジュレスタンダード

(3) 開発と取引の標準

- ① 開発プロセス, 取引プロセスの標準化
ソフトウェア開発や取引の各工程での作業, 役割分担などの標準を理解する。

用語例 SLCP-JCF (共通フレーム), JIS X 0160, JIS X 0170

- ② 環境や IT セキュリティ評価の標準
環境や IT セキュリティ評価の標準を理解する。

用語例 ISO/IEC 14000, JIS Q 14001, ISO/IEC 15408

(4) ソフトウェアの標準

オブジェクト指向プログラミングの基盤となる標準の役割と内容を理解する。

用語例 CORBA, OMG, EJB (Enterprise Java Beans)

(5) データの標準

電子データ交換を行う際の文字コードやバーコードの代表的な標準を理解する。

用語例 文字コードなどの各種コード, JIS コード, EBCDIC (Extended Binary Coded Decimal Interchange Code) コード, シフト JIS コード, Unicode, JAN コード, QR コード, ITF コード, ISBN コード, 画像ファイル (EPS, JPEG, GIF, BMP, TIFF, Exif), 動画ファイル (MPEG), 音声ファイル (MP3, WMA, RealAudio, AIFF), 文書ファイル (SGML, XML, HTML, TEX), データフォーマット (CSV 形式, SYLK 形式)

(6) 国際認証の枠組み

国際認証の枠組みを理解する。

用語例 適合性評価, 適合性評価機関, 認定機関, 認証機関, 試験機関

情報処理技術者試験

－ 応用情報技術者試験（レベル3） シラバス（Ver 4.0）－

独立行政法人情報処理推進機構
IT 人材育成本部 情報処理技術者試験センター
〒113-8663 東京都文京区本駒込 2-28-8
文京グリーンコートセンターオフィス 15 階
TEL：03-5978-7600（代表）
FAX：03-5978-7610
ホームページ：<http://www.jitec.ipa.go.jp/>

2016.5